

福島市民憲章作文コンクール

作品集の発刊に寄せて

「福島市民憲章作文コンクール」は、市民憲章の普及、啓発のため市内の中学一年生を対象に行っており、十四回目の開催となる今回は、私立中学校を含む市内二十校から百四十五点の応募をいただきました。

応募数は毎年右肩上がりで増加しており、今年度は過去最多数の応募となりました。応募いただいた生徒のみなさんに御礼を申し上げますとともに、本コンクールを通して、市民憲章の精神がさらに多くの皆様に浸透される機会となるよう願っております。

さて、応募のありました作品を読ませていただきましたところ、市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」の三つの項目に関わる作品が多く見受けられました。特に、ごみ問題や交通ルールについてなど、身近な問題について取り上げ、自分達の経験からその問題を解決するための方法や福島市をよりよくするための方法について真剣に考えるひたむきな姿勢を読み取ることができました。住む中で見えてくる課題を、他人事ではなく自分達の課題として捉え、小さ

なことでも自分から始めていきたいという前向きな気持ちを強く感じる内容でした。

同世代の中学生の皆さんをはじめ、ぜひ大人の方々にも読んでいただきたい内容です。

福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年四月に制定されました。これからも、市民憲章の意義を一人でも多くの市民の皆様にお伝えし、「住んで良かったと、心から思える福島市」になりますよう普及啓発に努めてまいりますので、皆様もぜひ市民憲章を日常生活に活かしていただきますようお願い申し上げます。

結びに、本コンクールの開催にあたり、各学校で作文指導にあたってくださいました先生方をはじめ関係各位に対しまして、心より御礼を申し上げます。

平成三十一年一月

福島市民憲章推進協議会会長

山 本 和 宏

ふるさとへの自信と誇り

未来を創る声を聞く

教育は三十年後の未来を創る仕事だ。現在の中学生在が三十年後には主役となって、人を創る。地域を創る。未来を創る。それだけに大切にしたいものがある。育てていかなければならないものがある。それが、ふるさとへの自信と誇り「福島プライド」だ。「福島市民憲章作文コンクール」は、そのきっかけになったはずだ。文字にした言葉は消えない。紙面ばかりでなく、心の中にも刻み込まれる。

コンクール開催の企画をしてくださった方々、ご指導いただいた先生方、応募した中学生諸君。支援して下さった方々、多くの皆様に感謝申し上げます。

自分を大切にすること。そして、自分だけでなく他の人も大切にする。友や学級や学校、家族、そして地域。それができたら、福島市、福島県、日本、地球も大切にできる人になる。未来を創る若者達の声は新鮮で力強い。

わたしの声で未来を創ろう

明日の夢を聞いてもらおう

輝く希望を聞いてもらおう

できないことはない

聞いてもらえる人がある

友がいる

家族がいる

地域の人がある

わたしの声を待っている人がある

あなたの声で未来を創ろう

明日の夢を語ってもらおう

輝く希望を語ってもらおう

できないことはない

聞いてもらえる人がある

友がいる

家族がある

地域の人がある

あなたの声を待っている人がある

みんなの声で未来を創ろう

明日の夢をかなえよう

輝く希望をかなえよう

できないことはない

わたしとあなたの声を合わせれば

小さな声でも大きくなる

大きな声ならみんなに届く

みんなに届けば未来ができる

声を出す勇気をもとう

声を聞く力をつけよう

それだけで、たったそれだけで

わたしとあなたの未来を創ろう

ふるさとへの自信と誇り、福島プライド

平成三十一年一月

福島市民憲章推進協議会委員

福島市中学校長会 福島市立西根中学校長

古川

豊

目次

◆金賞

親切で愛情あふれる行動

福島市立平野中学校

紺野莉歩……………1

◆銀賞

大好きな福島に
福島 の 風

福島市立福島第一中学校
福島市立信夫中学校

千野地梨花……………2
葉洋輔……………3

◆銅賞

福島をよくするために
僕の思い描く町づくり
「ちよつとしたこと」を大切に

福島市立福島第一中学校
福島市立渡利中学校
福島市立北信中学校

菅野彩奈……………4
上野遥己……………5
佐藤遥……………6

◆佳作

福島 の 自然
みんな大好き福島の自然大作戦！
福島市のために
希望にみちあふれる福島市
僕の大好きなまち
『福島市民憲章』について
『ありがとう』のまち
安心のある福島市
福島への愛で福島を創る
親切の連鎖
緑あふれるふくしま

福島市立福島第一中学校
福島市立福島第一中学校
福島市立福島第四中学校
福島市立福島第四中学校
福島市立信陵中学校
福島市立信陵中学校
福島市立信陵中学校
福島市立西信中学校
福島市立西信中学校
福島市立平野中学校
福島市立平野中学校
福島市立平野中学校

川井晴……………7
小野依……………8
藤倉那……………9
高木美沙……………10
大和司……………11
佐藤綾乃……………12
梅津一真……………13
阿部宇惟……………14
亀岡知央……………15
大内音羽……………16
杉田沙羅々……………17

きれいな福島市へ
 親切な福島市民になろう
 たくさんの人と接していく中で
 わたしの安全なまち
 私の願う福島市
 家族や友達との信頼関係
 ごみのない福島市にするために
 自然豊かな福島をつくるために
 みんな住みやすい、ふるさと『福島』
 福島を変えていくためにできること
 捨てない社会
 どんな人も健康でまきを守れる町
 安全で健康なまちづくりをするために
 安全で健康な町づくり
 空も水もきれいな福島市
 自然がいっぱい福島市
 福島への恩返しのため私達が出来る事
 親切で愛情あふれる福島をつくろう
 福島を明るくするために
 明るくたくさんの方がおとずれるために
 よりよい福島市をつくるために
 市民憲章のために
 緑豊かな町をつくるためには
 あいさつで友情あふれる福島に
 水や緑があり安全な町にするために
 きれいにしよう湖や川

福島市立福島第一中学校	大久保	壘	18
福島市立福島第一中学校	森口	愛望	19
福島市立福島第一中学校	鏡田	あすか	20
福島市立福島第一中学校	幕田	楓巴	21
福島市立福島第一中学校	齋藤	瑞輝	22
福島市立福島第一中学校	中濱	佑月	23
福島市立福島第二中学校	高橋	陽菜	24
福島市立福島第二中学校	阿部	大夢	25
福島市立福島第二中学校	紺野	七菜子	26
福島市立福島第二中学校	日比	亜緒	27
福島市立福島第二中学校	武田	汐里	28
福島市立福島第二中学校	佐藤	暖瀬	29
福島市立福島第二中学校	小澤	明莉	30
福島市立福島第二中学校	遊佐	茉未子	31
福島市立福島第二中学校	藪内	優芽	32
福島市立福島第三中学校	鈴木	もも	33
福島市立福島第三中学校	遠藤	萌花	34
福島市立福島第四中学校	石澤	七奈	35
福島市立福島第四中学校	伊藤	颯也	36
福島市立福島第四中学校	佐藤	梨乃	37
福島市立福島第四中学校	佐久間	優衣	38
福島市立福島第四中学校	山田	悠雅	39
福島市立福島第四中学校	瀬谷	幸奈	40
福島市立福島第四中学校	明石	紀帆	41
福島市立福島第四中学校	庄子	遥菜	42
福島市立岳陽中学校	渡辺	保奈美	43

『福島市民憲章』とは何か

自然あるきれいな市を目指す

私たち自慢のまち

親切で愛情あふれるまちへ

自然は宝物

美しいまちづくり

私の大好きな町『福島』

みんなが安全に健康に過ごすために

歴史からよりよいまちを目指す

震災後の福島

大切な『福島市民憲章』

親切で愛情あふれるまち

私の好きな道

福島のいいところ

これからの福島

僕が思う福島市

思いやりと絆の街づくり

安全で健康なまちって何だろう？

輝く福島市の自然

みんなの事を考えた心がけ

福島を大切に

自然豊かな福島に：

福島市の交通について

未来の福島へできること

福島市立北信中学校	福島市立北信中学校	福島市立北信中学校	福島市立北信中学校	福島市立信陵中学校	福島市立信陵中学校	福島市立信陵中学校	福島市立信陵中学校	福島市立信陵中学校	福島市立信陵中学校	福島市立蓬萊中学校	福島市立蓬萊中学校	福島市立渡利中学校	福島市立渡利中学校	福島市立渡利中学校	福島市立渡利中学校	福島市立渡利中学校	福島市立渡利中学校	福島市立岳陽中学校	福島市立岳陽中学校	福島市立岳陽中学校					
渡邊	鈴木	櫻井	坂本	齋藤	阿部	青木	飯田	齋藤	菅野	永沼	高階	大杉	佐藤	金	荒井	阿部	根本	高野	高野	白井	佐藤	佐藤	馬庭	高野	
拓哉	彩良	阜來	朱里	凜彩	真大	芽生	弥姫	亮太	達規	知弥	俐緒		優大	南健	桃果	ななみ	華奈	心結	あかね	若奈	春花	謙伸	利央	姫乃	
69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44

福島市立平野中学校	福島市立平野中学校	福島市立平野中学校	福島市立平野中学校	福島市立平野中学校	福島市立大鳥中学校	福島市立大鳥中学校	福島市立大鳥中学校	福島市立大鳥中学校	福島市立大鳥中学校	福島市立大鳥中学校	福島市立大鳥中学校	福島市立大鳥中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立西信中学校	福島市立北信中学校	福島市立北信中学校	福島市立北信中学校	福島市立北信中学校						
桑野歩武	島田果南	清野優里	阿部瑛太	茂木瑠星己	樅山喜陸	朝倉莉江	飯田ヒカル	岡崎ゆう七	大西星緒	仙波莉緒	菊池菜々美	菅野瑠々律	湯野川歌心	登坂千夏	西山実玖音	樽川琴響	長谷部友里	山崎詩織	三本奏	松田希南	佐々木優花				
95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70

気持ちのよい町づくり

福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立野田中学校	福島市立野田中学校	福島市立野田中学校	福島市立信夫中学校	福島市立信夫中学校	福島市立信夫中学校	福島市立信夫中学校	福島市立信夫中学校	福島市立信夫中学校	福島市立松陵中学校	福島市立松陵中学校	福島市立松陵中学校	福島市立松陵中学校	福島市立松陵中学校	福島市立西根中学校	福島市立西根中学校	福島市立西根中学校	福島市立西根中学校	福島市立西根中学校	福島市立西根中学校	福島市立平野中学校			
多田彩花	梅津妃菜	伊藤明純	金田茉奈	泰藤心風	佐藤由唯	佐藤菜月	黒本みのり	松村響	中池美宥	菊永柚芽	末沼陽羽	鈴木彩乃	柴田佳蓮	宮崎果穂	星真緒	佐藤悠姫	阿部明羽	山岸羽菜	森七海	三星凜	平野珠月	佐久間愛	石田大和	高木大輔	
121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96

福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立吾妻中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校	福島市立飯野中学校
梅津愛	横澤和音	瀧川慈音	渡邊陽生	米田倅志	佐々木萌恵	西坂洸希	佐々木美憂	二瓶真緒	尾島健太	朝倉ひなた	阿曾紗耶香	阿部夢叶	安齋望花	荒川信	大嶋心実	高槻華	東海林よつ葉	三浦凜乃亜	桑島鼓太郎	熊倉愛子	有賀保乃香	斎藤莉桜	三瓶日菜子	
122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	

金賞

「親切で愛情あふれる行動」

福島市立平野中学校

紺野 莉歩

私の周囲には、たくさんさんの愛情があふれている。今回この福島市民憲章を考えた時、真っ先に思い出したことがある。

小学生のころ、夏休みの朝は公園に集まりラジオ体操をしていた。そのときは、公園が整備されていることはあたりまえのことだと思っていた。

しかし母が、

「子供達がラジオ体操を少しでも快適に行えるように、地域の方々がその時期に合わせて、公園の草むしりをしてくれているんだよ。」

と教えてくれた。私はとても驚いた。公園の草が生えていなかったことさえ、気づきもしなかった。そして、陰から私達を見守り、支え続けてくださる地域の方々の存在に、今気がつくことができた。

また、冬になるとたくさんさんの雪が降る。

特に、私の家の前は国道のため、車道を大きな除雪車が通り、歩道にたくさんさんの雪が積もる。すると、朝早くから近所の方が私達の通学路を除雪してくれるのだ。自分の家の前だけでなく、私達の家の前も、当然のように除雪されており、大雪の日にも安全に登校することができた。

朝早く、寒い時にも関わらず、道を通る人のことを考え除雪する姿を思うと、とても感激し、尊敬する気持ちをもった。

その他にも、地域のお祭りで演奏する太鼓を、毎年教えてくださる方々もいる。

お祭りまでの期間、毎日のように私達の練習に付き合ってください、そのおかげで「地域の音」を伝えられ、演奏する太鼓を喜んでくださる方もいるのだ。

このことから、歴史ある文化を次の世代へつなげていくためには、「教えよう」という優しく、あたたかい気持ちをもつ人の存在が必要だということがわかった。

このように、普段の何げない生活の中にも、親切で愛情あふれる方々の存在がある。では、私達にできることはなんだろうか。お年寄りの方に積極的に声をかけ、話相手

になることや、困っている人

「大丈夫ですか。」

という一言をかけることなど、一市民として、できることはたくさんあるはずだ。

地域の方から頂いた優しさを別の方へとつなぐよう、行動へ移していきたいと思う。

こういった、一人一人の小さな愛情あふれる気持ち、福島市民憲章の一つである「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という理想の実現へつながるのではないだろうか。

銀賞

「大好きな福島に」

福島市立福島第一中学校

野地梨花

私は福島に住んでいる。福島に生まれ、福島で育った。そんな中、大好きな福島の一つに、「自然」というものがある。

空も水もきれいなみどりのまち。福島市民憲章のうちの一つだ。私はこの一文に関心を持った。

思えば七年前の三月。私達の街を大震災がおそった。福島 of 自然は一瞬で崩れ被災した街と化した。「一日でも早い復興を」という言葉にはげまされながらも、暗い日々が続いた。思い出したくない。忘れたい。だが、忘れてはならない。そんな気持ちを抱いて今の私がいる。

そして今年、中学生になった。登下校をする時は必ず鳥谷野橋を通る。いつも目線は地面だったが、ふと顔を上げるとそこにはすばらしいものがあつた。緑で生いしげる木が立ち並ぶ、美しい山。遠くからたく

さんの水を運ぶ、美しい川。水色のパステルを使ったような澄みきつた雲一つない空。歩きながらも、目をうばわれた。それは、晴れの日も、雨の日も変わらなかつた。四季折々様々な生き物も現れ、橋を通る度、心がいやされた。また、自然たちは顔を持つているようにも見えた。普段はおだやかだが、台風や嵐が近づくと、少し荒れた顔。そんな所も福島の自然の魅力だと感じた。中学に進級し、新しい発見がまた一つ増えた。

近年、建物建設などしてたくさん of 自然が失われている。よく「土地募集」などという言葉も目にする。そのことが全て悪いわけではないが、少し悲しくなる。「空も水もきれいなみどりのまち」をつくっていくための市民憲章というのは、私たちから行動すべきことではないだろうか。まずは、自分にできることを探し、その必要性を考へることが大事だ。例えば、水が無駄使いない。毎日水は使うが、水圧を少し弱めてみる。このような少しのことでも、福島の自然を守ることができると考えた。一日一個、ささいなことでも協力をすれば、大

きくなる。私の学級で言っているように、協力はかけ算だ。一人一人がそのことに對して意識をもてば、未来は良い方向へ走っている。今以上に緑の豊かな街を作っていくことは私達の未来を自分達が築っていくことと同じだ。これからは福島市民憲章を生活の中でも重視して緑豊かで笑顔いっぱい of 福島を作っていきたい。

銀賞

「福島」の風

福島市立信夫中学校

千葉 洋輔

僕は、虫の声と優しい風を感じながら安心して眠りに入る。至福の時だ。

小学校の四年間、父の仕事の関係で福島を離れ都会で生活した。都会は、見たこともないぐらいにビルやマンションが立ち並び、欲しい物は何でもそろう店がすぐ近くにあった。僕は最初こそ動揺したが、その便利さにぎやかで明るい街にすぐ慣れて毎日楽しくすごした。友達もすぐできて、大好きなサッカーもはじめた。

しかし、慣れてくるとそれまで気づかなかったことが見えてきた。街中を自転車で行くと、車は猛スピードで走り、夜中にはバイクがけたたましく爆音をならす。友人との関係も少し変化した。僕は東北でうまれのんびりしているし、言葉もゆっくりしている。言葉のスピードや考え方に何かが違うことを感じ始めていた。

そんな時、父がまた福島に戻ることになった。僕は動揺した。この便利でにぎやかな何不自由ない都会の生活に染まっていた自分は正直、田舎に戻るの嫌だと思った。

そして福島に戻り、少し経ったある日、窓を開けていると蛙の声。久しぶりだった。なんだか妙に心が落ち着いた。窓からは美しい緑が広がり、さわやかな風が家を吹き抜けた。身体と心がふわりと軽くなり、大きく深呼吸吸し、緑のかおる空気を思い切り吸い込んだ。

学校では当初の心配をよそに友達もすぐできた。サッカーをやるうと誘ってもらい大好きなサッカーを福島でも始めた。先輩や先生もみんな優しくしたので、すぐに溶け込むことができた。おっとりした福島弁も僕の耳にはとても心地よかった。

虫の声や緑の風、美しい花々と心落ち着く優しいかおり、しんと積もる雪の凜とした静けさに心が洗われた。僕は「福島」の優しい風に包まれた。

夜空を見上げればおどろくほど美しい星空。都会の明るさや胸騒ぐにぎやかな音は

聞こえないが、福島にはほっとする音が聞こえる。

僕は今、毎朝うつくしい木々の緑と青く澄んだ空を見上げ、優しい風を感じながら学校に向かってペダルを踏む。

僕はこの「空も水もきれいなみどりのまち」美しい福島を次の世代にも感じて欲しい。正直大都会の華やかさが恋しくなることもある。しかし、美しい環境がどれだけ大切な、震災を経験した僕らはよりいっそう感じると思う。

僕達に何ができるか、具体的にはまだ思いつかないが、僕が包まれた「福島」の優しい風を忘れなければ、必然的に行動ができると信じている。

銅賞

「福島をよくするために」

福島市立福島第一中学校

菅野 彩奈

福島には、「自然」がたくさんある。その中でも私は、花について関心がある。花は咲いているだけではなく、アートや生け花などに使われている。そのことによつて人に感動をあたえてくれる。特に、福島では有名な花見山がある。春になると満開になった桜がとても美しい。花見山だけではない。他にも花が咲いて美しい場所はたくさんある。

私は、福島駅東口前広場にある花のアートでつくられた花時計が大好きだ。季節によつて変わる花時計は、私にとつて駅に行つた時のひとつの楽しみでもある。このように福島には目で見て感動をあたえられる場所がたくさんある。だから、今以上の感動が体感できる場所がたくさん増えることを願う。そのような場所がたくさん増えることで、たくさんの人達の心をいやせる

ような気がする。

福島市は、市街地から車や交通機関を使うとすぐの場所に緑や季節を感じることもができる場所がたくさんあるので、とても恵まれた環境だ。

福島といったら「果物」というのもひとつだろう。果物と同じように代表とされるくらいに「自然」もおすすめできる街にしたい。

そして、福島は水がきれいだ。水がきれいだということは、それだけ環境が汚染されていない証拠だろう。一部ではゴミ問題があるけれど、その一方ではゴミの分別や日頃のゴミのマナーがあるから水がきれいなのだ。一人ひとりがマナーを守ることですらにきれいな水が保たれるであろう。きれいな水があればおいしいお米や野菜、果物などがたくさん実り、それもまた「おいしい福島の食べ物」として自慢できるだろう。

震災後は、風評被害もあり地産地消が厳しい時もあつた。けれど、今は色々な人達の努力のおかげでお店や給食などにも地産地消が取り入れられている。福島をより良

い街にするためにも「豊かな自然」、「きれいな水」を今以上に大切にしていかなければならない。

二年後に開かれるオリンピックでは、福島市でも野球、ソフトボール競技が開催されることが決まっている。その時には、日本各地のほか世界の人々がたくさん福島を訪れるだろう。その時に、少しでも多くの人に自然を目で見て感動してもらえることができ環境づくりをしたい。そのためにも、日頃の生活において、ゴミをなるべく増やさないようにしたり、できるだけ使つたものはリサイクルができるように自ら進んで取り組んでいきたい。

銅賞

「僕の思い描く町づくり」

福島市立渡利中学校

上 竹 遥 己

僕の住んでいる町の道路には、トチノキという街路樹とその間にツツジの木が植えてあります。街路樹は、街並みに統一感を与え、沿道の景観に彩りや季節感をもたらします。また、ガードレールと同じ役割や、歩道への車の侵入を防ぎ、暑さや強い風、雨などを和らげてくれる役割があります。

しかし、四、五年前から街路樹のもたらし問題が出てきました。街路樹の根が成長し道路を壊してしまうことや、トチノキは葉が大きいので枯れた葉が歩道に溜まり掃除が大変なことです。他にも、トチノキはカミキリムシの繁殖場となるため、カミキリムシが卵を産んだ木は栄養分が失われ枯れてしまいます。枯れた木は枝が折れやすく、道路を走っている車や歩行者にぶつかる危険があります。

このような問題から、地域の会長が市に

お願いし、街路樹の伐採が本格的に始まりました。トチノキの伐採によって町が安全になることは嬉しいことですが、このトチノキは僕の思い出がつまった木でもありません。僕が小さい頃は、春に芽が出たトチノキの葉は優しい緑で新学期を迎えてくれました。夏には力強い緑が沿道にそびえ立ち、暑い夏の暑さを和らげてくれました。街路樹で蝉が鳴き暑い夏を感じていました。秋には落ち葉となり夏の終わりを感じます。落ち葉の掃除は地域一体となって行います。冬は枝に雪が積もり、白くなった枝は白銀の景観へ変わります。街路樹は、四季それぞれの景観を楽しむことができ、町を生き生きと彩ります。気が付くところ数年、真夏に家に居て蝉の鳴き声を聞かなくなりました。元氣のない木には蝉が来ないのかもしれません。

僕の町の街路樹は役目を終えたのだと考えることにしました。そこで、次は今後新しくできる町をどう作るか考えてみました。街路樹にはハナミズキが良いと思います。なぜなら、ハナミズキは成長が遅く管理しやすいからです。成長が早いと道路の

通行の障害になります。また、花は白やピンクがありとてもきれいです。ただ一つ問題があり、「うどんこ病」という病気になりやすいので定期的な薬剤の散布が必要です。町に住んでいる人々が一体となり街路樹の手入れや掃除を行うことは、人と人とのつながりを増やします。

僕の住んでいる町には街路樹が無くなりますが、ツツジの木はそのままの状態が残っています。そのツツジの木の緑を大切に、町で行っている「花いっぱい活動」や奉仕作業に積極的に参加し、きれいな町を僕の子供にも見せてあげたいと思います。

銅賞

「ちょっとしたこと」を大切に」

福島市立北信中学校

佐藤 遥

美しい市って、いい言葉だと思います。どこに行ってもポイ捨てが無いと、歩くのが気持ちがいいです。

では、福島市は全くポイ捨てが無く、美しい市だと胸を張って言うことができますでしょうか。私は言えないと思います。なぜなら、私が小学生の時、下校時に塾の勧誘の方がチラシを配っている事が多くありました。チラシと言っても、袋の中にチラシとペンや消しゴムなど、おまけのプレゼントが入っていて、セットのような物でした。もちろん小学生達は喜んでもらっていました。おまけのプレゼント欲しさにです。案の定、下校通路はおまけのプレゼントだけが取り出された勧誘のチラシと袋で散らかっていました。正直言って、腹が立ちました。いくらプレゼントが欲しくても、要らない物はポイ捨てすればいいという考え

方が氣にくわなかったからです。その後私と友達で全て拾って家に持ち帰りました。それだけではありません。福島市はお祭りも有名だと思います。伝統を大切にしているすごいと感心しています。ですが、お祭りの後の会場は、出店で買った食べ物のゴミが散乱していました。残念に思います。どうして自分が出したゴミを責任を持って家に持ち帰らないのだろうかとも思いました。福島市はこのままで良いのでしょうか。現状を変えていく必要があるのではないのでしょうか。私だったら、歩く道にゴミが落ちている市はいやです。どこを歩いてもきれいな市がいいです。ポイ捨てが無ければ市は美しくなるし、市民は気持ちがいいはず。ポイ捨てを無くすことは、まさに一石二鳥なのです。

現状を変えていくために、今すぐ自分達ができることがあると思います。それは、ポイ捨てをしないこと。これだけです。そして余ゆうがあつたら周りの人に声かけをするのも効果的だと思います。あるいは、落ちているゴミを見つけたら拾うことが望ましいですが、拾うゴミが無ければいいだ

けの話です。つまりは、一人一人の意識だということ。貴方がいまポイ捨てしたゴミは誰が拾いますか。誰が拾ってくれるか分かりません。では貴方がポイ捨てをしなれば良いのです。このように、拾ってくれる誰かに頼るのではなく、市民一人一人が美しい市にするために、ポイ捨てをしないように気を付けることが、一早く、そして簡単に美しい市を目指せると思います。市民の「ちょっとしたこと」が大きな福につながっていきます。美しい市を目指して、「福がいっぱいふくのしま」にしていきたいです。

佳作

「福島 naturally」

福島市立福島第一中学校

川井 晴

「福島はいなかだね。」

いつも福島に來ると東京に住んでる祖母は言います。たしかに東京は電車がたくさん走っているし、お店も遊ぶ場所もたくさんありとても便利です。でも僕は東京に遊びに行くたびにやっぱり福島がいいなと思います。夏はすごく暑かったり、雪がたくさん降ったり大変な事はたくさんあります。でも山があり川があり、田んぼ、果物畑など自然がたくさんある風景が大好きだからです。

僕は毎朝、阿武隈川の橋の上を通り通学しています。橋の上からきれいな桜や鯉の遡上を見る事ができます。時には白鳥が頭の上を飛んでいたりもします。

夏の緑の美しさ、もうすぐ雪が降る事を教えてくれるうっすらと白くなった山も見えます。僕は毎日橋の上で四季を感じる事

ができるのです。福島に住んでいるとそれはあたり前の風景かもしれません。でもそれは決してあたり前ではないのです。僕の母は小さいころオニヤンマや田んぼでおたまじゃくしをつかまえて遊んでいたと言っていました。でも今はその田んぼは駐車場になってしまったそうです。こうして知らない間に少しずつ自然はなくなっているのだと思います。自然は人の手では作れません。大切に守っていかなければいけないのです。そしてそれを守っていくのはこれから大人になる僕達なのではないかと思います。

福島は震災以降、自然環境に関しては良いイメージがありません。僕も震災があつてからしばらくは土をさわつてはいけない、福島の野菜、果物は食べてはいけないと言われました。でも年月がたち福島はどんどん復興しています。

「ピンチはチャンス」

僕の小学校の時の先生が好きな言葉です。この言葉が合っているかは分かりませんが、震災後元の福島になる様に世界中の人々が祈ってくれて、知識を出し合い考え

てくれました。そして日本中の人が福島に関心を持ち福島の自然の豊かさを知ってくれました。正直震災前は福島は有名な観光地もないし地味な県だったと思います。理由はどうあれ福島が注目されたのです。これからは福島のすばらしい所をどんどんアピールして、世界中の人が福島に行つてみたいなと思つてもらえる街にしたいです。僕ももつと福島の事を勉強してたくさんの人に福島を伝えていきたいと思います。

佳作

「みんな大好き」

福島県自然大作戦！」

福島市立福島第一中学校

小野 蒼 依

福島が大好き。みんながそう思えるような街にしたいです。

私の家の前には、阿武隈川が流れています。福島がほこりをもつ阿武隈川は、私も大好きです。毎日、中学校に登校する前に見ていくのですが、ゴミがたくさん落ちているのが目に入ります。また、鳥や魚がたくさんいるのを見えます。阿武隈川という福島のはこりにゴミを捨て、生き物達にめいわくがかかっているのを見ると、胸がしめつけられます。そんな福島は見たくないです。魚や鳥がいきいきと暮らせる街にしたいです。そのためには、市民一人一人が福島について知り、ゴミを捨てないように心がけることが必要となります。

また、信夫山などの大きな山も福島にあります。大きな山には木がたくさんありま

す。その木は一本一本が堂々とはえています。山だけではありません。道の街路樹や花だんのお花もまるで福島の人達を笑顔にして元気づけるかのようにあります。そんな福島の自然を見ているとなんだかうれしくて、福島に住んでいることがとてもほこりに思えてきます。ボランティアで、植樹に参加することで自然を学ぶと共に、福島を想う気持ちを持つこともできます。

東日本大震災直後は、きれいな福島の自然には会えませんでした。しかし、みんなが福島に花を咲かせよう、笑顔を咲かせよう、という気持ちはみんな同じくありました。そこで、私が通っていた小学校のボランティアの人達が、通学路にたくさんのかれいなお花を植えてくれました。また、サクラの木やハナミズキの木も植えられて、福島は緑豊かな街となったのです。

福島は、私達の大切なこきょうです。福島はいままでもこれからもずっと私達のふるさとなのです。そこだけ変えられませんが、みんなの想いが福島の自然となれば、街がよくなっていくことでしょう。私は、福島空も水もみどりも全部大好きです。

福島を応援しているみたいだからです。福島市民憲章の一つ、空も水もきれいなみどりの街をつくりましょう。これを市民全員で実現していけば、みんな福島が大好きになります。福島が大好き。みんながそう思えるような街をつくっていけたらいいな。福島は未来の発展と共に、これからも前を向いて進んでいきます。

佳作

「福島市のために」

福島市立福島第四中学校

藤 倉 菜 那

私が選んだタイトルは「子どもからおとしよりまで安全で健康まちをつくりましょう。」です。

福島市には、お年よりがたくさんいて、ちよつとしたお買い物が大変だと思いが、最近移動販売が近所に来ています。それは、お年よりにとつてとても優しい事だと思います。

また、私は小学校の近くに住んでいます、通学路にあるT字路は車が多く、小学生が通るには危険でした。しかし、二年ほど前に歩行者用の信号ができ、小学生は安全に通れるようになりました。

このように、子供達やお年よりを守る取り組みが見られます。

他にも、小学生の安全のために、地域の方々が交差点に立って登下校を見守ってくれていたたり、小学校の授業では、地域の人

達とふれ合える地域の名人に学ぼうや、御山ウォークラリーもあります。

普段家族以外のお年よりと子供がふれ合う機会はなかなかないと思いますが、このような授業や登下校中のあいさつから顔を覚え、名前を覚え、仲良くなり、何か困った時に助けを求めやすくなると思います。

人は誰もが一人では生きていません。必ず助けて欲しかったり、手伝って欲しい時があります。そんな時、地域の人達で助け合えたら、お年よりの孤独死や、子供達のいじめ、不登校なども少しは減るのではないかと思います。

最後に、私の住む地域には通学路なのに道幅がせまく進入禁止の時間帯でもどんどん車が進入してきたり、また段差のある道路が多かったり、でこぼこしているところがあり、子供やお年よりだけでなく、障害者にも悪い影響を及ぼす可能性があります。例えば、段差につまずいて転び、ケガをしたり、車との接触により、場合によっては命を落としてしまう危険もあると思います。

このような所を全て良くするのは、お金

もかかるので難しいと思いますが、この危険箇所を知っておくことでお互いに注意しあえると思います。

さまざまな被害をなくすためにこのテーマを選びましたが、福島市民憲章を知ることができたので他のテーマについても頭に入れておきたいと思います。

佳作

「希望にみちあふれる福島市」

福島市立福島第四中学校

高 木 美沙希

私は、山形で暮らしている姉の所へ家族で行くときや父が仕事をしている米沢へ行くときに、今までは栗子峠を通っていましたが、去年新しく出来た東北中央自動車道を通って家族で山形に行ったところ、父が、安全で早く山形に行けて便利だと言っていました。

そこで私は、どうして新しく道路を作ったのだろうと不思議に思いました。自分なりに考えてみると、冬に通る栗子峠は雪が多くとても危険で事故も多かったことや、通行止めになって目的地に行けないという車が多く出てくるからかなと考えました。

このような工事は、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」をつくっていくうえで、とても大切な事になっていくのではないかと考えました。

どうしてそう思ったかという、そのよ

うな工事をする事で、福島市と他県の行き来がしやすくなり、福島市民も他県に行き、他県ならではの文化を楽しむ事が出来るし、一番は、他県から福島市に人が来る事で、福島市の文化を様々な人に伝えて、楽しんでもらう事が出来るのが大切な事ではないかと思ったからです。

自分達が自分達の文化や伝統を大切にするのが一番ですが、他の人に自分達の文化を認めてもらう事も大事なのではないかなと考えました。

また、旅行などで山形に行ったときに、「山形ではこうなのか」「福島と少し違うな」という場面が多々あり、そこで私は、自分達と違う所を見る事で自分達の大切にすべきものを改めてよく理解する事が出来ると思いました。そして、そう思う事で文化を尊び新しい事に挑戦していく気持ちが高まると思いました。

しかし、便利を追究しすぎて自然を守る気持ち忘れてしまつては「空も水もきれいなみどりのまち」をつくっていく事は難しいなと思いました。実際に、世の中が便利である事が良いに越した事はありません

が、逆に人々の自然をうばっていつてもう可能性もゼロではありませんし、現実にもそのような事が起こっている地域もあります。

私は絶対にそんな事でこの大切なふるさとを暮らしにくい場所にしたいくありません。

なので、どんな場面でもどんな状況でも、自然を愛し自然を大切にすることを忘れてはいけないと思いました。

全員が、自分の故郷を尊重し、進化させていく事に協力的な福島市になってほしいです。そして私も、一人の福島市民として福島が希望にみちあふれたまちになるように強く願います。

佳作

「僕の大好きなまち」

福島市立信陵中学校

大和 司

「市民憲章」のテーマを見てみると、僕は「親切で愛情あふれるまち」に目が留まった。なぜなら、僕の住んでいる地域の人達が、まさにそうだからだ。

僕の家は、何かと友達の集まり場所になる。整備された公園も近く、昔からの駄菓子屋もある。ちょうど学区の中間にもあるからだ。多いときは十数人が集まる。集まればもちろんうるさいし、近所の人達から、苦情がきてもおかしくない位の騒ぎになる。高齢者も多い地域なのに、不思議と苦情がきたことは一度もない。それどころか、しばらく集まっていなないと、

「最近集まらないね。どうしたの?」とか、

「元気な声が聞けなくて寂しいな。」と、逆のことを言われるのだ。食べきれないほどのお菓子を持ってきてくれるおばさ

んもいる。

以前テレビで、子供達の声が騒音問題となり、近所の住民達が、保育園の建設を反対する声をあげるニュースを見た。僕の地域の人達は正反対だ。子供達の声を楽しみに、時には良い刺激と考えてくれる。止まっている自転車を数えて、微笑んでくれるおじさんもいる。本当に愛情あふれるまちなのだ。僕はふと思った。本当はその光景は、昔は当たり前だったのではないかと。今は、子供の声をうるさいと考える人達が多くなってしまった。だからこそ、僕は昔ながらの子供達を温かく見守ってくれるこのまちが、本当に大好きだ。

この作文を書いている時、母が突然、「福島市の市章は知っている?」

と聞いてきた。「市章」と言う言葉を初めて知った。この機会に福島市のホームページを開いてみることにした。「市章」とは、市のマークのことだった。福島市のマークは「フ」の字を九字、「マ」の字を四字を組み合わせて「フクシマ」を表し、四囲に大きく発展することを表現していた。市章を調べている時、市歌が存在することも

知った。僕は、福島市民なのに、福島市ことは市の特産品以外ほとんど何も知らないことに気が付いた。

昔から僕は、大人になっても福島市にいたいと思っていた。でもそれは、特に理由があつた訳ではなく、何となくそうしたいと思つていたからだ。母からは、

「一度は福島市を出て自立してほしい。」と言われていたけれど、今回改めてずっと福島市にいたいと思った。まだまだ知らない福島市もたくさんあると思うし、何より、この暖かい愛情あふれるまちから離れたくないからだ。僕もいつかそんな大人になって、子供達に暖かく接して行きたい。そして、大好きな福島市のために、自分にできることを考えて、行動して行きたいと思つている。

佳作

『福島市民憲章』について

福島市立信陵中学校

佐藤 綾乃

私はよく市立図書館を利用します。本を借りたり、勉強をするためです。そこで私が目をつけたのは「教育と文化を尊び 希望に輝くまちをつくりましょう。」です。

私がこの憲章で力を入れたほうが良いと思ったことが三つあります。

一つ目は図書館の利用者についてです。図書館を利用する人は決まっています。本を読まない人はほとんど図書館に立ちよることはないのではないかと思います。私の身近な市立図書館に入っている本の冊数はあまり多いとはいえませんが、それも図書館を利用しない理由の一つだと思います。しかし今はスマートフォンやパソコン一つで本の予約ができます。また、今注目されている本や人気の本をチェックすることもできます。本屋さんに行ったりサーチするひまがないという人でも簡単に借りて読むことが

できます。さらにその本が面白そうかあらすじを見ることができます。この福島市のサイトを利用する人がもっとたくさん増えれば市立図書館を利用する人も増えるのではないかと私は考えました。

二つ目は、文化財についてです。福島市にはたくさん文化財があります。現在、指定等を受けたのは市だけで七十七件にもなるそうです。その中には、重要文化財である「木造釈迦如来坐像」や福島市で発見された「土偶」、国認定文化財の「銅鐘」などがあり大切にすべき国の宝がたくさんあります。私が小学六年生だったころは福島市で発見された土偶や土器などについて講義を行っていただきました。また福島市には、「じょもびあ宮畑」という施設があります。そこでは縄文時代の頃の暮らしに関する展示があり、他に火おこしや、弓矢体験などを行うこともできます。このように歴史を学習するのに最適な環境もあります。私はこのような文化財や歴史を大切にしていこうと思います。

三つ目は、学習を進んで取り組むということです。学習は学校だけではありません。

外に出て学ぶこともたくさんあると思います。外には公共の場があり、自分以外の人があります。そのことで人を思う気持ちを学べると思います。この間の西日本豪雨の被災地にはたくさんボランティアの方々が集まりました。ボランティアをすることで被災した人はもちろん、ボランティアをした方の人もうれしくなります。そんな優しい人が福島市、福島県、日本中に広がればいいなと思いました。そして私もそんな人になりたいです。

私は、福島市は良いところだと思います。今挙げた二つや、人が明るく親切なところ、緑豊かなところ、歴史があるところなど。私は、福島市に生まれてきて幸せだと思います。これからは私達若い世代がこの福島市をもっと元気にしていきたいです。

佳作

「『ありがとう』のまち」

福島市立信陵中学校

梅 津 一 真

僕は、この作文を書くことになって初めて「福島市民憲章」というものを知りました。「憲章」という言葉が分からなかったので調べてみました。「これからの理想となるような大切な決まり、とても大事で根本的な取り決め」という意味でした。それをふまえて、改めて五つのテーマを読んだ時「親切で愛情あふれるまち」が目になりました。それは最近、お年寄りとふれ合う機会があつたからです。

僕は小さいころから週末や長い休みの時期を同じ福島市内に住む祖父母の家で過ごすことがほとんどでした。その地区は、小さいながらも色々なイベントがあり、僕もよく連れていってもらいました。そこには、たくさんのお年寄りがいて、とても可愛がってもらいました。僕と同じような孫を連れてくる人もたくさんいました。

今年もその地区の夏祭りに行きました。

僕が中学生になって見え方が変わってしまったのか、一年前に来た時よりも少しさみしく見えました。考えてみれば、僕が保育園に行つてたころはもっとワイワイにぎやかだったように感じました。母に聞いてみたら、母が小さいころはもっともつと子供や大人もたくさんいてにぎやかだったそうです。これが高齢化ということなのだろうかと思いました。

僕はお年寄りの人達が大好きなので、お年寄りが増えることを悪いとは「今は」思つていませんが、高齢者が増え、それを支える世代が減つてしまうことがきつと問題なのでしょう。高齢化対策なんてまだピンときませんが、お年寄りの人達にはいつもニコニコ明るく笑つていてほしいと思いました。

そこで、僕は初めて、すすんで片付けなどの手伝いをしました。久し振りに会った人たちから、

「大きくなったね」

「力持ちになったね」

「ありがとう」

たくさんさんの声をかけてもらつて、少しはすかしかったけれど、とてもうれしかったです。

「ありがとう」

でも本当は、僕の方が「ありがとう」と言いたいぐらいなのです。小さいころ、他人である僕をトイレに連れていつてくれたり、汚したところを片付けてくれたり、ご飯を食べさせてくれたり。地域の方に対するたくさんさんの「ありがとう」がたまっています。

これから僕が「ありがとう」と言つてもらえるよう何ができるかわかりませんが、自分が今出来ることを少しずつ返していけたらなと思います。

そして一人一人が「ありがとう」を言つたり言つてもらえたりするまちづくりをしていけば、愛情あふれる福島市になると思っています。

佳作

「安心のある福島市」

福島市立西信中学校

阿部 宇惟

私が住んでいる福島市は、東日本大震災が起こり、まだ避難所生活をしている人がいます。福島市は子どもからお年よりまで安心できる町なのに、大震災がきっかけで、福島市が危ない印象になってしまいました。

福島には、安心、安全のサービスなどがあります。お年よりには、無料バスや車いすの貸し出しなど健康に配慮する活動を行っています。子どもには、ネットにかかわることから身を守る呼びかけをしています。私の学校でも安全教室が開催され、交通安全や防犯、ネットの危険を知ることができました。また、東日本大震災が起こってから、災害対策として、ハザードマップの作成や非常持ち出し袋の用意の呼びかけなど、災害に備えるための工夫がありました。

僕は、小学校五、六年生の頃、防災についてインターネットや本で調べたり、防災教室の話を聞いたりしました。非常時の行動や携行品の中身についても考えました。防災とは何か深く考えてみました。また、小学校六年生の時は、実際に学校の体育館で夏休みを利用し、避難所体験をしました。テントを組み立ててねると、こしや背中が痛くなり、苦しい状況も体験できました。実際に体験してみると、とても大変なことが分かりました。これから、もし、またあのような地震が起こった時に、避難所生活をしても快適に生活するために注意することが二つあります。

一つ目は、災害時に、地域の人達と協力することです。避難所生活で困ったときこそ地域の人達と助け合った方がよいと思います。そのために、日頃から近所づきあいやコミュニケーションをとり団結をはかることが重要です。また、お年寄りの様子を隣り近所で知っておくことも大切です。

二つ目は、日頃から災害に備えることです。いつ災害が起こっても、無事避難できるように、家族と集合場所などを決めた

り、非常持ち出し袋をチェックして置いたりし、突然の災害に備えられるようにしておきます。福島市は、安心に暮らせる災害対策などのサービスがあります。また、吾妻山や荒川も自然豊かで良い所だと思います。福島に住んでいる私達は、大震災の経験を活かし、災害を最小限にくい止める知恵を出し合い、安全、安心あふれる町になっていかなければなりません。災害はともかく、おそろしいものです。けれども、防災をみんなで共有し、広めて、被害者がでないようにしていけるよう、日頃の生活を気をつけ、努力していきたいと思います。

佳作

「福島への愛で福島を創る」

福島市立西信中学校

亀岡 知央

私は、初めて福島市民憲章を読んだとき、三つ目の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」の言葉が一番心に残りました。これは一見すれば、五つの中で一番実現が簡単かもしれませんが、これは他の四つの事項全てに関わることだと思いました。

例えば、市民憲章一つ目の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というのは、福島の自然環境や福島の農作物、水産物を愛していれば、できることだと思います。

二つ目の「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」は、次世代の子供たちや、福島で受け継がれてきた伝統文化を愛する、四つ目の「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」は、福島の職場環境や福島市しかない生産業を愛する、五つ目の「子どもからお

としよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」は、子供からお年寄りまで福島市の全市民を大切にする、つまり、愛情があふれることで、市民憲章で定めたまちをつくり出すことができると思います。

私は、小学校に入学する前、まだ幼稚園の年中のときに、母と妹と祖母と一緒に、福島市で開催された、ウォーキングイベントに参加したことがありました。おそらくそのイベントの趣旨は、市民憲章五つ目の、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」に近いものだったと思います。そのイベントの参加者は当時の私や妹と年齢が近いと思われる児童から母の年齢に近いと思われる大人の、祖母の年齢に近いお年寄りまで、沢山の人が参加していました。そのときのルートは福島市役所をスタートとして、市内をぐるっとまわって市役所に戻ってくるものでした。その中にはあぶくま川沿いの道も含まれていて、そこを通ったときに感じたのが、空も水もきれいなみどりのまちでした。丁度その日は快晴で空もきれいに晴れていて、あぶくま川を流れる水も澄んだきれいな水でした。また、そこから見える信夫山

の木々も緑色の葉をまとっていて、空も水もきれいなみどりのまちを全身で感じることができました。これを感じられたのは、ボランティアの人々の福島に対する愛情があったからだと思います。植林活動や河川沿いの清掃活動などに参加していた人々がいたからこそだと思います。

私たちは、自分の好きなことに集中して取り組むことができます。これは、福島が大好きだからもつと良い福島をつくりたいという思いと似ていると思います。どんな人も福島に愛情を注ぎ、より良い福島にする活動に手を貸すことは、福島市民憲章にかかげられたまちをつくることになると考えます。

佳作

「親切の連鎖」

福島市立平野中学校

大内 音羽

市民憲章の「親切で愛情あふれるまち」を見て、私は朝の登校を思い出しました。

私の家から私の通う中学校までの距離は一キロメートルもないくらい近いです。だから通学路には信号機はありません。ある日、私が通学路にある道路を横断しようとした時に、車がきました。私は車がきたのでその場で止まりました。そしたら、車の運転者が手で、「どうぞ」と、私に合図してくれました。私は、おじぎをして、すばやくわたりました。こういう事が登校する時に結構ありました。とても小さな出来事です。ですが、私はとても心が温かくなりました。

ある日、私はスーパーへ買い物をして母と行きました。いつも私は母と買い物する時、ショッピングカートをはひくの任せられます。その日も私がショッピングカートをひいていました。スーパーはすごく混雑

していて、ショッピングカートをひいて行動するのが大変でした。私は、ショッピングカートが通れるくらいの通路を見つけたので、通ろうとしたら、ショッピングカートをひいた私より小さなおばあさんも通ろうとして私に気づき、鉢合わせしました。

私はこの時、朝の登校の時の出来事を思い出し、おばあさんに「先、どうぞ。」と言いました。おばあさんはこにこしながら「どうもありがとうございます。」と言いました。私は「ありがとうございます。」と言われて、この人に道をゆずれて良かったなと、思えました。

私の今回の行動は、朝の登校の時に道をゆずってくれた人のように、私も道をゆずろうかなという思いから始まりました。とても小さな事でしたが「ありがとうございます。」一言でとても大きな喜びになりました。この私のなにげない日常の二つの出来事は「親切」の鎖でつながっていると私は思いました。だれかがだれかに親切な行動をして、その行動で救われた人はだれかに親切な行動してと、「親切」が連鎖して「親切で愛情あふれるまち」ができるのだと私は思います。

市民憲章を読んで、私のなにげない日常とは、いろいろな人達の小さな親切で、成り立っているんだなと思いました。私は今まで助けたいと思っても、なかなか行動に移すことができませんでした。これからは「親切で愛情あふれるまち」にするために困っている人がいたら、「助けたい」と思うだけではなく、行動に移したいと思います。親切が連鎖して親切で愛情あふれる福島になることを願っています。

佳作

「緑あふれるふくしま」

福島市立平野中学校

杉田 沙羅々

私は福島市民憲章の一つ、「空も水もきれいなみどりのまち」について考えました。教室で、ふつと窓の外を見ると、最初に目に飛び込んでくるのは木の葉の緑色です。学校からの帰り道には、モモの木やナシの木がたくさん生えています。どこに行っても植物のみどりであふれている。そこも福島の良いところだと、私は思います。

福島は、水もきれいです。四年生のころ、摺上浄水場に見学に行きました。そこでは、水がきれいになる過程を見学しました。

「あの汚かった水が、こんなにもきれいになるんだあ。」

と感心しました。福島市の水が、全国で一番おいしい水に選ばれたことがあると、浄水場の人が話していました。見学の後に浄水した水を飲ませてもらいました。冷たくて、とてもおいしかったことを覚えていま

す。

今年の九月の初めごろには、果樹試験場と共選場の訪問に行きました。果樹試験場では、品種改良の研究や、害虫・病気対策の研究などをしていました。福島は、六年前に震災で原発事故があつて、放射線の影響で、風評被害があつたので、それについての研究もしているそうです。果樹試験場は、土地が広くて、たくさん果樹を栽培していました。木の形を変えたり、木の高さを変えたりして、どうしたら効率良くたくさん果樹を栽培できるか、という研究をしていました。

共選場では、果物を仕分けして出荷していました。人の手で良い果物と悪い果物にわけ、さらに光センサーで、色や大きさにわけ、箱につめるという作業をしていました。大変な作業を農家の人達で協力してやっていて、すごいなあと思いました。

果樹試験場で、話をしてくれた人が、「福島は、フルーツ王国と呼ばれているんだよ。」

と言っていました。本当にそのとおりだと思いました。訪問の後にもらったモモも、

甘くてとてもおいしかったです。

福島の水がおいしいのは、摺上浄水場の人たちのおかげ、福島果物がおいしいのは、果樹試験場の人が、研究をしてくれているおかげ、私達が、おいしい果物を食べることができるのは、共選場の人たちのおかげ、その果物をつくっているのは農家の人たち。福島の特徴は、地域の人達によって守られています。私も、福島の特徴を、そして何気ない緑の風景を守っていきたいです。

「きれいな福島市へ」

福島市立福島第一中学校

大久保

星

私は、福島市がきれいなまちだと良いと思っています。やはり、きれいだと気分が良くなり、私達人間や、他の動物も気持ち良く住むことができると思います。

私の家には、七年前まで木や花がたくさんある、緑いっぱいな庭がありました。しかし、東日本大震災が起こり、放射能のえいきょうで、木や花を無くし、アスファルトだけの庭にする事となりました。あれから七年たち、緑がいっぱいあった庭を思い出すことがあります。たぶん心の中で、あの庭が良かったと思っていますのではないかと思います。

だから、福島市は緑いっぱいなまちであってほしいと思っています。もちろん私もそれを目指して、ごみはごみ箱へきちんと捨て、自分の家の周りを休日には掃除するようにしています。

私は、きれいで緑いっぱいな福島市にするために、頑張っていることが三つあります。

一つ目は、まず自分がお手本となるように行動することです。そうすれば、学校での友達も同じようにやってくれて、そしてクラス全員が見習って、きれいで緑いっぱいなまちをつくるための行動をするようになつて、またそれを見て他のクラスもまねをしてというようになってくれると良いからです。

二つ目は、ポイ捨てをしないことです。それは当然な事かもしれませんが、それをしてる人がいることは事実だと思います。そこで、ポイ捨てをしないと、きれいな福島市になるし、きれいな福島市には、ポイ捨てをしずらく思うので、ポイ捨てはしないようにしたいです。

三つ目は、植物を大切にすることです。植物はそこら中にあります。なので、少しくらい大丈夫だろうと、あまり大切にしない人がいると思います。でも、そこら中にあるということを逆手にとるといったら変かもしれませんが、そこら中にあるからこ

そ大切にすれば大体は福島市は緑がいっぱいなまちになると思います。なので植物は大切にしたいと思います。

これらのことが、福島市をきれいで緑いっぱいのまちにするために、私達ができることだと思います。これらのことを実行していけば、確実により良い福島市にすることができると思います。他にもできることは無いのかを探しながらきれいな福島市になれるよう、頑張りたいです。

「親切な福島市民になろう」

福島市立福島第一中学校

森 口 愛 望

私は福島市が親切で愛情あふれる町にするには、子供からお年寄りまでみんなに優しくできるようにないと思います。

まず、私の体験したことです。私は小学六年生の時、新一年生が入ってきたので一年生の教室に行きました。そして困っている人を助けると、「ありがとう。」と言われ、とてもうれしくなりました。助けた方も助けられた方も良い気持ちになると感じました。そこで私は、人に親切にすると、自分にもいいことが返ってくると思いました。

私は、親切で愛情あふれる町にするには二つのことが大事だと考えます。

一つ目は、明るく話しかけたり、明るく何かをしたりすることです。理由は、初めて同じクラスになった友達に、明るく話しかけると、相手側から親切にしてくれてうれしいと思われ、学校も楽しくなると思う

からです。

二つ目は、誰にでも優しい態度を取ることです。もし、お年寄りが重い荷物を持っていたら、すぐにかけて持ってあげることが大事だと思うからです。

この二つのことができて、初めて親切で愛情あふれる町ができると思います。

そして最後に、いじめをなくすことが大事だと思います。いじめは、された側は一生忘れられないし、した側も後から後悔してももう遅いので始めからこんなことはない方がいいと思います。最近いじめという言葉を多く聞くようになり、LINEなどの相手に見られない悪口や、自殺にまで追い込む件もあり、私は悲しい思いになりました。いじめは、本当に相手の命にも関わることなので絶対にしてはいけないと思います。そして、いじめなどのない平和な福島市にしていきたいと思います。

私は、福島市が親切で愛情あふれる町にするには、いつも明るく、いつも優しい態度を取り、いじめをなくすの三つのことが大事だと思います。この三つができるようになると、相手を優しくしてくれたり、明

るく話しかけたりしてくれるなど、必ず良い事が待っています。そういうふうにして、みんなが気持ち良く暮らせる福島市を作っていきます。一人一人が自覚して、誰にでも親切にできるようになって、良い福島市をみんなで作っていきましょう。

「たくさんの人と

接していく中で」

福島市立福島第一中学校

鏡 あすか

お盆休み。私は、体力を維持するため、毎朝ランニングをしていました。

ある朝、いつもと同じように走っている

と

「おはよう。」
と、近所のおばさんが、元気に笑顔で声をかけてくれました。私は、とても良い気持ちになりました。つらい時も苦しい時もあ

るけど、応援してくれたり、声をかけたりしてくれる人がいると、なんだか力がわいてきて頑張ろうという気持ちになります。

最近、母が入院していて面会に行った際にも似たようなことがありました。母は、隣に入院している方がとても親切にしてくれると話していました。その方は、毎日話しかけてくれたり、時には、ゼリーをもらったりしたそうです。母は、入院生活はつら

いはずなのに、どこか元気な様子でした。

私の家の近所には、犬を飼っている家が多く、早朝や夕方に散歩をしている人たくさん出会います。人もそうですが、かわい

い犬がしっぽを振って駆け寄ってくれると、とてもうれしくて頭をなでてあげたくなります。私が、

「なでてもいいですか。」
と確認をしてから、なでている間に会話が広がり、犬の事、飼い主の事、私の事、私の家族の事などたくさんのお話ができました。動物を通して、また新たに人との関わりが増えます。二回目に会った時には、犬がさらによるこんで駆け寄ってくれました。私は足をペロペロとなめられ、飼い主さんもうれしそうです。

「覚えてくれたんだね。」

と、しばらくなでていました。ついこの間まで知らない人なのに、今何をしているのかなと気になったり、散歩をしていないか窓をのぞいて確かめてみたりしてしまいます。

そして、今回母の入院、短い間でしたが、私にとっては、長く寂しい時間でありまし

た。休日もあったので、妹達は祖母宅へ泊まっていました。そのため、いつもうるさくてにぎやかな家の中は、私が床を歩く音やエアコンの風の音しか聞こえず、なんだか心細い日々でした。母がいない分、洗濯や食器洗いなどをたくさんしました。いつも以上に疲れる毎日で、気づくと夜の十時

になつていたり、時間の間隔がなくなったりしました。母が、このような生活を日々おくっていると思うと、もつと力にならないと感じました。また、いつもはうるさくてイライラしてしまうのも、十分幸せなことなんだと感じました。やはり、家族は一番安心して素でいることができていい

など改めて感じました。

自分にとって身近な人ほど、大切にしてい、常に感謝の気持ちを忘れずに、たくさんの人と接していくことが大切だと思います。

「わたしの安全なまち」

福島市立福島第一中学校

幕田 楓巴

私は福島市民憲章の一つである、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」を見て、小学生の頃の登下校を思い出した。

私たちの地域にはサポート隊という方々がいる。サポート隊のみなさんは小学生の登下校の見まわりをしてくれる。祖父もその一人だ。小学生の時にとってもお世話になった。サポート隊のみなさんは小学生が登下校する時間に合わせ通学路を歩いてい

たり、横断歩道や車の多い危険なところなどに立ってくれている。入学した頃からほぼ一日も欠かすことなく必ず立っていてくれる。道路を横断する時に旗をふって車の人たちに気づかせてくれるなど、私たちの安全のことを本当に考えてくれている。でも、このサポート隊のみなさんは私たちの安全を守っているだけではない。いつも朝、会った時に笑顔であいさつをして

くれる。

「気をつけてね。いつてらっしゃい。」

そう一言いつてももらえるだけでうれしかった。この優しい一言で元気がでる人は他にもたくさんいるだろう。もう一つ、とても安心したということがあった。それは、友達がなかなか待ち合わせ場所にこなかった時、となりで横断歩道の誘導をしていたサポート隊の人が友達は何の道から来るのかやどういうかつこうをしているのかなどを質問してきて一緒に友達が来るのを待ってくれた。しかも、今何分だからあと何分ぐらい待ったら学校に行った方がいいよなどと時間まで心配してくれた。その時は本当に助かった。

サポート隊のみなさんは給料をもらっているわけではない。ボランティアで活動してくれている。「人のためにがんばる。」ということは口で言うことは簡単だが、実際に行くことは難しい。でも、今この安全な町は、町の安全を考え、毎朝、私たちを見守ってくれているサポート隊のみなさんのその行動でなりたっている。とても感謝している。これからもこの気持ちを忘れずに

生活していきたい。そして、サポート隊のみなさんのように自分から地域のボランティアにすすんで参加できる、そんな町をよくしたいと思える人になりたい。今度、サポート隊の人に会ったら明るくあいさつをし、いつもありがとうございますなどの感謝の気持ちも自分の口から言いたい。これからも、サポート隊のみなさんは子ども達の安全を見守っていてほしい。

「私の願う福島市」

福島市立福島第一中学校

齋藤 瑞輝

私の願う福島市は、家の近所どうし仲良く気づかう事ができるような福島市にしていきたいです。

私はバスケットをしています。小学生の頃、家の外でバスケットをしていたら、近所の方に、「ドリブルやシュートの音がうるさい。」と、怒られてしまいました。その時は午前中の十時ぐらいだったので、早朝でもないし夜中でもないのです、どうして怒られたのかが分かりませんでした。しかし今ふり返ってみると、たしかにまだ十時は早く迷わくをかけていたかもしれません。それに、スポーツのバスケットの練習がない日は、ほとんど週三日、四日で家の外で自主練習をしていたので、かなり迷わくをかけていたなど感じています。私の兄もバスケットをしているので、兄が家の外でバスケットをしていると、かなりドリブルやシュートの音が聞こ

えていました。それが週に三、四日も聞こえていたら、大変迷わくをかけていたなと反省しています。今は、部活が毎日あるため、家の外でバスケットをする事は前より少なくなりました。それでも、家の外でバスケットをする時には、しっかりと時間を確認し、近所の方々に迷わくをかけないでいど、全力で自主練習をしていきたいです。

このような体験から、私は、家の近所どうし仲良く助けあいながら生活していくことが、大切だと考えました。何かを行う時には、近所の方々に迷わくをかけないかどうかをしっかりと考えてから、行う事が大切です。

隣近所だけではなくありません。迷わくをかけるという点では、バス、電車などの乗り物や、病院、銀行などの公共施設でも迷わくをかけるはいけません。バスや電車では、一人一人がゆずり合いの心を持って、お年寄りに席をゆずってあげたり、音楽を聞く時にはイヤホンを使って音楽を聞く、などの事をする、もつとより良い福島市になるはずで、助けあうという点では、仕事や学校で助けあうと、いきいきと楽し

く生活できるはずで、仕事ができるという事、学校で勉強をすることができるといふ事にほこりと喜びを持ち、決まりを守って明るく楽しい職場や学校になると良いなと考えました。ですから、隣近所だけでなく、福島市民のみんなが決まりを守り、力を合わせて、生活するとても暮らしやすく助けあえる福島市になると考えました。

このような福島市にするために、私達一人一人が気を付けて、もつとより良い福島市にしていきたいです。

「家族や友達との信頼関係」

福島市立福島第一中学校

中 濱 佑 月

私は、学校で楽しかったこと、うれしかったことや不安に思っていること、失敗してしまったことなど相談に乗ってくれる家族や友達がたくさんいます。そのような家族や友達がいてくれるから楽しく学校が送れているのだと思います。不安に思っていることを相談せずずっと心に閉じ込んでしまったらずっと心がもやもやしたまま学校生活が終わってしまいます。最近ではいじめなどが原因で自殺してしまう人がたくさんいます。例えばいじめられている人が家族に相談して、少しでも心が軽くなれば自殺せずに済むかもしれません。このように考えると、自殺してしまった人は相談に乗れる人が少なかったのだと考えられます。私は、なぜ相談できなかったのか考えてみました。すると一つの大きな考えが浮かび上がりました。その一つの大きな考え

は、家族に、たくさん相談したくてもいいじめていた人に、もつといじめられてしまうのではないかという恐怖心があり相談できなかったのだと思います。私がいじめられていたとしたら絶対にこの恐さはあると思います。ですが、ずっと心に閉じ込めていたら何も変わりません。このような時に必要な存在が友達や仲間だと思います。信頼できる仲間がいれば必ずいじている悪い人には勝てると思います。しかし、その仲間との信頼関係が崩れてしまったら助けってもらえなくなります。とても重要な信頼を手に入れるために私が一番重要だと思うことは、何かの時に助けてもらったらずその恩を返すということです。自分が困っている時に助けてくれた人は必ず覚えておき、助けてくれた人が困っていたら自分が助ければとても深い友情と信頼関係で結ばれると思います。友達とたまにケンカをすることももあるかもしれませんが、その時は自分がしてしまったことを素直に受け止めて、心から謝ることが大切だと思います。そして、信頼がある友達に相談し、友達とじっくり考えて、相手に立ち向かって行け

ば必ず強い信頼で結ばれている自分と友達が増えれば、より良い福島になっていくと思います。その他にも、楽しかった出来事や、おもしろかった出来事などを家族に伝えたり、友達と話をしたりすると、家庭が明るくなり、クラスや、学年の雰囲気も良くなると考えました。

このようにおたがいに、信頼関係で結びついて、だれとでも相談できるようになれば、福島はより良い県になると思いました。

「ごみのない福島市にするために」

福島市立福島第二中学校

高橋 陽菜

私は、福島市民憲章の空も水もきれいな
みどりのまちをつくりましようの『家のま
わりや道路、公園、河川などをごみのない
きれいな環境にしましょう』について考え
ました。

公園に行ったり道路を歩いていると、お
菓子や紙くずのごみが落ちていることがあ
ります。近くにはポスターやごみ箱がある
のに……と思ったことがたくさんあります。
ボランティアの人がきれいにしているのを
見たことがあります、なかなかごみは無
くなりません。

ごみを捨てている世代を考えると、
十代から三十代の方ではないかと思いま
す。コンビニの帰り、ジュースを飲んだ後、
ごみを捨てるのが面倒になってしまってい
るのではないかと思います。お年よりの人
は、ごみを捨てたり拾ったりしているのを

見た事があります。

私からの提案は二つあります。

一つ目は、幼稚園・小学生・中学生の子
供がポスターをつくるというのはどうで
しょうか。

福島にはたくさんの子供がいます。子供
が書くことにより、大人がポスターを見て、
「子供が書いたのなら、捨てよう。拾おう。」
などと思うかもしれません。子供は自分自
身が書いたものだからと思い、ごみを捨て
たり拾うという気持ちが芽生えるのではな
いでしょうか。

二つ目は、ごみを見つけたら拾おう捨て
よう週間をつくるのはどうでしょうか。そ
の週間をつくることで、期間以外にも捨て
ようと思う気持ちがでくるのではないで
しょうか。

二つ上げましたが、ごみを無くす方法は
いくらでもあると思います。どんなことに
も福島市民一人一人が取り組むことで、信
夫山やはらい川、福島にある自然が美しく、
きれいになると思います。福島は盆地では
ありますが、山にかこまれたすてきな町だ
と思います。

私も、ごみの分別やしつかりごみ箱に捨
てるなど、できることから一つずつ、ごみ
のない福島をつくっていききたいと思いま
す。

「自然豊かな福島をつくるために」

福島市立福島第二中学校

阿部 大夢

森林伐採やごみの増加が社会問題となっている今、福島では町会などで、清掃活動を行っています。福島県は、一人あたりのごみ排出量が日本で一番多く、一人ひとりの心がけがないと、これを改善することはできないと思います。また、さらなる資源の確保のために限りある木を続々に切っていくのはいけないと思います。木材などはリサイクルなどで合板や集成材にして使うことができます。これも、各自治体が活動しています。でも、この問題は町会や自治体だけのことでなく、福島県民全員が関わっています。そのため、自分自身でできるだけごみを少なくし、自然を利用して作られているものは全て大切にし、捨てる部分を極力減らして、ごみの増加、森林伐採を少しでも止められるようにしなければなりません。

また、家庭から流された使い終わった油や、洗剤などで川などが汚れるのも、一人ひとりの意識で止められることだと思います。

これらの意識をすれば、福島の自然は守れると思います。自然が守られる、ということは、様々な生き物が快適に暮らせるようになり、空気がきれいになります。とても高いビルがたち、道路が人でごったがえすような画期的な都会よりも、豊かな自然がたくさんあり、人と山、川の接点があるような福島になるといいと思います。これから、福島の自然を心から大切にして、生活してほしいと思います。

「みんな住みやすい、

ふるさと『福島』」

福島市立福島第二中学校

紺野 七葉子

親切で愛情あふれるまちとはどういうまちでしょうか。私は子供達を大切にすることだけでなく、差別や偏見がなく人権を大切にするまちだと思います。

そういうまちにするために第一階として、私は、信号を全て音が鳴るようにすることを提案します。理由は二つです。一つ目は『事故が少なくなる』からです。歩行者は飛び出しなどが、運転手は信号無視が減ると思います。負傷者や死亡者がいなくなることで、平和なまちはないと思います。二つ目は『みんなが住みやすくなる』からです。体に不自由がない方達が暮らしやすいまちはたくさんあると思います。ですが、体に不自由がある方達の住めるまちは、どうしても限られてしまいます。そのような方達が安心して楽しく生活ができるよう

に、福島が活動できればいいと思います。まちを近未来的にするために、活動することはとても大事なことです。ですが、それより先に、果たして、今の段階のまちは全員が住みやすい、大切と感じるふるさtoになっているのか。と問いかけてみるの方が大事だと思います。そのために、福島市民全員で協力していきましよう。

「福島を変えていくために」

できること」

福島市立福島第二中学校

日 比 亜 緒

私の目指す、理想の福島は二つあります。一つ目は、「親切で愛情あふれるまち」です。そのためには、いつでも思いやりがある温かい心を持つことが大切だと思います。どこのまちにも、子供からお年寄りまで様々な年代の人が住んでいると思います。そんな時に、だれかが困っているとすぐに助けてあげられる人がいるまちは、とても私の理想です。そして、何かをしてもらったり逆にしてあげたりした時に、「ありがとう」と素直に言えることが、「親切で愛情あふれるまち」への一歩になると思います。

二つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」です。最近、自転車に乗ってスマホを操作したり、音楽をきいたりする「ながら運転」をよく見かけます。それがきっかけでテレビなどで、事故が起

きて、ケガをしてしまう人、あるいは亡くなってしまう人などニュースになっていきます。それは、決して安全で子どもからお年寄りまで健康とは言えません。それを解決する方法として挙げられる一つ目は、身近なところからながら運転をなくす、ということ。福島全体をよりよくするためには、まずは、自分の身の回りから変えたほうが良いと思ったからです。二つ目は、ハザードマップを作ることです。今、もうあるかもしれないけど、ぶつかりやすい magari 道や危険な場所などをまとめたものがあると、特にお年寄りの人なんかは便利だと思います。

一人一人がこのようなことを守ったり、取り組んでいくことで、福島は小さなところからでも、変わっていくと思います。

「捨てない社会」

福島市立福島第二中学校

武 田 汐 里

みなさんは、自分の足元に自分が落としたわけでもないゴミが落ちていたらどう思いますか？拾ってあげようと思う人、知らん顔してそのまま行ってしまう人、たくさんいると思います。でも、もし仮に拾ったとして、誰かも分からない人が落としたゴミを捨てに行くのは、少し勇気のいることですよね。そこを踏まえて、私は二つ提案があります。

一つ目は、公園や河川などの公共の場に、分別できるゴミ箱を設置することです。そうすれば、捨てる場所があるため、下にゴミを捨てる頻度も少なくなると考えたからです。

二つ目は、福島市民朝のゴミ拾いポイントカードを作成するということです。朝の八時半くらいから九時くらいまで、福島市民でゴミ拾いをし、一日につき一ポイント

のポイントが加算されます。一ポイントは百円と考えて、ポイントを加算していきま。十ポイントたまると、千円分の買い物ができるというシステムです。コンビニやスーパーで使えるようにすると良いと考えています。福島市民の良い運動にもなるし、朝早く始まるので、生活習慣も整い、小さい子供にはお菓子をプレゼントするなど大人から子供まで市民参加型の行事をつくれば、下にゴミを落とす事も少なくなると思います。

私は、この二つの提案を踏まえて、日常生活の中でもゴミを下に捨てないよう心がけ、現在の福島市より、もっと豊かで明るい福島市にできるよう、私一人でも考えて行動できる人間に私はなりたいと思います。

さあ、みなさん、ゴミを捨てるならゴミ箱へGO！ダメ！ポイ捨て！

「どんな人も健康で

きまりを守る町」

福島市立福島第二中学校

佐藤 暖瀬

今生きている福島市。この町は、すごく楽しく、人がすごく優しい町です。しかし、この福島市には様々な問題があります。

例えば、日常的なことだと、あまりあいさつをする人が少なく、しっかりとルールを守る人が市民全員ではないということです。

この問題を解決するためにまず、あいさつをする人を増やすことです。この福島市にあいさつを増やすことは、なかなか難しいです。それでも、あきらめずに試してみることが大切なので、福島市に新しい目標をつくることや、あいさつ運動などがあると、いいと思いました。次に、ルールを守る人が少ないということです。それです。公園が一番ルールを守る人が少ないと思うので、公園にポイ捨てをする人を

減らすためにごみ箱を増やすことがいいと思います。

そして次に、人が楽しく健康でいられる町にするためにもたくさんの方がいます。

そのために、道路を広くすること、遊園地をつくる方がいいと思います。

まず、道路を広くするという事です。福島市は、広い道路もたくさんありますが、とてもせまい道路もたくさんあります。そのせまい道路のせいで車が通りずらくなることや歩行者と車が事故を起こしてしまうかもしれません。だから、道路を広くした方がいいと思います。

次に、遊園地をつくることです。人が福島市で楽しく、そして、市以外から人を呼ぶために遊園地をつくって、みんなが楽しくすごせるようにしたいです。

最後に、僕はこの福島市が好きです。でも、まだ福島市に足りないところもたくさんあると思います。だから、僕は個人的に、けど、こういうものやことなどがあれば、どんな人も健康できまりを守るような町になると思いました。でも、今の福島市も

人が優しくて、とても活気あふれる町で、だから、僕はこの町が大好きです。

「安全で健康なまちづくりを

するために」

福島市立福島第二中学校

小澤 明 莉

私は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくり」をするために、三つのことを考えます。

まず一つ目は、「信号むしをしない」ということです。「信号むしをしない」ということは、交通ルールの一つでもあります。だから、そのくらい大切なことなのだと思います。それでも、信号むしをする人をたまに見かけたりします。信号むしをするのとで、事故がおこったりするので、ほんのささいなことだけど、大切だと考えます。

二つ目は、「みんなが交通ルールを身につけておく」ということです。まずは「交通ルール」を知っておかないと、事故が起きてしまい、全然安全ではなくなってしまうからです。だからそのためには、町内ごとに交通ルールについて話し合ったり、確

認するべきだと思います。

三つ目は、「運動ができる施設を増やす」ことです。健康になるためには、運動をすることもかせません。だから、いろいろな年代の人が気楽に立ち寄れる、運動のできる施設をもっと増やした方が良いと思います。実際に、福島駅の近くにも、そのような施設があり、たくさんの人が運動しています。

このような三つのことを実行すれば、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくり」ができると思います。これらのことを福島市全体で実行して、安全で健康なまちになってほしいです。

「安全で健康な町づくり」

福島市立福島第二中学校

遊 佐 茉未子

子供からお年寄りまで安全で健康な町をつくるために、行ったほうがよいと思うことが三つあります。

一つ目は、その町のお店などに置いてあるたばこをすべて売らなくすることです。これはなかなか難しいことで、たばこを吸う方からのクレームが多く来ることはもちろんだと思います。

二つ目は、子供からお年寄りまで、みんなで楽しみながら運動できる、アスレチックや公園、ジムなどをつくることです。そうすれば、子供と大人、お年寄りとの交流が増えると思います。

三つ目は、地域の見守り隊の人数を増やすことです。あいさつの活性化や明るい町づくりにもつながり、地域の防犯対策にもなります。

この三つのことを実行できれば、たばこ

を吸う人が少しだけでも減ると思うし、子供や大人、お年寄りの交流も増え、子育ての手伝いをしてもらうことによる少子化対策、そして明るい町づくりもできます。地域の交流が増えることにより、犯罪やゆukaiも少なくなるかもしれません。今すぐに実行することは、不可能に近いです。さらに、地域の人々の意見も大事にしなければいけません。もし実行できなくても、このような意識を持つ方が増えるだけで充分だと思います。これが、私が考える子供からお年寄りまで安全で健康な町をつくる方法です。

「空も水もきれいな福島市」

福島市立福島第二中学校

藪内 優芽

私は福島市を美しくするために、

「空も水もきれいなみどりのまち」

を考えました。福島を美しくするために三つの事を考えました。

一つ目は、

「川にゴミを捨てない」

です。私の家は川の近くなのですが、川に行くとよくゴミが流れてきてしまっています。近くの川にはゴミを捨ててはいけないと言う呼びかけやポスターなどは無いので、ポスターを作ったり一人一人がゴミを捨てず持ち帰ることを心がければ美しくなると思っています。

二つ目は、

「花を大切にする」

です。花は自分で植えなくても自然に生えてきます。その花を無理にとってしまえば花は育たなくなるし、次の種も出なくなっ

てしまいます。花を大切にするには、とった人がいれば周りの人が注意すればいいし、誰もが花を大切にすると気持ちを持ってば花も無くなることはないし、福島市も今以上に自然が美しくなるんじゃないかなと思いました。

三つ目は、

「川での事故を増やさない」

です。テレビでよく川の事故を見ます。川の事故は誰かが呼びかけたりポスターを作っても無くならないと思います。なので私が川の事故を増やさないために心がけていることは、まず、雨の日川へ近づかないことです。私も雨の日は、なるべく川が流れている反対側を歩きます。私の家の近くの川は深くないのでおぼれる事はないですが、頭を打ったりするとそのまま川の流れて自分も一緒に流れてしまうかも知れないので雨の日は絶対近づいたりしないです。

川の事故を減らすには、雨の日には川に近づかない事が一番だと思います。雨の日は川の周りがすべるので、もしすべってしまったら、大変な事になります。なので近

づかない事が一番です。

私は、福島市が大好きです。福島市は、おいしいフルーツがあるし、何より自然がたくさんあるからです。私的には、福島市が一番おちつく場所です。なので福島市に悪い事があつたり悲しい事があれば私も悲しくなりますし、逆に福島に良い事があつたり福島市が有名になれば私もうれしいです。

なので、福島市の自然をもっと増やすためには私が考えた三つの事を大切にしていけば自然がもっと美しくなると思いました。福島市のためにやれる事なら、私も全力でやれる事に協力したいです。

「自然がいっぱい福島市」

福島市立福島第二中学校

鈴木 もも

私は、「空も水もきれいなみどりのまち」にするために行ったほうがよいと思うことを、空、水、みどりの三つのテーマに分けて提案します。

最初は、空についてです。空について行ったほうがよいと思ったことは、野鳥の保護です。環境問題で自然が壊されている今、野鳥の保護は大切だと思います。空に鳥が飛んでいたら自然が感じられると思います。そのために鳥を保護し、増やしたらよいのではないかと思います。

次は、水についてです。水について行ったほうがよいと思ったことは二つあります。一つ目は、ごみひろいのイベントを行うことです。親子で参加でき、水について学びながらごみひろいをするというようなイベントだったら、学習しながらごみも減らせて一石二鳥だと思います。二つ目は、

水について小、中学生に教えることです。水の大切さ、水辺に住む生き物への環境問題を特別授業で教えることで、小、中学生が水について意識し、水辺でのポイすてが減るのではないのでしょうか。水辺でのポイすてが減れば生き物が住みやすくなり、水辺の生き物も増えるのではないかと思います。

最後は、みどりにについてです。みどりにについて行ったほうが良いと思うことは、三つあります。一つ目は、みどりの多い公園・広場を作ることです。みどりの多い公園・広場を作ると、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」にもつながります。二つ目は、市内に花だんを作ることです。もっと市内のいろんなところに花だんを作ったら、花が増えて、はなやかになるのではないかと思います。三つ目は、グリーンカーテンの実用化です。グリーンカーテンは室内の温度は下げる効果があります。しかも、植物のカーテンなので、緑も増やすことができます。

また、このような活動のために募金活動をするのも一つの案だと思います。いち

はやく行動し、福島市の自然を未来につなげていくことが大事なのではないでしょうか。

「福島への恩返しのため」

私達が出来る事」

福島市立福島第三中学校

遠藤 萌花

「ふくしまの酒 全国初6連覇。」

今年も嬉しいニュースがとびこんできた。日本酒の出来栄を競う全国新酒鑑評会で「ふくしまの酒」が、金賞受賞銘柄数で六年連続日本一に輝いたのだ。福島県の気候が日本酒造りに適していることに加え、きれいな水、それがおいしい日本酒造りの秘訣であることが新聞にのせられていた。

私は、小学生の頃から「水」をテーマに学習を重ねてきた。特に福島市の水の歴史から今私たちが当たり前のように飲んでいる水が今のように供給されるようになるまでに摺上川ダム建設のためにかけられた多くの時間や、建設に伴って移転した方が払った犠牲など、見えない所での働きが関係していることが分かった。また、摺上川ダム周辺が「水道水源保護地区」で水源を

汚してしまうような工場などの施設がないので元々の水がきれいなこと、そのきれいな状態を持続させるためにゴミ拾いや植樹をする環境保全に取り組んでいることも知ることができた。きれいな水と緑豊かな自然は、切っても知れない関係なのだ。

福島市は、信夫山をはじめ多くの自然にかこまれている。少し疲れた時に自然を見ていると心が癒やされる。しかしここ数年、その自然に残念な光景が見られる。太陽光発電のパネル設置のためにけずられた山や森林。私の通う中学校区内に太陽光パネル設置のために山はだが見え土砂崩れが起きそうで心配な所もある。以前、再生可能エネルギーに詳しい地元企業にこの件を尋ねたことがある。パネル設置の際は、環境に与える影響を考えたり切った木の分は他の場所に植えたりするなど自然とのバランスを大切にすることが必要だと教えていただいた。純粋いな気持ちで再生可能エネルギーを作ろうとしている人もいるが、人間の私利私欲で森林を壊してしまっている。森林は自然のダムと言われているが、自然のバランスが崩れると、森の水を

ためる力や水をきれいにする力が弱くなってしまう水や空気を汚す原因となってしまう。良いものを得ようとして自分達に悪い影響が及ぶなら本末転倒だ。おいしい空気と水、そしてそれをきれいにするための豊かな自然。これらがすべてそろった時に本当の意味ですてきな町になると思う。後の世代の人達のためにも今、「自然」に対する意識を変え一人一人が自然を大事にする心を持つていかなければならない。それが私達の郷土福島への恩返しになると思うから。

「親切で愛情あふれる

福島をつくろう」

福島市立福島第四中学校

石澤 七奈

私は、東日本大震災をこの福島で体験しました。そのとき、人間関係は大切だなあと改めて感じました。同じ福島に住む人々と、親切で愛情あふれる福島をつくりたい、と強く思いました。

私はこんなまちをつくるには、何からはじめればよいのかと考えました。私は、あいさつからはじめようと思いました。日常でもやっているとは思いますが、人々とつながるにはやはりあいさつ、

「こんにちは。」

「おはようございます。」

など、普段のあいさつからはじめていくことが大切だと考えました。

あいさつは、心を温かくしてくれます。あいさつをすれば、心がスカッとするし、されると、笑顔になれます。地域のひとの

輪も広がるし、いざというときに助け合えるようになると思います。

先日、西日本に台風が来て、大きな被害を受けました。福島はそんなとき、近所の人とはもちろん、信らいを深め合って助け合えるようにすれば、いざというときに少しでも、不安から解消されるのではないのでしょうか。

福島のまちをもっとよりよくするには、子どもやおとしよりをいたわり、親切にすることも大切だと思います。少子高齢化が進む中、福島もおとしよりが増えてきます。電車やバスを利用する方は少なくありません。そんな時、私たちのような若いのにイスにすわって平気にいる人も中にはいるでしょう。足やこしが悪い人、立っているのさえもつらい人、妊婦さんなどに席をゆずってあげられるような心やさしい、親切な人になりましょう。

いつかそのやさしい行いは、自分に返ってくるはずです。だれにでもできる親切を自分から進んで実行しましょう。

それから、ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接しましょう。

私は、「あいさつ」「子どもやおとしよりをいたわり、親切にする」「ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接する」という、福島をよりよくするための三つの提案をしました。これらのことを、これからの日常生活に生かして、目指すは、

「親切で愛情あふれる福島をつくろう」です。

私たち、福島に住むみんなでこの目標に向かって、理想のまちがつけられるように、がんばっていききたいです。自分にできることを一つでも多く見つけて、実行していきたいです。

「福島を明るくするために」

福島市立福島第四中学校

伊 藤 颯 也

私は、福島を明るくするためには、あいさつが大切ではないかと思いました。私は、小学生から現在中学生まで、あいさつ活動やあいさつ日本一という活動を目にしてきました。いろんな人とあいさつすること、人と人とのコミュニケーションが取れ、これからの自分にも役立つし、とてもいいんではないかと思っています。

しかし、あいさつには、人それぞれの違いがあります。あいさつをされて、うれしい人、いやな人などたくさん違いがあります。なので、いつもいつでもあいさつをするのではなく、家族、知り合い、近所、先生などの人にあいさつをしたらいいんではないかと思っています。私もいつも朝、おはようと家族に言っています。すると、家族は笑顔で

「おはよう」

とすぐに言ってくれます。そうすると、自分もうれしくなります。私は、学校の日など朝起きるのが辛く、元気がないときがほとんどです。でも、おはようと言う一言で元気が出るときもあります。なので、あいさつは、人を元気づける力もあるんだなと思いました。

ほかにも、朝、悲しそうな人がいるとき、元気がなさそうな人がいるときなど、あいさつをしたり、声をかけてみたいと思います。そうすると、友達との関係が良くなったり、知り合いなどからも信頼されたりするのではないかと思っています。だからと言って、信頼されるからやる。ではなく、人を励ますためにやることだと思います。すると、自然に信頼されていくのではないかと思っています。

福島は、東京、大阪に比べると人口が少ないところです。ですが、人と人の関わりが増えれば、もっと大きな福島になると思います。そのためには、あいさつを欠かさずにやることです。福島であいさつをたくさん行えば、ほかの県などにもつながると思います。そうすると、ニュースでもよ

く見る、誘拐や強盗が入るなどの事件も少なくなるんではないかと思っています。大人から子どもまであいさつができれば、たくさん関わりを持つことができ、明るい福島にすることができると思います。そして、明るい日本にもなるんではないかと思っています。福島から全国へあいさつが響き渡れば、福島やそれ以外のところもいい環境になり、住みやすい豊か溢れる場所となると思います。

私は、これからたくさん関わりを持ち、コミュニケーションが取れる人間になりたいです。そして、これからの自分にも役立って、たくさんのかたちをあとにしたいです。前向きで、チャレンジしていきたいです。たくさんの人と交流を深めて、あいさつをがんばっていきます。さらに、中学校でも、あいさつ日本一の学校になれるようにがんばっていきます。

「明るくたくさんの人が

おとずれるために」

福島市立福島第四中学校

佐藤 梨乃

福島市には、土湯温泉、飯坂温泉などの有名な温泉や、種類豊富で味も抜群なくだものが実り、また、同鑑評会において九年連続で金賞受賞や入賞を果たしている日本酒などがあります。他にも、市内には十六カ所の学習支援施設、「学習センター」があり、政治、経済、文学、歴史などの幅広いジャンルの講座や、高いい者の方や、子どもを持つ親の方々の各学級も開いています。こむこむなどの施設もあって、子どもたちが気軽に遊べる。

ですが私は、今の福島市には課題があると思います。少子化の中、これからも福島市が発展していくためには、交流人口の拡大を図って、活動していくことが必要だと私は思います。

大きな震災もあり、人が少ない福島市で

は、他の県などから、たくさんの人をどうやって集めていけばいいのか考えていく必要があると思います。

私は、福島市には、温泉も果物などがあると思うけれど、同じような取り組みをしているところは、他にもたくさんあります。そのようなところに勝って多くの人を集めるためにどんなふうに魅力をアピールしていくのが大事だと思います。

そこで私は、たくさんの人が集まるための、提案を三つします。

一つ目は、福島の果物を使った食品を売ることです。他の県には、知られていないものもあると思うので、食品にして売れば、おいしいから、少しドライブがてらに来てくれる人もいるだろうし、収穫体験などしてくれる人も増えるのではないでしようか。

二つ目は、福島にある、施設などを活用して、有名な人に来てもらうことです。福島市には、こむこむや、国体記念体育館、音楽堂などの施設がせっかくあるんだから、人が集まってくれるような有名な方などを呼んでコンサートやミニミュージカルをし

てもらえば、いいのではないかと考えました。

せっかく福島市には、たくさんのお有名な物があるんだから、それを活用しないともったいないと思います。子どもたちが気軽にタダで遊べるような施設もあるんだから、もっとアピールして、たくさんの人たちに来てもらえるようにしていつて、明るく、多くの人がおとずれるような福島市にしたいと思っています。

「よりよい福島市をつくるために」

福島市立福島第四中学校

佐久間 優衣

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という条文を見て思いうかんだのは、信夫山、花見山、荒川、阿武隈川です。しかし、そんな山や川に行くと必ずといって良いほどゴミがたくさん落ちています。なぜ、このようなきれいなみどりの山にゴミをポイ捨てしてしまうのでしょうか。

福島市民憲章の一つに「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」とあります。しかし、すこし歩いてみるとゴミがたくさん落ちています。そこで、このようなゴミが落ちている問題を解決するためにできることはなにかを考えてみることにしました。

一つ目は、当たり前のことですが、道などにゴミをポイ捨てしないことです。ゴミが落ちていてだけでその町の外見が変わっ

てしまうこともあつたりします。また、ゴミが落ちていると、信夫山や花見山に来た人もせっかくきれいなのもう来たくないと思うかもしれません。まずは一人一人がゴミをきちんと捨てるのが大切です。

二つ目は、川にできるだけ汚れた水をながさないことです。大さじ一杯の油汚れを洗い流すのに必要な水は浴槽十六杯以上だと聞いたことがあります。しかし、ちょっとした工夫をすることで、解決できると思います。それは、小学生のときの家庭科で習ったことです。一度洗う前に油を拭き取ってから洗うことです。そうすることで、使う水も洗剤の量も減らせるのではないのでしょうか。

三つ目は、ゴミのポイ捨てをしてはいけないと自覚をつけることが一番大切です。なぜかという、ゴミを捨てる場所があるというのに、道に捨てる人がいるからです。このようなことはあつてはならないので、呼びかけをしたり、ボランティア活動で、ゴミ拾いをするのもいいと思います。

最後に、一人一人がこれらのことを意識して生活していくことで、「空も水もきれ

いなみどりのまち」をつくれるのではないのでしょうか。私たちにとって、福島市民憲章は、とても大切な目標です。みなさんが、この五つの目標を守ること、住みよい福島市になるのではないのでしょうか。これからも福島市民憲章をみなさんで守っていきましょう。

「市民憲章のために」

福島市立福島第四中学校

山 田 悠 雅

福島市民憲章の中の、「親切で愛情あふれるまち」を見たとき、東日本大震災の時のことを思い出しました。地震により水道の配管が壊れ、一ヶ月以上の断水がありました。そんな時に、助けてくださったのがまちの人達でした。見ず知らずの人なのに地下水を分けてもらえるお宅を紹介してくれる人や、見ず知らずの人なのに、地下水を必要だけ分けてくれたりと、とても親切にしてもらった経験があります。なので、次は私から困っている人がいたら進んで少しでも力になりたいと思っています。

「空も水もきれいなみどりのまち」を見た時、私が一番に連想したのは、信夫山です。信夫山の他にも、阿武隈川や、一盃森など福島市は多くの自然に囲まれています。そんな多くの自然は、福島市民全員で守っていく必要だと思います。ゴミの分別

やポイ捨てをしないなど、一人一人が心がけることによってよりきれいなまちになると思います。また、ゴミ拾いなどボランティア的な活動を進んで行うことによって福島市のみどりは、さらにきれいになると思います。

「教育と文化を尊び希望に輝くまち」と聞いて私は、文化という所が印象的でした。私は福島文化と聞いたらすぐに、わらじ祭りや暁まじりの二つを思いうかべます。この二つの行事は、昔羽黒神社に仁王門があり、安置されていた仁王様の大きさにあつたわらじを作って、奉納したのが始まりだといわれています。私は、今まで受け継がれてきたこの文化を、大事に受け継いでいくことが歴史ある福島市のためにも非常に大切だと思いました。

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」これは、毎日楽しく過ごすためにもとても大切なことだと思いました。交通ルールや、きまりを守り、安全なまちを作ると共に、日常的にスポーツやレクリエーション活動などを取り入れ、健康な心や体をつくり活気のあるまち作りに協力し

ていきたいと思っています。交通ルールは、正しく身につけることで、交通事故をなくすることにつながります。なので、一人一人が交通ルールを意識して守れば、福島市は安全で安心して暮らせる、とても良いまちになると思います。さらに、日常的にスポーツや、レクリエーション活動を取り入れることによって地域のひととの交流も増え、健康的で活気のあるとても良いまちになると思います。

私は、まだ中学生なのでわからないことも多くありますが、今後もっと勉強して福島のためにあることを見つけ、それを自分から実行してみたいと思いました。

「緑豊かな町をつくるためには」

福島市立福島第四中学校

瀬谷 幸奈

私は、福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」に目をつけました。その理由は、三つあります。

一つ目は、私の経験にあります。私は、父の会社のゴミ拾いを手伝ったことがあります。タバコのすいがらやペットボトルやみんなが驚くようなゴミがたくさんありました。大量のゴミがあつて私はびっくりしました。なぜなら福島市は、きれいだと思つていたのでたくさんさんのゴミがあつたからです。一見きれいな町に見えるけれど、ゴミだらけな町にたくありません。福島市をきれいにするには、私たちができることからやっていきたいです。

二つ目は、植物をあまり育てたときがないからです。私は植物を育てようと思つていてもすぐにあきてしまつて枯らしたことがたくさんありました。だから、これから

は植物を育てるときには、最後まで面倒を見て花を咲かせていきたいです。家庭のことからでもいいのでやっていきたいと思ひます。

三つ目は、緑豊かな町に住みたいからです。誰もがきれいな町に住みたいと思つています。だけどゴミが落ちていたりするとみんなが不快な気持ちになります。私は、そんな気持ちを無くすためにいろんなことに挑戦していきたいです。ボランティア活動、ゴミ拾いなど私ができることからやっていきたいです。これから私は、福島市に目を向けてがんばりたいです。

四つ目は、東日本大震災を被災したからです。福島も震災をうけたのにも関わらず、復興を目指してがんばっているから、私も福島のために何ができるか考え、やれることをとどんどんやっていきたいです。そのためには、福島市に足りないところを考え、いろんなイベントに参加して福島市を盛り上げたいです。

最後に、福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」を通して思つたことがあります。それは、み

んな福島のためにがんばっていることです。私は、いつもの生活のことしか考えていませんでした。なので、私もこれから、福島のことを考えたいと思ひます。そのためには、福島の雑誌を読んでみたり、福島のいろんなところを観光してみたりして、福島のことをもっと知りたいです。そして、福島の活性化のために私も協力し、支え合いたいと思ひます。福島は、東日本大震災を被災しても、復興したいという気持ちがたくさん伝わりました。いまだに、ひなん区域からはずれていないところもあります。それでも、福島は、さまざまなことを通してがんばっているのです。私は、これから変わっていく福島と共にいろんなことを通して一緒に歩みたいと思ひます。これからの時代、福島が変わっていくのを私たちは、暖かい目で見守り続けて行きたいと思ひています。

「あいさつで友情あふれる福島に」

福島市立福島第四中学校

明 石 紀 帆

私は、福島市には自然や良い場所が多く、あると思います。たとえば、四中をかこつてある信夫山やいっぱい森など自然なものや、学校、ほかにもいろいろなものが福島市にはあります。そんなすてきな場所に住んでいることが私は幸せだと感じます。

そんな福島をより良くするために私は、二つのことを考えました。

一つは、あいさつです。あいさつは、家族や友達といつも会話をするためにになげなく使っています。私の学校はあいさつ日本一を目指して、私もあいさつを心がけています。でも、家族や学校の先生、友達など知り合いとだけあいさつなどをしていてはだめだと思います。歩いているときにすれちがった人や知らない人でもあいさつをしたほうが良いのではないかと思います。でも私は、そう自分が思っていない、なか

なか実せんするのは難しいと思います。私は近所の顔を知っている人でもあいさつがあまりできていません。でもあいさつをするとすっきりしたり、いい気持ちになったりするのであいさつを心がけていけば福島市もより良くなると思います。

二つ目は、笑顔です。笑顔は人を幸せな気持ちになります。私もなるべく笑顔を心がけています。それに笑顔でいると明るくなったり人からこの人はいい人だなと思ひすかれたりして、相手もいい人に会えたし自分も、あらたな出会いがあると思います。

この二つのことを私は考えました。それに、笑顔であいさつをしたらさらに良くなると思います。私は前にもこのような作文を書いたことがあります。前に書いた作文をいかしてこれを書きました。前に書いた作文にもあいさつのことを書いていました。昔から私はあいさつは大切なことだと思っています。

このような小さなことをつみ重ねていけば、きっと将来の福島市は、今よりももっとすてきな福島市になっていると思います。私も、福島市がもっとよくなるように

がんばっていききたいと思っています。

「水や緑があり

安全な町にするために」

福島市立福島第四中学校

庄子 遥 菜

私は、五つある憲章の中で「空も水もきれいなみどりのまち」と「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」をテーマにしたいと思います。

まず、環境についてです。水の文字を見て私は、松川という川を思い出しました。そこには六年生のころくらいから何度か遊んでいて川の中に入ったり砂の所で皆で何かつくってみたりしていました。そのころは、ちよこちよこゴミが流れていたりする程度でしたが中学に入り、一カ月くらい前に久しぶりに見に行ったら明らかにゴミの数が増えていて不快な気分になったことがあります。こういうゴミ達は、誰かが川に捨てていくか、ちがう所でポイ捨てしたゴミが風にのって川に入ってしまうのかなと思います。だから、ゴミを減らすために

注意書きをかけた看板やゴミ箱を色々な場所に設置したりすればいいんじゃないかと思いました。ちゅう輪場や、目立つ看板の横などに置いてポイ捨てを減らしていけば川などもキレイになると思います。緑のことにについては、私たち学生などが授業の一環として山に木の苗を植えたり学級で花を育て花が咲いたら町の色々な所に置いたりしていけばいいんじゃないかと考えました。

次は、子供やお年よりの安全や健康などについてです。私も子供なので判断能力も大人よりは、おとつてしまつて危なかった時がありました。曲がり角や細い道などでぶつかりそうになった事が何度かあります。車がきているのが分からなかったり、きているのは分かっているけどどこらへんにいるのか分からないから今通つていいのか分からなく困ったりすることがあります。だから、カーブミラーなどを、そういう所に今よりもっと増やしていけばいいと思います。曲がる直前などにウインカーを出して危ない車もあるので呼びかけをしたり、車を教えている所で言ってもらった

りなどの対策も必要なんじゃないかと思います。そして健康の方も気をつけなければいけないと思います。子供以外の人とは殆ど運動などをする機会がなく病菌が体に入ってしまったら病気を引き起こしてしまう事が多くなるんじゃないかと思うので、子供とお年よりがいっしょに運動する行事を作ったり、会社などで朝五分間ラジオ体操などの対処をすればいいと思いました。体以外の心の健康を保つには、相談所みたいな所が必要だと思います。電話の相談以外にも、メール相談やそういうことを書きこめるサイトを作ったりなどためこまないように誘導することは町でできるかなと思います。

市民憲章を皆に呼びかけたりポスターを作ったりなどして一人一人が意識してできるようになれたら住みよい町になると思います。

「きれいにしよう湖や川」

福島市立岳陽中学校

渡 辺 保奈美

私は、川などは、きれいで、生物もすみやすいと思っていました。

でも、実際に川に行ってみたら、ごみが捨ててあったり、木といっしょに、ごみ袋などが流れてきたり、からまつたりしているのを見て、うわー、こんなに捨てたりする人がいるのか、と思い、残念な気持ちになり、川がきれいになれば、川の近くで、バーベキューをして、楽しくすごせるのに、と思いました。

なので、私は、川がきれいになれば、魚が増えて、釣りなどが楽しめ、とれたての魚を焼いて食べたり、と言う感じで楽しみたいと思いました。

次は、湖がすごく汚くて、びっくりしました。湖くらいは、きれいだろうな、と思い、遊ぶのが楽しみだなあと行って見たら水の色が少し、にごっていたので、えっ、

と思ったけど、まあ少しくらい、いいかと思つて、お兄ちゃんとお姉ちゃんと遊んでいたら何か浮かんでいるなーと思つていたら、こっちの方に来て、見たら、だれが食べたかわからない、スイカの皮が流れてきたので、は？えっ？と思いました。

湖は、にごっていたり、食べた後のスイカが流れてきたりはしないので、捨てたりする人に、ちゃんと生ごみに捨ててと言いたいくらいです。

なので、ごみを捨てる人には、捨てないように、看板を立てたり、ゴミ置き場をつくったりすればいいと思います。

後は、ボランティアなどで捨ててあるゴミなどをせっきよく的にやっていけば、川や湖がきれいになり、生き物などがすみやすくなり、川で遊んだり、バーベキューをやつて楽しんだりすることができると思います。

川を汚れないように、少しずつ、ゴミを捨てる人を少なくしていければ、川などといっしょに、町なども少しきれいになると思います。

なので、ゴミを捨てる人は、ちゃんと、

ゴミ箱にすてるようにしてほしいです。

「明るい笑顔」

福島市立岳陽中学校

高野 姫乃

いまから二十四年後、私が母と同じ年齢になったところ、私の住む福島市はどうなっているのか。子供もお年寄りも笑顔いっぱい
の福島市になっているだろうか。私は、未来の地域社会に対する考えや、未来の子供達のことを良く考えます。現在社会問題となっている「少子高齢化」もこのまま続く
とどのような世界になっていくのか、私の心は不安でいっぱいになります。

では、「少子高齢化」が続くとどのようなデメリットがあるのか考えてみました。現代社会が抱えている問題の一つである少子
高齢化。最初に経済面から見てのデメリットですが、少子化による人口の減少によ
って生産性、および高齢化による労働力の低下につながるということでした。人口
の減少は、毎年産まれる子供達の減少をさ
しています。そして医療が発展したことに

よる平均寿命が延び高齢化社会になります。子供が減り、高齢者が増えると必然的に労働力となる人口が減ってきます。そして、労働力の低下により経済が活性化せず、会社で働く社員の給料も減少。国民がますます貯蓄を行う傾向になれば投資（お金を使う行為）が抑制され、さらに経済が悪化します。また、生活水準からみてのデメリットですが、人口の減少による労働力の低下は経済成長を大きく妨げることはもちろん、特にこれからの日本を背負う若者たちは高齢者の年金成果や社会保障の為高齢化によって生活が圧迫されます。

社会保障費の負担が国民の生活水準に大きな影響を及ぼします。人間はいつまでも働くことのできる力を持っているわけではありません。年を取れば体力も落ち、若いころのように力仕事もできなくなってしまう。明るい未来を夢見ている私たち十代の将来が非常に暗いものとならないよう、今後続くと思われる少子高齢化社会を生き抜くため、いまから考えていかなければいけない大きな課題となると思います。みなさんぜひ時間があれば、未来の

地域社会に対する考えなどを思いうかべてみてはどうでしょうか。

「『福島市民憲章』とは何か」

福島市立岳陽中学校

馬 庭 利 央

僕は、「福島市民憲章」をよく知らない
ので、一つ一つ考えてみることにしました。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりの
まちをつくりましょう」という事を考えて
みます。この言葉の意味は、排気ガスなど
がなくとてもおいしい空気で汚染されてな
いすきとおるような水で生き物が豊かで自
然がいっぱいという意味だと思います。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝
くまち」という事を考えてみます。この言
葉の意味は、教育は、子どもの成長にとて
も重要なことであり、そして、文化は、論
語にある「温故知新」のように過去を教ぶ
ことによって未来に役立てることができ、
希望の光にみちた町を目指すという意味だ
と思います。

三つ目は、「親切で愛情あふれるまちを
つくりましょう」という事を考えてみます。

この言葉の意味は、さまざまな住民が交流
でき、仲良く、助け合い、生活を良くし、
住みやすい街を目指すという意味だと思っ
ます。

四つ目は、「きまりを守り力をあわせて
楽しく働けるまちをつくりましょう」とい
う事を考えてみます。近年、労働基準法に
違反するような大変悪質な企業が話題に
なっています。そのため、皆が安心して働
ける職場が理想的とされています。皆がき
まりを守ることによってそこではじめて安
心して働ける職場ができるという意味だと
思いました。

五つ目は、「子どもからおとしよりまで
安全で健康なまちをつくりましょう」とい
う事を考えてみます。東北地方は、全体的
に肥満度がとても高く、全国で肥満度ラン
キングですべてトップ一〇入りしていま
す。そして、福島県は、二位にランキング
しています。肥満度が高いと生活習慣病に
なり脳梗塞や心筋梗塞、そして糖尿病など
のとても重く恐ろしい病気にかかりやす
くとても危険な状況になっています。そのた
め健康で楽しく生きていけるため予防の意

識を高めるという意味だと思います。

今まで出てきた「福島市民憲章」をまと
めてみます。

まず一つ目は「空も水もきれいなみどりの
まちをつくりましょう」は、自然豊かな
街を作りましょうという意味です。

そして二つ目は、「教育と文化を尊び希
望に輝くまちをつくりましょう」は、子ど
もを文化の教育で育てようという意味で
す。

三つ目は、「親切で愛情あふれるまちを
つくりましょう」というのは、地域の人が
仲良く協力するという意味です。

四つ目は、「きまりを守り、力をあわせ
て楽しく働けるまちをつくりましょう」と
いうのは、ルールを守って働こうという意
味です。

五つ目は、「子どもからおとしよりまで
安全で健康なまちをつくりましょう」とい
うのは、健康に気をつけて楽しく生きると
いう意味です。

「ぼくの経験から」

福島市立岳陽中学校

佐藤 謙伸

福島市民憲章の一つ目、「空も水もきれいなみどりのまち」を見るとぼくは、荒川を思いだします。荒川の周りにも木がたくさん生えていたりします。また、全体を見ても田んぼがあったり、森があったりして緑がいっぱいの町です。植物があると光合成で二酸化炭素を吸収して暮れるので地球温暖化を防いでくれます。また田んぼがあると、沿水にも役に立つし、気温の寒暖の差も小さくしてくれます。でも一つ問題があります。それは川のゴミです。荒川は日本一きれいな川と言われていますが、ゴミが落ちているのを見かけます。ぼくが考えるには、飲んだペットボトルやビニールのふくろをその辺に捨てて、水や空気のことを考えていない人がいることで環境を汚しているのだと思います。ゴミがあると空気をよごす原因になってしまうので、川から

きれいにしていくことが大事です。公園は清掃したことがあります。川は清掃したことがあります。気づいたときはゴミを拾い、川をよごさない、空気をよごさない、そして海と空をよごさないようにしていきたいです。

福島市民憲章の五つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。まず、子どもから考える。と道の歩き方や自転車の乗り方が危ないときがあります。歩行者歩行は右、自転車は左となっていますが、けっこう子どもが間違っていることがあります。ぼくが感じているのは中学校に行くときの橋です。自転車が行きたくて困っているときがあります。ぼくはよけていますが、反対側から歩行者が来ていると自転車は通れなくなっています。この経験から福島市内の道路を通行しやすいように考えていきたいです。次におとしよりのことを考えてみると、元気な方ばかりではなく、体が不自由な方も見かけます。ぼくが経験したことは、電車です。杖を持ったおとしよりが立って乗っていたので席をゆずってあげた

ら、とても喜んでくれました。このことから、周りを見て判断し、行動に移すことが大切だと思いました。その他にも、重い荷物を持っていたら、運ぶのを手伝ってあげたり、足が不自由な人に手を貸してあげることも優しさだと思います。

美しい自然環境の中で、子どもから大人まで安全で健康にくらすことができるようにするために、まずはぼく自身が、自分とができる中学生になりたいです。そして行動の輪を少しずつ広げていき、奉仕の心あふれ、弱者のことを大事にする福島市にしていきたいです。

「自然あるきれいな市を目指す」

福島市立渡利中学校

佐藤 春花

福島市民憲章の一つに、「空も水もきれいなみどりのまち」というものがあります。私が初めて「空も水もきれいにしたい」と思ったのは、まだ小さい幼稚園のころでした。

小学校の入学をひかえた春休みに、東日本大震災がありました。そしてその影響で原子力発電所が爆発してしまいました。それから外には極力出ずに、どうしても出るときは、長そで長ズボンにマスクをする。そんな生活をするようになりました。避難する人も増えました。福島市は事故現場から遠かったのですが、現場よりも被害は小さかったけれど、当時はこれからどうなるのかとても不安でした。早く空気がきれいになってほしいと家族と話していました。

また、原発の影響で福島の作物がなかなか出荷できなくなりました。福島の作物は

とてもおいしくて大好きだったので、そのことを知ったときはショックでした。

あれから七年の月日が経ち、少しずつ復興が進み、空気もきれいになってきました。すり上浄水場の水道水はきれいで安心して飲んでいます。友達と元氣いっぱい外で遊ぶこともできます。元通りになってきた福島には観光客もいっぱい来ます。渡利の花見山には地元の方以外にも遠い国内外から来てくださった方もいます。

復興が進んできた今こそ、あのときの不安を忘れずに、きれいな空気、水を保ち、自然を大切にしていければいいと思います。

自然を守るのはとても大変なことです。例えば森林ばつさいは人々の生活をより良いものにするために必要です。でも、ばつさいをしてしまったせいで住む場所がなくなってしまう動物達もいます。その動物達が食べ物を探めて、人里へ下りてくるというニュースを何度も見かけます。

あのとき東日本で起きた震災は「天災」ですが、原子力発電所爆発事故は「人災」です。

天災が起こるのは自然なこと、止めることはできません。ですが、人災は、工夫次第で防ぐことができます。

「空も水もきれいなみどりのまち」をつくるためには、できるだけ人災を少なくし、自然と共存することが必要だと思います。

「私たち自慢のまち」

福島市立渡利中学校

白井 若奈

福島市民憲章の一つ、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」を思い出し私たちのまちはきれいな空気、緑、山に囲まれている。これは田舎ならではのあたりまえの風景なのだ。幼い時からなじみのある町だが正直、「緑ばかり、なにもない町」だとひそかに思っていたことがあった。そんな中、東日本大震災がおこった。それから、外で、遊ぶのが大好きだった私は自由に遊ぶことができなくなり、笑顔がきえてしまった。その他にも今までとはちがう風景が目映って驚きをかくせなかった。道路にはひびが入り、屋根がくずれていたり、そして放射線物質が広い範囲にわたって降っていると聞いたり、私たちのまちはこわれていったのだ。あの日からもう七年もの月日が経ったが当時の記憶はずっと頭の片すみにある。改めてまちをみ

るとすっかりきれいな町にもどっている。震災前よりも整備された町を見ているとなぜかさびしい気持ちだった。

ある日のこと、おばあちゃんと松川のまちを散歩することになった。田んぼにはさまれたせまい道を通った。辺りを見回しても一面中緑の田んぼでその景色を目に焼きつけ、ゆっくりのペースで山にある公園を目指した。田舎道をどんどん進みようやく公園についてからベンチにすわった。鼻で息をしたと同時に山のしめった空気を感じた。私は「ああ、山といえはこういうにおい」と思った。するとおばあちゃんが「帰ろうか」と言ったのもとの道をまた往復した。もうその頃の空模様は、少し赤みがかった日も沈むころだった。そしてもう一度一面中の田んぼをみたとき、日が田んぼを照らし緑から黄色に近い色になっていた。やっぱりきれいな福島市のまちだった。

福島市の中でも色々な景色をみてきたが吾妻山、阿武隈川、思い出の田んぼ、福島市のまちは本当に豊かだ。福島市民として植樹祭に参加するなど、協力、手をつくしていきたいと強く感じました。

「親切で愛情あふれるまちへ」

福島市立渡利中学校

高野 あかね

私は、このコンクールを知るまでは、「福島市民憲章」について、全く知りませんでした。しかし、市民憲章を読んでもみると、大切なことばかり書かれていました。その中で、私が最も実感していて、特にこれからも続けていきたいと思っている市民憲章は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。親切で愛情あふれるまちというのは、誰にでも自分から進んで親切な行動をし、明るく優しい言葉をかける人や態度の人がたくさんいる町のことだと思っています。それはとても大変なことと思いますが、実現したら、町全体が幸せに暮らすことができると思います。私の実感していることを振り返り、これからの生活に大切なことは何か、考えてみます。

私がこの町で、親切で愛情があるなと思うことは、人とすれ違うときです。なぜな

ら、

「おはよう。気をつけてね。」

と、言ってくれる人がたくさんいるからです。また、部活で朝早く登校するときに、

「おはよう。朝練？毎日頑張っているね。応援しているよ。」

と笑顔で声をかけてくれる人もいます。そう言われるとなぜか元気が出て、よし今日も頑張るぞ！と思います。このとき私は、言葉には大きな力があると思いました。一言で、うれしくなったり元気をもらったりします。だから、声をかけてあげることがは、とても大切であると思いました。しかし、言葉をかけてくれる人は、お年寄りの人ばかりです。大人や子どもは、あまり言葉をかけてくれません。だからといって、言葉をかけないのはおかしいので、私は声をかけてもらってとてもうれしかったことを思い出し、自分から相手に元気を与える言葉をかけてあげられるようにしたいです。まずは、あいさつからできるようにしました。最初は、恥ずかしくて小さな声しか出なかったけれど、今は大きな声で明るく言えるようになりました。そして、あいさつ

ができるようになったので、今度は相手に笑顔と元気を与える言葉をかけられるように、頑張っていきます。

このように、親切で愛情あふれる町にするには、相手を元気付ける言葉をかけてあげることが、とても大切だと思います。しかし、言葉をかけてあげるまでが大変なので、まずはあいさつをしつかり言うことだと思います。あいさつは、短い言葉なので、誰でも簡単に言うことができるはず。そして、あいさつを言うことができるようになったら今度は、相手を元気付ける愛情あふれる言葉をかけられるように頑張りたい。そうすれば、親切で愛情あふれる言葉がたくさん飛び交うまちに、近づくのではないでしょう。人と人同士が、励ましの言葉をかけ合う町は、明るく楽しくとても暮らしやすいと思います。福島を親切で愛情あふれるまちにしましょう。

「自然は宝物」

福島市立渡利中学校

高野 心結

私は今回、福島市民憲章の、「空も水もきれいなみどりのまち」について、川の水質と自然について、私の体験にもとづいて考えたいと思います。

私は、四年生のときに授業で花見山に行き、花見山の魅力を世界の人々に伝えるという活動をしました。以前、家族で何回か花見山に行った事がありました。花の名前や桜の種類などを、くわしく調べたり、観察する事がなかったので、四年生のときに初めて花見山の事についてくわしく知ることができました。そこで、観光地の花見山をつくった阿部一郎さんという人物のことを知りました。阿部一郎さんは、たくさんの人々に花を楽しんでもらいたい、知ってもらいたいという思いがありました。阿部一郎さんは、もう亡くなってしまっただけで、その思いが今でも受けつがれて

いてとても感動しました。これからも花がいっぱいある美しい花見山を大切にしていきたいと思っています。

次に、初めは渡利地区の家の周りや道路、公園、河川などをごみのないきれいな環境にしたいと思いました。小学校の時に、授業で小学校の周りのごみ拾いをしたことがありました。カンや大きいごみは少ないのですが、たばこのすいがらや、あめの袋、小さいごみなどがたくさん落ちていました。そこでごみの数をグラフにまとめてみました。一番多かったごみは、たばこのすいがらでした。

次に、地域でごみ拾いをしました。すると小学校の周りとは、大きく違いました。小学校の周りのごみには、カンや大きいごみなどは少なかったのですが、地域のごみ拾いでは、カンやペットボトルなど大きいごみが多く、破片やお菓子のごみ、たばこのすいがら、ビニール袋も多く落ちていました。小学校の周りとは地域のごみで共通して多かったごみはたばこのすいがらでした。ごみは、きちんとごみ箱にすてるなどをして、きれいな環境にしなければならな

いと思いました。

最後に、川の水質のことについてです。五年生の時に、宿泊学習で上流の水質調査をしました。上流は、とてもきれいでした。次の中流の水質調査をしました。上流に比べてとても汚かったです。次に下流の水質調査をしました。上流よりは汚かったのですがなんと、中流よりきれいでした。なぜ、中流が汚かったのかというと、中流が流れている所に、私たちがすんでいて、その私たちが汚い水を中流に流しているからです。そのため、中流が一番汚かったのです。上流から流れたきれいな水を私たちが汚してしまっているのです。そのせいで、魚や生き物が生活できない環境になっています。こうした体験から、私は、一人一人が自然を愛し、環境を大切にするという思いをもって、人間と生き物が共存できる豊かな自然を守っていききたいと思います。

「美しいまちづくり」

福島市立渡利中学校

根本華奈

私は今まで、福島市民憲章というものがあることを、知りませんでした。大震災を経験した今、福島市がまちをよくしたいと思っていることが、前向きでいい考えだなと思いました。私も、少しでも役に立てたらいいなと思いました。

私が一番、気になったものは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というものでした。

私は、花見山という山の近くに住んでいます。そこには、桜や梅などの花や木がたくさん植えられています。春に、出店なども出て、すごくにぎわいます。県外や海外からの、観光客も来ます。小学生のころ、渡利の良い所を見つけようという総合的な学習で、「花見山応援隊」というのをつくりました。そして学年全員で、観光客の案内をしたりしました。渡利の良いところを

改めて知れて、すごく楽しかったです。外国語の勉強もし、海外の人も案内できました。観光客や案内の人の人にも、喜んでもらえてうれしかったです。少しでも協力できたことは、よかったです。その後の学年も続けてくれました。

福島市は、自然がたくさんあります。例えば、果物がたくさんとれます。それは、すごくいいことだと思います。しかし、東日本大震災の原発事故によって風評被害が起こっています。すごくおいしいので、他の県の人にも食べてほしいなと思っています。最近はどうも、放射線量も少なくなってきています。きちんと検査もしているから、食べても大丈夫なのに、食べない人がいます。そういう人たちも含めて、みんなにおいしい果物を食べてもらい、福島を食べるのは安全でおいしいものだと思ってもらいたいです。

これらのことを大事にするために、私でもできることを考えました。まず、ボランティアなどでごみ拾いなどをする事です。少しでもいいので、自然を守れたらなと思います。さらに、福島市内の野菜や果

物を食べたりして、安心安全なことをアピールできたらなと思います。このようなことで、風評被害がなくなったらいいと思います。

もし、この作文を書く機会がなかったら、福島市民憲章を知らなかったと思います。私は、この作文を書くことで、福島市民憲章を知ることができてよかったと思います。これからの生活などに生かしていきたいです。福島市民が福島市民憲章を意識して、生活したら、いいまちがつけれると思います。みんなに、福島市民憲章を知ってもらえたらいいと思います。

「私の大好きな町『福島』」

福島市立渡利中学校

阿 部 ななみ

福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、市民一人ひとりが心をあわせ、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして昭和四十八年四月に制定されました。

私は、この作文を書く機会があるまで市民憲章とは何かどんな事をまつたく知りませんでした。でも、これを機に考えるようになりました。

私が住む福島は、市民憲章にもある「空も水もきれいなみどりのまち」だと思います。晴れの日の上を見ればすきとおったきれいな空が広がり、春になれば周りの山は色とりどりになります。私は小学生の時に花見山応援隊として観光客や外国人などに花見山をPRしたり、案内したりする活動を体験しました。私が住む福島がこんな

もつらく苦しい震災を乗り越えて、こんなにもすてきな町に戻ったのかと思うととても嬉しいです。それをもっと他県にも広めていきたいと思っています。

私が福島が好きな理由は、もう一つあります。それは市民憲章にもある「親切で愛情あふれるまち」です。福島の人みんなあたたかいです。毎朝横断歩道の前に立ってくださる見守る会の人達は、雨の日も風の日も雪の日もあるいは三十度をこえる暑い日もいつも元気に、

「おはよう。いつてらっしゃい。」

と言ってくださいます。私はその優しい一言で何度も勇気付けられました。この前は、部活の帰りに疲れた顔で歩いていると、

「部活大変だったかな？お疲れ様。」

と声をかけてくれたおじいさんがいました。私はとてもとても嬉しかったです。私もこんなすてきな人になりたいです。

福島では当たり前のように交わされているあいさつ。しかし、他の県ではどうでしょうか。家族で旅行に行ったときにその県では一つもあいさつが交わされていませんでした。あいさつをしているのに無視をして

いる大人もいました。私はとても残念でした。同じ日本でもこんなにもちがひがあることが分かりました。良い事をマネし合って人は成長します。なので福島の良い所、元気にあいさつできる所を他の県にもマネしてもらえようにしたいです。

良い所もまだまだな所もある福島。たがいを認め合い、はげましながらもつとめたい町にしていきたいです。

「みんなが安全に健康に

過ごすために」

福島市立渡利中学校

荒井 桃果

私は、福島市民憲章の一つ、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」を実現するためにはどうすればいいのかな、と思いました。まず安全についてです。私は、福島市の事故の発生数と発生しやすい時間帯を調べました。事故の発生件数で、福島市は福島県全体で六位、人口百人あたりの交通事故発生率は、〇・六四パーセントでした。交通事故発生件数が多い時間帯は、午前八時、午後五時から六時です。交通事故発生が多い理由は、交通量が増えること、朝、気があせってしまふこと、夕方、暗くて見えにくいことや疲れが主な原因だからです。

みんなが安全に過ごすためには、朝、時間によゆうをもって行動すること、夕方や夜は、暗くて見えにくいことがあるので、

懐中電灯を使ったり、おそい時間には外に出ないことが大切だと思います。

次に、健康についてです。私は予防法について考えました。私は、手洗いがいをする、マスクを付けることが大切だと思います。なぜなら手洗いがいをする、とで、風邪や他の感染症を予防することができるからです。手には、目に見えないバイ菌やウイルスがたくさん付いていて、鼻をかんだり、くしゃみ、せきを手でおおったりした手で、手すりやドアノブなどの共有のものにさわると、そこにウイルスが付着して、そこを別の人がさわると、その手で鼻や口のまわりを無意識にさわること、風邪や他の感染症が感染します。

みんなが健康に過ごすためには、手洗いがいを、外から中にもどってきたとき、食事の前、トイレの後、みんなと共有の物などにさわった後などにこまめにすることや、マスクを付けたりして、風邪や他の感染症の予防をしたり、他の人へ風邪などをうつさないようにすることが、大切だと思います。

今回、交通事故が発生しやすい時間を調

べたり、風邪や他の感染症の予防方法を考えたので、これからは、みんなと共有の物をさわった後や、家でも、食事の前に手洗いがいをしたり、時間によゆうをもって行動したいです。また、家族や友達に手洗いがいやマスクを付けることの大切さや、交通事故が発生しやすい時間帯とその理由を知ってもらって、みんなが安全に健康に過ごせるようにしたいです。

「歴史からよりよいまちを目指す」

福島市立渡利中学校

金子 南 悠

私は今まで市民憲章という存在を知りませんでした。この市が平和で、住みよいまちをつくるために定めた市民憲章で私も協力し、役に立ちたいと思いました。

その中で私は「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」という項目に興味を持ちました。

私の母は歴史に関わる仕事をしていきます。私も小さいころから歴史が身近だったり、小学生のとき学年で宮畑遺跡へ行き、火起こしや弓矢で動物が描かれた板を倒すなどの体験や縄文時代の人々の暮らしの展示を見たりしたことから、文化財が大切であることや、実際に見ての歴史の偉大さがわかりました。宮畑遺跡には縄文土器があり、間近で見ると数万年、数千年の歴史が感じられました。いつも使う調理器具とは色も見た目もちがいました。その宮畑遺跡

の見学のときにあまり興味が無さそうにしている人がいました。その人は普段の授業もよくきかない人で「勉強は意味がない」や「学校に来たくない」などをよく言っています。しかし、私の父は四十さいを過ぎても将来のため、勉強して資格を取りました。今のうちから勉強をいやがる人よりも、将来のために年齢が高くなっても勉強をがんばっている人の方がカッコいいと思いました。そのことから私は、今は中学生の勉強をがんばり、将来自分のしたい職業についた後もその職業のことやそれ以外のことをずっと学べるようにしたいです。

母の仕事の他に家の近くに博物館があったことも私が歴史や勉強を好きな理由の一つです。小学生のころ一度転校したのですが、転校前に住んでいた場所に博物館があり、友達と時々行きました。旧石器時代から昭和までの歴史について知れて、小さかった私は昔の人々の暮らしや衣食住が今と全くちがうことに衝撃をうけました。そして私は博物館によく行くようになりました。

周りの歴史に興味がない人も身近なもの

の歴史から興味を持ってほしいです。例えば民家園では、昔の農家の人の暮らしを体験できたり昔の食事を実際に食べることもできます。昔は福島のいろいろな家で行われていた養蚕業の蚕を見ることもできます。このような場所に自ら行くこともできると知りたくなり、他の教科でも自ら進んで行うことができ、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」となることに一歩近付けると思います。

「震災後の福島」

福島市立渡利中学校

椿 健

福島市民憲章には「空も水もきれいなみどりのまち」というのがある。このみどりのまちは、ある一日の災害で姿を消した。

二〇一一年、三月十一日、二時四十六分、東日本大震災が起きた。福島市は、津波や土砂崩れなどは来なかったが、木や花は折れていて、肥料となる土も地面に飛び散っていた。日本で有名な花の名所「花見山」も一度閉園した。木などが折れているのが見えた。

地震がおさまってから一週間が過ぎて、川を見てみると、茶色く濁っていた。おそらく、下にあった土が地震で阿武隈川の水と混ざったのだろう。私はこの光景を見て「この先、木や花や土、川はどうするのだろうか」と思っ不安になった。

しかし、福島市は徐々に回復していき、一時どうなることかと心配した「花見山」

も開園した。私が入っていた町内会や近くの町内会では、落ちていたゴミを拾ったり、花を植えたり、土を取り替えたりして元のみどりのまちに戻っていった。私もできる時には、なるべく参加していき、ゴミ拾い活動や花植えをやった。水の方も福島の天然水が日本一になった。

震災から七年が経ち、私は震災後の福島市を見たり、参加したりする中で、感じたことがある。地域で少しでも何かに取り組めば、だんだんと「空も水もきれいなみどりのまち」になっていくことだ。そして「花見山」が開園した後も全国や世界からも観光客が来て絶賛しているのをテレビで見て、とてもうれしく、ようやく戻ったんだと思った。

まだきれいになっていない木や花が見えるときもある。改善するためには、土の取り替えやゴミ拾いをした経験をもとに、福島市以外の地域で花植えなどの手伝いをするボランティア活動に参加したいと思う。そうすれば子供も大人も喜んでくれる。そんな福島市にしたい、それを全国に発信していきたいと思う。例えば、福島の文化や

祭りを伝えたり、福島市のホームページに見所やこれからやる祭りなどを書いたりして伝えれば良いと思う。花見山のライトアップもやってみたいと思っている。そのために、福島市の役に立つ仕事をこれからもやっていきたい。

「大切な『福島市民憲章』」

福島市立蓬萊中学校

佐藤 優大

僕が「福島市民憲章」で一番大切だと思ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。その理由は二つあります。

まず一つ目は、今、世界の公害が問題になっており、きれいなまちをつくるのはとても大切なことだと思います。その中でも森林が減少し、世界中で緑がなくなりつつあります。そのような問題を、市民全員の目標にすることは一人一人が責任を感じ、これまで大切な自然をこわしてきた人が反省し、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という目標どおり自然を大切にすると思います。

二つ目は「空も水もきれいなみどりのまち」は「平和なまち」ということでもあるのではないかと考えました。空も水もきれいで、みどり溢れるまちにするには、まず

第一に平和でなければなりません。日本は世界からみてとても安全な国といわれています。ですが、約七十年前程前の戦争を忘れ去られ、もし戦争がおこってしまったら、きれいな空や水、みどりが全てなくなってしまうです。

このような理由から、「福島市民憲章」の中で「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」は絶対に欠かさない大切な目標だと思います。もし、この「福島市民憲章」がなかったとしたら、今のような安心で安全なまちではなかったと思います。気軽に声をかけてくれる地域の方々、バスや電車ではお年寄りに席をゆずってあげている思いやりのある方々。このような優しく心温まる光景は世界的に珍しいと思います。この行動などをぜひ、二年後開催される「東京オリンピック・パラリンピック」で世界に広め、おもいやりのある世界にしてほしいです。

最後に、この「福島市民憲章」があるからこそ、今の福島はあるのだと思いました。この「福島市民憲章」を後世に伝えていき、十年後、百年後、それ以上も福島の限

りない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めていってほしいです。そして何よりも平和で、安心で安全なまちをつづけ、それを世界へと発信し、福島だけでなく世界の人々と輪をつなぎ、協力あって差別のない仲のよい世界へしていき、昭和四十八年から四十六年間受けつがれてきた「伝統」をこれからもずっと守り続けていきたいです。この希望に輝く福島市には「福島市民憲章」がとても重要だということを、今日改めて感じました。この「福島市民憲章」がある限り、福島市民は幸福で、支えられているということが分かりました。いつまでも「福島市民憲章」が福島市にあってほしいです。

「親切で愛情あふれるまち」

福島市立蓬萊中学校

大杉 陸

僕は、「福島市民憲章」のことをあまり知りませんでした。そもそも「憲章」についてよく分からなかったので、辞書で調べてみました。調べて分かった「憲章」の意味は、「理想とすることを定めた、大切なきまり。」でした。

改めて「憲章」の意味を理解し、「福島市民憲章」を読んで特に印象に残ったのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」というものでした

そこで、福島市は親切で愛情あふれるまちなのかを考えてみました。僕はまず学校への登下校のことを思い出しました。僕が毎朝、登校するときに、地域の人達へ「おはようございます」と言うとき、みんなが「おはよう」や「行ってらっしゃい」、「気をつけてね。」などと言ってくれます。しかも僕が学校が終わって下校している時に会う

と「おかえり」とにこやかに声をかけてくださいます。僕は、その声かけにすごく元気をもらいました。「おかえり」と言う言葉は家に帰った時に家族に言われる言葉だと思っていたので、初めて地域の人に「おかえり」と言われたときは、おどろきでしたが、強い愛情も感じました。

次に僕は、親切というのを見て何年前の事を思い出しました。

僕がバスにのっていると、腰が曲がっているおばあさんが乗車してきました。僕が席をゆずろうかと迷っていると僕より二つほど年上の女の子が「ここ、どうぞ。」と言って席をゆずっていました。

僕はそれを見て本当に親切な人だと思いました。きっと僕のようにゆずろうかと思っても迷ってゆずることができない人も、たくさんいると思います。それでもゆずったあの人は、本当に親切な人でそんな人が市内にたくさんいれば福島市より安心、安全になると思いました。

福島市には今も親切で愛情がある人はたくさんいますがみんなが福島市民憲章を知り、考えを深めることで、たくさんの人達

が、親切で愛情ある人になることで、はじめて福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」がたっせいし福島市はみんなが安心してくらせる市になると思いました。

「私の好きな道」

福島市立信陵中学校

高 階 俐 緒

「おはよう。」

「おはよう。」

この道に出ると、私はいつも友達と合流し登校します。

この道は、私が小学一年生の時から通ってきた道です。

学校までの道のりには、踏切や横断歩道があり、朝は交通量が多いので、私達は一列になって、気をつけて歩いていきます。この踏切の横断歩道には、安全に通わせてくださる方がいます。見守隊のおじさんです。私が出会ったのは、小学一年生の時からで、小学生や中学生だけではなく、自転車で通学する高校生、踏切を渡る車を誘導してくれます。そのおかげでこの道を通る人達は、安全にスムーズに渡ることができます。

おじさんは、いつも笑顔で、

「おはよう。いってらっしゃーい。」

と声をかけてくれます。私は、低学年の頃恥ずかしくて自分から目を合わせてあいさつをすることができませんでした。小学四年生になった私は、やっと自分から見守り隊のおじさんに、

「おはようございます。」

と言えるようになりました。雨の日も雪の日も、おじさんに声をかけてもらって、明るい気持ちになり、あいさつは大切だと感じました。

小学六年生の時に二年生の子と仲良くなり、一緒に登校する日もありました。私は、おじさんがいつも声をかけてくれたことを心に留めて、下級生に優しくしてあげようと思いました。今でも時々、登校時間が合うと途中まで一緒に行く日もあります。

中学生になって、初めて登校した日、うれしいことがありました。踏切で信号が変わるのを待っていた時、

「もう中学生か、大きくなったね。」

と見守り隊のおじさんが声をかけてくれました。私は、

「おはようございます。ありがとうございます。」

と答えました。私の事を覚えていてくれてとてもうれしかったです。

今も登校時間に私達を見守ってくださいています。そして、

「おはよう。」

とあいさつをしてくれます。

私も、

「おはようございます。」

と返します。

あいさつは、自分の心をひらくこと、相手と心をつなげていくことができます。いつもと変わらないこの風景。

私は、この道が好きです。

「福島市のいいところ」

福島市立信陵中学校

永 沼 知 弥

僕は、福島市が大好きです。その福島市は、シンボルの信夫山をはじめ、緑がとても豊かな山に囲まれている盆地です。

僕は、福島市の緑の取り組みは、あまり知りませんでした。今回、パソコンで調べたところ、小中学校では、緑をふやすために「緑の羽募金」をしたり、緑のカーテンなどに取り組んでいることがわかりました。子ども達に自然について学んでほしいということでした。緑のカーテンは見ためにも涼しげだし、きれいで良いと思います。小学校の時に理科で葉の蒸散について勉強しましたが、実に涼しくなるので、環境的にもとてもエコだと思います。

他にも、何か福島市が取り組んでいるのかお母さんに聞いてみると、パセオ通り商店街の人達が協力して、通りに花などを植えているそうです。パセオ通りを歩いてい

る人達が気持ち良く買い物をしてほしいと思う気持ちと、ゴミのないきれいな通りにしたいという願いからなのかなと思います。きれいな花が植えてあるところにゴミを捨てようとする人はいないと思います。パセオ通りだけでなく、家の近所の町内会ではプランターに花を植えて通りに置いたりしていました。小さな団体単位で緑の取り組みをすることで、福島市全体が緑豊かな町になると思います。

僕も小学校の頃、栽培委員会に所属していたので、学校などがきれいになるように、花を植えたり、水をやっていたことを思い出しました。

僕は、もう一つ福島市の好きな所があります。それは、親切な人がたくさんいるところです。僕は生まれた時からずっと福島市に住んでいます。朝、登校する時は近所のおじさんや、おばさんが明るく声をかけてくれたりします。「見守り会」のおじさん、おばさんも小学校の登下校の時に、みんなの安全を見守ってくれていました。僕が小さい頃転んでいたら手をさしのべてくれる人などいてもとても温もりを感じます。以

前電車に乗った時、おばあさんに席をゆずっていた男性がいたので、僕も優しい温かい気持ちになりました。

福島市は、たくさんの方が愛情を持っていて、親切にしてくれます。僕達子どもも、そんな人達の良いところを引きついでいくことが福島市の発展につながっていくと思います。「緑の町づくり」も「親切で愛情あふれる町づくり」も、僕達子どもが、自覚を持って進めていけば、今よりもっとすばらしい福島市になると思います。一人一人が意識してゴミ拾いや募金活動、思いやりを持った行動をすることが大切だと思います。僕も積極的に協力していきたいです。

「これからの福島」

福島市立信陵中学校

菅野 達規

僕の住んでいる福島市では、暮らしを良くして住みやすい町にするための目標、市民憲章が五つあります。その中の一つ空も水もきれいなみどりのまちをつくりましようという市民憲章について考えてみました。

僕は小学校六年生の時に修学旅行で初めて東京に行きました。東京は人もいっぱいいたし、車も沢山走っていました。建物も高層で、隙間なくびっしり建っていて本当の大都会でした。福島市とは町並みが全く違っていました。僕も東京で生まれていたら、この環境が当たり前になっていたはずですが、僕も僕は福島市で生まれました。やっぱり、東京は自然が少なかつたし、みんな忙しそうに見えました。

僕の住んでいる地域について両親に昔はどうだったのかを聞いてみました。「昔は

今よりも田んぼが多くて、道路も舗装していない道もあって、大きな建物もそんなになかった。田んぼにはザリガニもいたし、夏になると蛍がたくさんいた。外で遊ぶほうが多かった」と言っていました。その話を聞くと確かに今は田んぼは少なくなつたと感じますし、道路も舗装していない所はほとんどないようと思いますし、いままでも外で遊ぶ機会もそんなになつたと思います。東京も福島市も良いところ、悪いところがあると思うし、どちらが優れているとはなかなか言えません。今回、色々福島市のことを調べているうちに福島市を流れる荒川の水質が七年連続で日本一であることが分かりました。四国の有名な四万十川よりきれいです。このことがわかり、僕は少しうれしい気分になりました。でもこのきれいな川が今あるのはずっときれいに維持してきた人達の努力だと思いました。何もしなければ日本一きれいな川になることはないと思います。

僕たちは今の環境を悪くしないでより良くしていかなければならないと思います。僕が、まず出来ることは町内会の地域清掃

に参加して、きれいなまちにすることも大切だと思いますので、少しでも力になれることはやっていきたいです。

東日本大震災以降、福島市も復興へ向かっているところですが、これからの新しい福島市を作っていくのは僕たちの役目ではないかと思っています。空も水もきれいなみどりのまちをつくり、福島市が他の地域の人からいい所だねと言われるために、頑張りたいと思います。

「僕が思う福島市」

福島市立信陵中学校

齋藤 亮 太

僕の理想とする福島市とは、いろんな国籍の人々が互いに協力し、助け合えるとても住み良い場所であり、果物がたくさんとれる自然豊かな町です。

これらの町づくりをするためには、福島市民憲章を一つの方針としていかなければ、実現しないと考えています。理由は二つあります。一つ目は、福島市民憲章には、これからの福島の未来づくりのための基礎となることなくつまっているからです。二つ目は、これからの未来を担う若い人たちは、この福島市民憲章を意識していない、あるいは知らない人も少なくはないと思うからです。

まず、福島市民憲章一つ一つに対する具体的な目標、方針を決めたいと思います。一つ目の、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょうに対しては、木をもつ

とたくさん植えたり、ゴミを減らすために、再利用できる物の使用を推奨する、水の無駄使いをなくすよう呼びかける、などをすれば良いと思います。

二つ目の、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょうに対しては、福島の歴史や、伝統的な祭りの数や由来を教えたり、今の時代は、かなりグローバルになってきていますので、英語力を身に付けないといけません。だから、小学校低学年から英語の授業をとり入れ、小学五年生でbe動詞、六年生で一般動詞の半分ほどを確実に言える、書けるようにすれば良いと思います。

三つ目の、親切で愛情あふれるまちをつくりましょうに対しては、一人一人が思いやりを持ち、気持ちの良いあいさつをしてくれる、そんな生活を市民にしてみよう、呼びかけたりすると良いと思います。

四つ目の、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょうに対しては、ほかの市町村などと協力したり、警察と協力したりして、犯罪をなくす呼びかけをしたり、各会社、休憩の時間を取る

よう要請する、仕事を探すための施設を今より一ヶ所か二ヶ所ほど増やす、などをすると良いと思います。

五つ目の、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょうに対しては、各地域の人達で、パトロール隊などを編成してもらい、小中学校の生徒の登下校の際に、周辺をパトロールしてもらうなど、小中学生を不審者から守ってもらうと良いと思います。また、老人ホームに行き、絵本などの読み聞かせを行う、健康診断に行くことを義務づける、そして何よりも大切な家族とたくさん話をする、などを行えば良いと思います。

これらの事が実現され、福島市が今よりさらに活性化し、福島県一の都市になるとを、心から願っています。

「思いやりと絆の街づくり」

福島市立信陵中学校

飯田 弥姫

七年前、東日本大震災が起きた。それまで当たり前のように使っていた水が数日使うこともできなくなり困り果てていたとき、水道が止まらなかった、母の知人に水をわけてもらったり、知人でもない近くのお店で「ご自由にどうぞ」と大量の水をみんなに分けてくれたりしていた。まだ幼稚園生だった私にはその当時はことの重大さと、その行為がとてもすごいこと、そして人の温かさがよくわかっていなかった。今思えば、困難なことでも一人では乗り越えられないが、みんなで協力して助け合っていたからこそ、あの怖い大変な時間も乗り越えていけたのだと感じた。

今回、市民憲章の一つ、「親切で愛情あふれるまち」をみて、震災当時のことを思い出し、自分が生まれ、生活している町にこんなに温かい、思いやりのある人がたく

さんいることに改めて気がついた。

都会ではとなり近所にだれが住んでいるか全くわからないという。そして知らない人にあいさつをするなど親や学校で教えられているらしい。小さいときから、あいさは基本だよと教えられてきた私にとって、はびっくりする話だ。

「あいさつをきちんと」と「困っている人がいたら迷わず手を差し伸べられる人になれるように」とずっと言われてきた。手を差し伸べることを自然とすることはなかなか実行できていないけれど、福島に住んでいると、日常的に人の優しさや愛情に触れることがとても多いような気がする。小学校の登下校では見守り隊の方々に毎日守られ、近所の人がいとも声がけをしてくれ成長を見守ってくれていたり、普段の生活でほっこりすることがとても多い。人に優しくしてもらうと心が温かくなったり、次は自分が誰かに優しくしようと思える。でも実際はいざというとき、恥ずかしさや怖さが先に立ってしまい、困っている人を見かけても、なかなか声をかけられないことがある。でもきつと恥ずかしさは一瞬のこ

とで、声をかけずに過ぎてしまってから後悔のほうはずっとひきずってしまう。

これからはますます、親切で愛情あふれるすてきな人々がたくさんいる街にするために、まずは自分がどんなときでも人に優しく、笑顔で明るく接することを心がけ、困っている人がいたら、知らない人にでも「どうしましたか、大丈夫ですか」と声をかけるところから始めてみようと思う。

「安全で健康なまちって

何だろう？」

福島市立信陵中学校

青 木 芽 生

福島市に市民憲章があるということを今回知ったわたしは、中学一年生として考えてみました。「憲章」の意味は「理想とすることを定めた、大切なきまり」です。

ところで、わたしの住む町内会には神社があり、太鼓台もあるのでお祭りの時は、皆で協力して旗をあげたり、神社の清掃をします。私は篠笛が吹けるようになったので、町内のお祭りだけでなく、他の町内のお祭りにも行き、演奏します。幼い頃から皆、大人の人たちに教えてもらって、ようやく吹けるようになりました。子供が少ないこともあり、わたしがよく知らない大人の人たちからも、ほめられたり、注意されたりを、ごくあたり前のことのように思っていました。

今は、となりに住んでいる人がだれだか

もわからない、というような風潮もありますが、わたしの町内会は、子供から高れい者まで、どこの人かわかるので何か危ない事をしているとか、困っているようであれば、声をかけてきます。それは、お祭りがあることで町内の人たちと接する機会が多いおかげだと思います。少し、めんどくさい時もありますが、大事なことだと思います。

市民憲章にある、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という条文は、交通事故を減らすとか、足が不自由になっても車イスで移動できる平らな道を作るとか、いろいろ考えられますが、わたしは、皆が顔見知りで声をかけあい、協力したり、助け合ったりできる、ということも大切なのではないかと思います。人づきあいが苦手な人も中にはいるでしょうけれど、大きな災害時にいち早く救助できたり、情報を提供することで命を守ることもつながります。住んでいる土地が、安全で安心できるというのはとても大事なことです。地形や気象は、簡単に変えることはできませんが「人」とのつながり

は、変えることができます。

わたしは、まだ中学一年なのでこの先、どこに住むのかわかりませんが、町内の方におそわった篠笛を、今後はわたしがだれかに伝えることができたらいなと思っています。この町内のよい所を残していきたいです。

「輝く福島市の自然」

福島市立信陵中学校

阿部 真大

福島市民憲章は福島をよりよくするためにあるのだと、この作文を書くときにわかりました。僕は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」を大切にしたいと思いました。

夏休みに入る少し前、弟がカブトムシやクワガタムシを採ってもらえるということになったので、僕もいっしょについていくことになりました。虫かごを持って、夕方ごろにその場所に行つて、僕達はクワガタムシを二ひきもらうことができましたが、その時案内してくれたおじさんが

「ここではホタルも見られるよ。」

と教えてくれました。最初は少し驚いたけれど、おじさんの後について行つてみると、本当にホタルがいました。直接見たことは一度もなかったのしばらく見続けました。その間に、おじさんがホタルを一匹

くれました。

福島市でホタルが見れるなんて思ってもいなかったのでも驚きました。なぜなら、ホタルは水や緑がきれいなところでないと生きることができないと聞いていたからです。ホタルを見ていたときに父が、

「この近くを流れている川は荒川なんだ。水質日本一になった川なんだよ。」

と言っていました。

後から、荒川について調べてみると、国土交通省の水質調査で八年連続日本一になっていたことがわかりました。さらに調べると、そのようにきれいな川を保つために、「荒川クリーンアップ大作戦」という活動を年に二回行っていることもわかりました。「荒川クリーンアップ大作戦」とは、草刈りや、さまざまなゴミを分別して収集する清掃活動です。

この体験を通してわかったことがあります。それは、ホタルが現れるくらい美しい自然や水が福島にはあるのだということです。僕達はそれを、維持していかなければならないと思います。そのためには、川や森などではゴミを捨てたりせず一人一人

がさらにきれいな町にするという意識を持つことが大切だと思います。

川や森をきれいにすると共に、緑を増やすことにも目を向けなければならぬと思います。そのためのボランティアには、自分から積極的に参加することも必要だと思います。そうすればもつと自然ゆたかな福島市になると思います。

自分一人が意識をしたりボランティア活動に入っても変わらないと思うのではなく、自分ができることから少しずつでも行動するという気持ちを持つていけば、福島はもつと「空も水もきれいなみどりのまち」になっていくと思います。

「みんなの事を考えた心がけ」

福島市立北信中学校

齋藤 凜彩

私は、公共施設をみんなで大切に使う事が快適で明るく住みよいまちづくりを進められると考えました。

そこで私が例にあげるのは、図書室などでボロボロになったり破れていたりする本がたまに見られます。それは結局、次の人の事を考えていない、物を大切に思っていないなどという事があるからだと思います。ボロボロになっていたり破れていたりすると次に使う人に読みづらくなるなどといったデメリットがってきます。そうすると次の人、そのまた次の人にまで迷惑がかかってしまいます。

そこで私はみんなが気持ちよく本を読むために、二つの事を考えました。一つ目は、大切に使うようにポスターやしおりなどに呼びかけを書いておくようにすると、みんなが大切に本を使ってくれるのではないかと

と考えました。呼びかけを前々からしておく事で、本を破いたりする事を防げると思ったからです。二つ目は、みんなでもう少し人の事を思いやる気持ちを持つ事が大事だと考えました。福島市のみんなで思いやる気持ちや公共施設を使っているという自覚を持つと本にも親しみがわき、本を大切にできると思います。

私は、例として図書室の事をあげましたが、なにも図書室だけにかぎった事ではありません。乗り物や学校などの公共施設もそうです。利用ルールを守って人に迷惑をかけないように一人一人が心がければみんなが笑顔で楽しく過ごせる福島市になると思うので、私も心がけを大切にしていこうと思います。

「福島環境を大切に」

福島市立北信中学校

坂本 朱里

私は、福島市民憲章「空も水もきれいなみどりのまち」の中の、二、家のまわりや道路、公園、河川などをごみのないきれいな環境にしましょう、と三、広く自然を愛し、たいせつにしましょう、の二つについて考えました。

まず、二番についてです。私は、家の近くの川や毎日通る通学路によくごみが落ちているのを見かけます。それは、通る人たちにとっても、福島環境にとっても、気持ちのいいものではありません。そこで、どうしたらごみのないきれいな環境にできるか考えました。それは、一人一人の心がけだと思います。

ごみは自分で持ち帰る、ごみ箱に捨てることなどは、一人一人が意識していれば簡単にできることです。それを続けていくことで、ごみのないきれいなまちを作ってい

くことができるのではないかと思います。

次に、三番についてです。福島は、大きな山に囲まれていたり、おいしい果物が有名だったり、美しい自然がたくさんあります。

私は、その福島の良さを生かせば、もつとよりよいまちにしていけるのではないかと思います。そこで、福島を自然豊かなよりよいまちにいくために、私たち一人一人ができることを考えました。それは、どんなに小さなものでも大切にすることだと思っています。

例えば、自然の中に住んでいる虫などの生き物や花だんに咲いている花など、身近に自然はたくさんありますが、このような小さな命や自然を大切にしていくことが、さらに自然豊かな明るいまちをつくるための第一歩だと思います。

「空も水もきれいなみどりのまち」を実現させていくにはどちらも一人一人の意識が必要だと思うので、福島をよりよいまちにするため、考えたことを自分自身も実行していきたいです。

「自然豊かな福島に…」

福島市立北信中学校

櫻井 阜来

今の福島は、ところどころにゴミが落ちていたりして自然が汚くなってきています。自然豊かな町にするには、どうすればよいのでしょうか。

まず、落ちているゴミなどを拾ってちゃんとゴミ箱に捨てるのが大切です。落ちているゴミがあると、例えば公園に遊びに来ていてそこにゴミがあつたら気分が悪くなります。なので、ゴミを拾って捨てるのが大切だと思います。そもそも、ポイ捨てをする人がいるからそのままにしなければ自然が汚くなるから、まずポイ捨てをしないようにすることが重要だと思います。

次に、川をきれいにすることです。川を汚くすればそこに住む生き物も死んでしまうかもしれません。川も自然の一つです。川に変な物や、汚い物を流したりせずに清

潔にしていけば、生き物や人間も安全に生活していけるのではないかと思います。

最後は、自然を大切にしていくことが大切だと思います。自然を大切にしていくということは、そこら中に生えている花を平気よく踏んだり、木の枝を簡単に折ったりしてはだめだと思います。このようなことをすれば、自然を大切にしていないという証拠です。もっと自然をきれいにするため、自分から植物を育てたりうえたりして自然を大切にしていけばこの福島は、もっといい町になっていくと思います。

これからは、一人一人が自然のことを考えてよりよい町にしていけるように頑張っていけばいいと思っています。ポイ捨てや自然を汚くすることをしないように心がけていきましょう。

「福島市の交通について」

福島市立北信中学校

鈴木 彩 良

みなさんは、道路や横断歩道でヒヤッとした事ありませんか？信号が見えない時に、道路から人が飛び出して…。さまざまな理由で路上での事故が起こっています。そこでいくつかの提案です。それは、道路などの整備をする事です。現在でも整備は行われていますが、一度、すべての道路に対して目を向けてほしいです。

そして、道路だけではありません。夜に車に乗っていると、とても暗いのです。もしも、その暗い中で人が歩いて来たら…。しかし、周りが明るければ、ある程度は事故を避ける事ができるかもしれません。そうならば運転手も私たちも安心です。

しかし、事故を起こさないためには、私たち自身がルールを守る必要があります。子供たちは学校で交通ルールを習いますが、大人たち（特に高齢者）も、もう一度

交通ルールを確認した方がいいと思います。「機会があれば」という形で、呼びかけなどを行ってほしいと思います。

私たちは当然、事故にあいたくありません。もちろん運転手も事故を起こしたくありません。市民一人ひとりが安全を心がけていけば、何年後かは、平和な福島市がきっとできあがるはずです。一人ひとりが安全を心がけて、事故のない、平和で穏やかな福島市をつくっていきましょう!!

「未来の福島へできること」

福島市立北信中学校

渡 邊 拓 哉

ぼくたち福島市民は、みどりあふれる信夫山や、ゆるやかに流れる阿武隈川など、豊かな自然に囲まれながら生活しています。しかし、最近では環境問題が話題になり、自然にとって、厳しい環境になりつつあります。そんな自然をぼくたち福島市民は大切に守っていく必要があります。さらに、発展させていく必要があります。そのために自分ができることを考えました。

一つ目は、みどりあふれる木々や植物を一人一人が愛することです。自然を守っていくためにはまず愛する気持ちがないと、植物を守ろうとは思いません。だから、木々や植物を守るために、自分の家の庭や、よく行ったり見たりするなど自分の身近なところに置いておくことが大切だと思います。そうすれば一人一人が植物を好きになり、守ろうという気持ちが出てくると思い

ます。

二つ目は、ゆるやかに流れる阿武隈川を美しい川に発展させるということです。川は、ぼくたち福島市民だけでなく、魚などの生き物にとっても、命に関わる重要な場所です。だから、阿武隈川を汚してしまうことは、阿武隈川を泳ぐ魚たちにも影響を及ぼします。そんなたくさんの命を支える川を守るためには、まず川にゴミや不要物を捨てないようにすることが大切だと思います。例えば、飲み終わったペットボトルや、紙パック。または、ビニール袋などを川に捨てないということが挙げられます。他にも、石を川に向かって放り投げないようにしたり、川を汚すような物体、液体を入れないようにしたりすることがあります。これらのことは、全て、阿武隈川やそこに住む魚たちを守ることに繋がってきます。

ここまでに挙げた二つを実行することで福島県の環境は守られていくと思います。しかし、誰か一人が意識しただけではなかなか変わりません。だから福島市民全員が常に心がけていくことで、今よりもすばらし

い福島市の信夫山やたち、阿武隈川に発展し、住みやすく、心ちよい福島市になっていくと思います。

「福島市の安全と健康のために」

福島市立北信中学校

佐々木 優花

私は、交通事故や病気になってしまう人を減らすには、交通ルールをきちんと守り、健康な心と体をつくることが大切だと思います。

私がこう考える理由は、全部で三つあります。

一つ目は、交通ルールをみんなで一から確かめると、事故を防げるからです。最近では、交通ルールを守らない人や、ルールを知らない人もいます。なので、一からルールを確認すれば、みんながルールを知ることができると思います。

二つ目は、事故が起きないように、安全な行動をすれば、自分が事故を起こしたり、事故を起こされたりしないと思うからです。例えば、安全運転や、安全歩行などです。車などの乗り物を運転する時は、安全運転をすると、自分の命も、相手の命も

守ることができます。また、車に乗っていて、運転をしていない人も、シートベルトをしめるなどをしていれば、急ブレーキがかかっても、身の安全を守ることができると思います。また、ちゃんと信号が青になったのを確認してから渡るなどの安全歩行をしていれば、車にひかれたりしないで、身を守ることができると思います。

三つ目は、健康な心と体をつくれば、病気になりにくくなると思うからです。今は、子供からお年寄りまで、年れい関係なく病気になってしまう人が増えています。そこで、健康で強い心と体をつくることができます。例えば、病気に負けないと思いました。なので、一日にちよつとでもいいので運動したり、スポーツに積極的に参加したりすれば、体力もついて、強い心と体をつくることができます。また、健康で強い心と体は、どんな病気にも負けないと思うからです。

以上の三つが、私の考えに対する理由です。交通ルールを守れば、交通事故が起これば、みんなが安心して暮らせて、安全だと思っています。健康な心と体をつくれば、か

ぜにかかりにくくなったり、ちよつとした運動でもすれば、体力がつくれるので、いいと思います。

このことから私は、交通ルールを守り、健康で強い心と体をつくるのが、福島市の交通事故をなくし、病気の人を減らすことにつながると思います。

「福島のみどりを守るために」

福島市立北信中学校

松 田 希 南

私が福島市民憲章について考えたことは、空も水もきれいなみどりのまちについてです。福島は首都圏に比べれば、空も水もきれいだし、みどりも多いと思います。しかし、私の身の回りにある公園などには、きれいな木などありますが、雑草が多く、枯れ葉などもそのまま放置してあります。こういうものは、子供達がきれいな環境の中で遊べるようにするためにも、定期的に地域の人たちで協力して掃除をすることが大切だと思います。そのためには、町内会で話し合って掃除をする日時や当番を決めたり、ごみを見つけたら、自ら拾って捨てるなど、進んで公園をきれいにする活動を行うのいいと思います。

そして、福島に自然を増やすには、公園や学校などの公共施設に積極的に花壇や樹木を植え、グリーンカーテンなど、地球を

守る工夫もしながら、自然を増やし、緑豊かな福島を作ることが大切だと思います。自分が働く場所にきれいな花や美しい自然などがあれば、心が落ちついて、仕事のストレスもやわらぐと思います。仕事のストレスがやわらげば、ストレスでの自殺や引きこもりも減るのではないのでしょうか。

今までに挙げた意見の他にも、自分で自然を育てるのいいと思います。例えば、自分で花を育てると、芽が出たり、つぼみが開いたり、小さな生長から、喜びや、人生の楽しみを得ることができます。そして、花を育てることで、心の休息も得ることができますと思います。

自然を増やすことにはほとんど害はありません。地域の人たちで協力して街をきれいに、自然を豊かにしていくことで、世界でいちばん美しい、「空も水もきれいなみどりのまち」を作ることができると思います。

「優しさあふれる福島市に」

福島市立北信中学校

三本杉 和 奏

「だれにでもできる親切」とは、どんな事があるでしょうか。福島市を親切であふれる市にするためには、一人一人がどう考えて生活していけばいいのでしょうか。

まず、「だれにでもできる親切」は、例えばこういった事があります。ある人が道が分からなく迷っていました。道をきかれてはいませんが、みなさんは道を教えてあげるでしょうか。一般的に「老人、子供、外国人には親切にしよう」といった考えがあります。大人どころか、子供にも道を教えてあげられない人がいるのも事実です。

では、なぜそういった事が起きてしまうのでしょうか。私の体験談をもとに考えてみました。私は一人でバスに乗る事が無かったのですが、少し前に一人でバスに乗る事がありました。その時に、私は席を見つけ

て座る事ができたのですが、次のバス停でおいさんが乗ってきたのです。席をゆずってあげたかったけれど、「他にも座っている人がいるから、私がゆずらなくても良いかな。恥ずかしい」などと、思っていました。結局、私はおいさんに席をゆずる事ができず、また、目の前に立っているおいさんを見れずに、気まずい気持ちのまま慌ててバスを降りました。この体験をして「自分じゃなくてもいい」と思わない、そして「だれにでもできうる事ができる人はすばらしい」と思うようになりました。一度は後悔したけれど、次に親切につながれたらそれでいいんだと思います。一人一人がこう考えられると、少しずつ親切が増えていくことでしょう。

住みよい環境とは、自分も相手も周りの人みんなが親切な気持ちを持って、やっと形ができてきます。行動に移せなくても親切について考えて、将来的に人に優しくしていけば良いと思います。そして親切が義務で仕事ではなく、人に優しくする事が自然な福島市民、より住みやすい私達だけの「ふるさと」を私達でつくっていきませんか。

「親切で愛情にあふれた

このまちで」

福島市立北信中学校

山崎詩織

母親は、あなたは社会人になったら都会に住みなさい。こんなせまい町は、とても生きづらいから。と私に良く言います。そのたびに私は、まあ大人になってから考えるよ、と曖昧な返事を返します。

母は、生まれも育ちも福島で、父の仕事の関係で少し違う所に住んでいた事もあります。ですが、数十年、この福島に住んでいます。そんな母は、この町は生きづらい、窮屈だ。と良く言います。自然に囲まれて、人が活気に満ちているこの町。まあ、言ってしまうと少し田舎で人が多いのがこの町。人が密集しているので人付き合いも大変、とよくこぼします。

ですがこの町の雰囲気はきれいいじゃありません。春には、あづま山にきれいなあづま小富士と雪うさぎ。夏は近くの河川敷か

ら見える青空がとても素敵だし、浄土平から見える星空もすごく綺麗です。秋は紅葉もいいけれど、やっぱり福島はフルーツ王国なので、ももやなし、ぶどうなどたくさん果物が食べれるのを毎年まっています。冬は、まわりの山の雪化粧が美しいし、かまくらつくれるかな、と弟と楽しみにしています。四季折々、表情の変わる福島は楽しいし、とっても綺麗です。

そしてこの町は暖かい。近くの保育所から聞こえる元気な「こんにちは」、たまに福祉の施設から散歩にくるおじさんも少したどたどしいけれど「こんにちは」って言うてくれます。近所のおばあちゃんは、「おかえり」ってほえんでくれて、温かいなあって心がポカポカします。

大人になったらこの町を出てしまうかもしれないけれど、今は季節を、人の温かさを感じながらゆつくりと生きていきたいです。親切で愛情にあふれたこのまちで。

「空も水もきれいな福島に

するために」

福島市立西信中学校

長谷部 友里

私は福島市民憲章の空も水もきれいな福島にするためにできる事について考えてみました。

私は空も水もきれいな福島にするために、ゴミを減らそうと考えました。私たちが毎日出しているゴミですが、私は小学生の頃にゴミ処理場を見学した事があります。見学では、ゴミを処理するのにたくさん手間がかかっている事を知りました。そして、ゴミを燃やしてしまうと、環境に悪い事も知りました。

福島のゴミの処理量やゴミにかかる経費などを調べてみると、ゴミの処理量は平成六年が百十四・一〇七t（トン）なのに対して、平成二十七年度は百三十四・五六七t（トン）で増えている事が分かります。そして、ゴミの処理量も増えているので、

一人あたりにかかるゴミの経費も平成六年に九千六百八十円から平成二十七年には一万三千十八円で増えています。

このことから私は、ゴミを減らすためにできる事は、使わなくなったものやいらなくなった物をバザーに出したり、洋服ならリメイクをしたり着れる人にあげたりしたら良いと思います。また、ゴミを出す時はきちんと分別をしたり、出す時間を守れば、ゴミを処理している人の手間を省くことができます。私が小学生の頃に見学をしたゴミ処理場では出されたゴミをリサイクルをしてテーブルやタンスになった家具が売ってありました。家具のテーブルは木を使ったりするのでこのような家具を使う事によって木を伐採しなくて済むようになるので、環境のためにも良いことになります。

私の住んでいる福島県はゴミの処理量や一人あたりにかかる経費も増えて、処理料金も高くなっています。ゴミの処理量を減らし、空も水もきれいな福島にするために私たちができる事はたくさんあります。

五つでできている福島市民憲章の趣旨の明るく住みよい福島にするために私たちが

できる事は何なのかをよく考え私たちが今できる事を一人ひとりがしていくことでよりよい福島になるはずです。私は今中学一年生で、これから学校や社会の中で、環境について学ぶ機会はふえていくと思います。身近で私たちができる事を考え、現状を考えながら、美しいふるさとづくりを実現していきたいと思います。

「福島からのメッセージ」

福島市立西信中学校

樽 川 響

みなさんは、東日本大震災を覚えていますか。この大災害により、津波が起こり、たくさんの方々の命は奪われました。津波により原子力発電所は破損し、放射能がもれてしまいました。けれどもそのことで、福島を勇気づけよう、助けようとする人々、さらには外国の人が困っている私たちを支えてくれました。私はそんな人たちがどのような事に力を入れてくれたのか調べました。

まず農業についてです。福島と言えば桃です。なぜおいしいのかにはある理由があります。福島の地形が夏特有の暑さをつくり、蒸散を多くし甘さが増すからなのです。最近ではTOKIOが、「福島の桃は、おいしい。」とPRなどをしています。一時放射能による風評被害もありましたが、県外の方にも安全でおいしい福島の桃

を知ってもらいたいと努力をしています。

次にスポーツについてです。福島では、福島ファイヤーボンズや、福島ユナイテッドFCなどスポーツでも福島をPRして復興に力を入れています。それに二年後の東京オリンピックの野球とソフトボールの会場になっているあづま球場なども近くにあります。スポーツでも福島は支えられています。それから、バスケットや野球のプロスポーツ選手が福島に来て、子ども達にスポーツの楽しさを伝え元気を与えてくれています。

東日本大震災が起きた後で、福島市民が力を入れていることはいろいろな援助です。人々の心の中にボランティアの大切さを刻み込み、意欲的に参加するようになり、ボランティア活動に対する取り組みも変わったようです。災害前とくらべると、みんなが助け合いながら生活するようになりました。そして他の土地での水害などの土砂くずれや熊本の大地震にもお世話になった分、自分たちでできることがあれば協力するという気持ちも持てるようになったと思います。

福島市民みんなが思いやりの気持ちを、震災を通して持ち続けています。これはだれもができることではないので自信を持ってよいところだと思います。

ほくたちも福島の支えになれるように、常に豊かな心を持って、住みやすい福島を目標に、自分のことから始めたいと思います。

「福島の大切な物」

福島市立西信中学校

阿部 琴音

私が住んでいる福島には、大切な物がたくさんあります。その中でも私は二つの事を紹介します。

まず、信夫山という山についてです。歴史がある山です。福島市街地の北部にある標高二百七十五メートルの山です。となりのトトロの主題歌のモデルにもなったそうです。有名なうたのモデルになったと聞いた時はおどろきました。やっぱり、福島のみどりは、どこの地域からも認められているんだと改めて思いました。そして、福島地方気象台が開花の基準となる「ソメイヨシノ」の標本木が自生しているそうです。それから、福島のお祭りです。私が知っている二つのお祭りがあります。一つは、わらじ祭りです。わらじ祭りの由来は、江戸時代から始まり、三百年以上の歴史がある信夫三山眺まいりが由来となっています。

福島の大わらじは、日本一だそうで、私も何度かわらじ祭りに参加した事があります。とても楽しく夏の暑さを忘れてしまうくらい楽しかったです。わらじ祭りは二日にわたって行われています。私は、そんな歴史深い「わらじまつり」に参加し、福島市民でいることに幸せを感じました。けれども、問題もあります。祭りで色々なゴミや物を捨てる人が多くいます。その場が楽しく、自分さえ楽しく、自分さえ楽しめれば良いということではなく、ゴミは持ち帰る意識を、積極的に訴えてゆく必要があると思います。これは、一人だけでの意識ではなく、みんなでそれぞれ、もつときれいな福島にするというおおいを持たなければなりません。この様な事に気をつければ、さらに祭りを楽しめるとおもいます。また、飯坂けんかまつりもあります。飯坂けんかまつりの正式名称は、八幡神社例大祭といえます。由来は、境内の神輿殿に神輿が収まると、祭りが終わってしまうため、それを防ごうとして、屋台がぶつかり合うことがきっかけで始まったそうです。日本三大けんかまつりの一つになっているそうです。

私は、まだ参加した事がありませんが、今度ぜひ見に行きたいと思っています。私は、自然豊かな福島に住めて良かったと感じています。吾妻山や荒川など、周りを見わたすときれいなみどりがたくさんあります。日ごろの生活の中で自然にもっと触れて美しい魅力のある福島の生活を人々がつくり出す祭りと楽しみと考えられます。

「きれいな荒川」

福島市立西信中学校

西山実玖

私が福島で自まんでできることは荒川です。そう思ったきっかけは、福島市のキャッチフレーズからです。

「花もある福島市」このキャッチフレーズの中の「み」という言葉には、「味」「美」「見」という四つの意味が込められています。「実」という漢字は、くだもののことを表していて、さくらんぼ・もも・なし・ぶどう・りんごがおいしいということことです。「味」という漢字は、味わうことを表していて、食べ物・温泉や温かい人情が味わえるということです。「美」という漢字は、美しい景色のことを表していて、四方を囲む、山々や、清らかな川の流れが自まんだということ。「見」という漢字は、見ることを表していて、史跡・文化財・国立公園などの見どころがたくさんあるということです。この四つの漢字の

意味から、私は、福島市にはたくさんのよいところがあると感じました。その中でも特に、私は、「美」という漢字の、美しい景色のことを表していて、四方を囲む山々や清らかな川の流れが自まんという意味が印象に残っています。

清らかな川の流れが自まんという言葉から福島に流れている荒川のことを思い浮かべました。荒川というのは、私の地元の土湯にも流れていて、とてもきれいな川です。それはなぜかというと、国土交通省河川水質調査で八年連続で日本一に輝いたからだと思います。約七年半前の二〇一一年三月十一日午後二時四十六分に東日本大震災が occurred。多くの人が亡くなり、今でも行方不明者がいます。そんな中で二〇一一年から今まで八年連続で日本一に輝く荒川はとてすごいと思います。それは震災があつたけれど、福島の人々が懸命に復興に向けて、取り組んでいたからだと思います。八年連続で国土交通省河川水質調査で日本一に輝いたのは東北で唯一ということ。

このように、福島にはたくさんのいいと

ころがあります。東日本大震災で、原発事故がおきて、観光客数は減ってしまったけれど、復興活動をしている人はたくさんいます。ですから、福島というところをマイナスと思うのではなく、プラスに思っています。そして、もっと福島のよいところを見つけ、PRしていきたいです。

「きれいな川をいつまでも」

福島市立西信中学校

登坂 千夏

みなさんは、自分の住んでいる地区を流れる荒川について、また、今のきれいな荒川を未来にまでつなげていくにはどうすればよいかを考えたことがありますか。

今のきれいな状態の荒川を未来にまでつなげていくには、次の事を守らなければいけないと私は考えました。

一つ目は、自分でも出来る事から始める環境維持（ごみを拾う・ポイ捨てをしない）と言うことです。二つ目は、水源である吾妻山の環境保全も大切だと言うことです。以上のことから、自分でも出来る環境維持はあるので、関心を持って出来るだけ多くのボランティアに参加したいなと思いました。

調べてみて分かったことは、福島県福島市を流れる荒川は二〇一七年河川水質調査で「水質が最も良好な河川」と評価され、

八年連続の水質が「日本一」になったのです。

ここまで八年間長続きしているのは、みんな一人ひとりが意識してごみを拾ったり、ポイ捨てしないように気をつけているからなんだなと思いました。また、八年連続「水質が最も良好な河川」と評価されたのは東北では荒川のみと、パンフレットに書いてありました。福島市長は、「みんながこれを意識して美化清掃や水質保持に努めた結果」と語っていました。

荒川は、須川や天戸川など、およそ十の川が分流しており、阿武隈川に流れ、その後太平洋へ流れ出ます。水源は東吾妻山で山に登山をしに来た人々や、外国人などが訪れます。けれども高山植物の盗難が最近は問題になっているそうです。植物の生態の崩れは、環境破かいが起ころうです。これを防ぐためには、登山客にマナーを呼びかけたり、植物を取る行動をしている人を見かけたら注意したり、看板を設置したりすれば、悲しい現象が起らないと思います。

今回、荒川の事を調べていくうちに、荒

川の水源となる東吾妻山や、浄土平に咲いているイワカガミやハクサンチドリなどの高山植物が盗まれるという被害があるという現実を知りました。インターネットで切実にやめてほしいと訴えている記事を読みました。荒川の始まりの山の植物が荒らされているという事は、荒川の水質や流れにも少なからず影響があると思います。このまま荒らされ続けていけば、荒川の水源の吾妻山だけでなく、荒川も周りに住んでいる動物や人間までにも悪い影響があるんじゃないかと思いました。

自分の生まれるずっと前から流れ続けている豊かな流れと、きれいな水を絶えさせず、人間に与えてくれた荒川と周りの自然を私達はずっと守っていかねければならないと思います。そのためには、人任せにしないで自然を大切に作る気持ちを持ち続け、未来の私の子供にも伝えていきたいと思います。

「美しい自然の福島」

福島市立西信中学校

渡 部 歌 心

福島市には、美しい自然がたくさんあります。

私たちには、その美しい自然を守るためにできることが、たくさんあるはずですよ。

一つ目は、荒川です。学校の近くの荒川は、水質が、八年連続で日本一になっています。その荒川の日本一の水質を保つには、年に二回荒川で行われている「荒川クリーンアップ大作戦」に参加したり、川にごみを捨てないことなどです。

二つ目は、福島市のごみの量です。福島市の平成二十八年のごみの量は、十二万七千三百九十九トンでした。平成二十七年から、七千六百五トン減少しています。平成二十八年の一日の一世帯当りのごみの量は、二千六十五グラムでした。平成二十七年から、百七十八グラム減少しました。平成二十八年の一日の一人当りのごみの量は、千二百三十七グラム。平成二十七年から六十二グラム減少しました。ごみの量が、減少しはじめたのは、最近で、何年か前は、ごみの量が、増えていました。福島市はゴミの量では、ワースト一にもなっています。ごみが多いと、ごみを燃やした時に、空気を汚してしまいます。空気を汚さないようにするために、ごみを分別し、リサイクルをしたり、物は必要な分だけ買って、ごみの量を減らすことや、つめかえができる物を買うことで、防ぐことができるのではないのでしょうか。『ごみは分別すれば資源』のキャッチフレーズを行動にしていきたいと思っています。

三つ目は、自然の多い福島を保つことです。私たちが、普段使っている道路では、まわりの木や、花が手入れされ、きれいになっています。福島市では、そのような手入れの他にも自然に対する取り組みを行っています。たとえば、私たちの家の周りに生垣を植栽することで、一メートルで五千円など市から補助金が出ます。私たちが、自然の多い福島を保つことは、心がけ一つで、だれでもできることなのです。

今、私が挙げた三つの例のことを行ったり、取り組んだりすれば「空も水もきれいなみどりのまち」になり、何年も保つことが、できるのではないかと私は考えます。何年後にも、美しい自然の福島であり続けることができるためには、意識し努力し続けることが大切です。そのことに、積極的に取り組み、この美しい緑あふれる町を保つことができるように、市民みんなできいていきましょう。福島市の名産の一つに桃があります。市民ひとりひとりの力で桃源郷をつくっていききたいと思っています。

「きれいな地域を守るために」

福島市立立子山中学校

湯野川

颯

私の住んでいる地区は、ゴミが道のいたるところに落ちている。緑豊かな自然に囲まれた地区ではあるが、ゴミのない、きれいな地域になったらと考えることが多い。通学路の流れる川にも、ゴミが浮かんでおり、きれいな景観が台無しである。

そのため、私の通っている中学校では、登校時に、歩道のゴミを拾う「クリーンアースプロジェクト」を実行している。拾うゴミは、空き缶やタバコの吸い殻が多い。

地域の人たちだけがポイ捨てをしているわけではないことを信じていたい。しかし、地域の人たちにも責任がないわけではない。

例えば、自然。先ほど私は「緑豊かな自然に囲まれた地区」といったが、雑草が多い地区でもある。色々なところに花を植えることで周りの人がゴミのポイ捨てがなくなるのではないだろうか。私の地区にはた

くさんの「やまゆり」が咲いていて、美しいと思うことはある。また、水田の春夏秋冬と、美しい風景になり、私は、そんなこの地域が好きである。

山々の色で、季節が一年中感じられる。しかし、最近は木を切り、そこにソーラーパネルを設置する所が増えていく。そのため、そのけいかんは、美しくなくなってしまう。

私の地区は小さな地域であり知られていないところではないと思う。だから、きれいな地域として、知られるようになってほしい。

これからも、自然を大切にしていき、ゴミ拾いを自主的にやるようにしていきたい。

花がたくさん咲いているところにした

い。これらのことをふくめ、私は、「空も水もきれいな、みどりのまち」をつくることをすいせんします。

「交通ルールを守る市に」

福島市立大島中学校

扇 田 律

みなさんは、福島市をより良くするためにはどうしたら良いと思いますか。私は、たくさんありますがそのなかでも交通ルールを市の全員の人たちが守る必要があると思います。理由は、命に関わる大事なルールだからです。

例えば、車に乗るときにはシートベルトをつけるというルールがあります。私は、このルールはとても大事だと思います。なぜならもしも車に乗っているときに事故があったとしたら、シートベルトを着用していると、していないとでは全然ちがうと思います。私たちがよく行くコンビニエンスストアがあります。コンビニエンスストアは家から近い場所にありますよね。車で行くとき、近いからといってシートベルトを着用していいのではないのでしょうか。近い距離だからといってなにがおこるか分か

りません。私も短い距離の移動のとき、シートベルトをし忘れてしまうときがあります。そんな油断から事故が始まると思います。

もう一つの例は、ながら運転をしないというルールです。最近、スマートフォンを持ち歩く人が増えています。この前のニュースでスマートフォンをやりながら自転車運転していた女子大学生が、歩行者にぶつかって死亡してしまった事件がありました。この事件の女子大学生はわざとやったわけではなく、はつとした瞬間にやってしまったに違いありません。事件に巻き込まれた歩行者もこの、一瞬のことで人生が終わってしまいました。私はこの、一瞬で人生が終わってしまうということが許せませんでした。中学生になると自分専用のスマートフォンを持つ人が多いと思います。私もスマートフォンを持っています。外で安全に使うには、歩きスマホをしない、まわりをよく見るというルールを決めて使うと事故は減ると思います。

事故というのは、何があるか予想ができません。だから油断ができないのです。今

回例にあげたまとめをするとシートベルトは短い距離でもしっかり着用すること、ながら運転をしないことです。この例にあげた以外にも、世のなかにはたくさんルールがあります。交通ルールというものには命に関わる、大事なルールです。

私たちが住んでる福島市はそれほど事故が多いわけではありませんが、時々、見かけたりします。その時々見かける事故をなくすためには、子どもからお年寄りまで注意する必要があると思います。市の全員がルールを守って「事故ゼロのまち」にしましょう。

「福島市民憲章を見て思ったこと」

福島市立大島中学校

菅 野 瑠 々

私は、「福島市民憲章」を見て思いました。

それは、「空も水もきれいなみどりのま
ちをつくりましょう。」という憲章は福島
市に合っているなと思いました。理由は、
私は自然に興味があります。なので、よく
山や川や空をよく見ます。その時に、「信
夫山や吾妻小富士はどこから見てもきれい
に見えて福島市の宝だなあ。」と思ってい
ます。特に吾妻小富士は冬に雪が降ると「ゆ
きうさぎ」の形がくつきり見えるので福島
市の名所でもあるなと思いました。

それと、川もきれいです。市内の「阿武
隈川」は福島市全体を流れている川なので
この川も福島市の宝だと思いました。川を汚
さないために、水をムダ使いたくないように
心がけて大切にしていきたいです。

それから、「教育と文化を尊び希望に輝
くまちをつくりましょう。」という憲章は

人間にとって大事なことだと思いました。

教育を受けることにより、人間性や知識
が身につくので将来のためにも授業を今ま
でよりもっと頑張ろうと思いました。

「親切で愛情あふれるまちをつくりま
しょう。」という憲章は私も目標にしてい
ます。

たとえば、人には優しくし、いつも明る
く接することです。他にも、お年寄りの方
にも親切にしたいと思っています。

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働
けるまちをつくりましょう。」という憲章
の、「きまりを守り」の部分は私達中学生
でもできることだと思いました。

私は、買い物に行ったり、乗り物に乗っ
たりした時に、人に迷惑をかけるように
気を付けていたので迷惑をかけることはな
かったと思います。これからもそうしてい
きたいです。

「子どもからおとしよりまで安全で健康
なまちをつくりましょう。」という憲章は、
私も気を付けています。

私は学校まで自転車通学をしています。
その時に、左側通行を心がけています。交

通事故をなくすために、他にもヘルメット
を必ずかぶり、ゆつくりと走行することに
も気を付けています。これからは交通ルー
ルをしっかり守って、安全に通学していき
たいです。

それと、健康な体をつくるために、私は
毎日のようにバレーボールをしています。
部活動があっても、帰ってからバレーボー
ルをしています。部活動がなくても二時間
バレーボールをしています。これからも
ずっと続けていきます。

このように、五つの憲章は、どれも福島
市になくてはならないものだと思っていま
す。

この福島市に生まれてきたことにほこり
を持ってこれからも福島市をみんなであつ
くっていかれたらいいなと思っています。

「親切で愛情あふれるまちを

つくろう」

福島市立大島中学校

菊池 葉々美

私は、どうしたら福島市が愛情あふれる
まちになるのか考えました。

一つ目は、あいさつです。あいさつは人
と人を繋ぐきっかけだと思います。そして、
あいさつは、言われた方はもちろんですが、
言った方も気持ち良くなるという一石二
鳥のことだと思います。朝起きたとき家族
に、登校中るとき近所の方々に

「おはようございます。」

というと、気分が明るくなり、学校で楽し
い日々を過ごすことができます。逆に大き
な声で明るくあいさつをしないと、一日中
なんとなくパツとしない。ずっと眠かつた
りします。なので、特に朝、あいさつする
のは大事ではないかと思っています。私が思
うあいさつの一番良いところは、最初に話
したあいさつは人と人を繋ぐきっかけで

す。年が離れていると共通点がなく話す
きっかけがありません。ですがあいさつを
すると、例えば登校中に

「おはようございます。」

というと

「おはようございます。」

とかえってきます。けれどあいさつを続け
ていくと、

「おはようございます。」

といつものように言っていると、

「おはよう。気をつけて行ってらっしゃ
い。」

と、自分のことを覚えてくれてるんだと、
うれしい気持ちになり、親近感がわきます。
なので、あいさつは大切なことだと思います。

二つ目は、困っている人がいたら助ける
です。これは人としての常識です。ですが、
はずかしくて出来ないという人がたくさん
いると思います。なので私は、電車の中で
座りたいけど座れない高齢の方や妊婦さん
がいるかもしれません。ですが、はずかし
くて席をゆずってあげられないかもしれな
い。ということにならないように、日ごろ

から知らない人ではなく、家族、友達を助
けてあげれば良いと思います。友達を気軽
に助けてあげられるようになったら、知らな
い人が困っていても少しずつ助けていける
ようになるのではないかと思います。そ
れに、困っている人を助けていけば、自分
が困ったときに、きっと誰かが助けてくれ
るんじゃないかと思っています。

そして、最後はゴミ捨てをしないで、ゴ
ミを拾う。これは、歩いているときにゴミ
が落ちていることがあります。なので、ま
ちを汚すのではなく、ゴミが落ちていれば
拾い、まちをキレイにすれば良いと思いま
す。

これらのように、人と人が協力し、助け
合っていけば、自分たちの住んでいるまち
は、どこよりも良いまちになるのではない
かと思っています。

「福島市民憲章について」

福島市立大島中学校

仙 波 莉 緒

わたしは、「福島市民憲章」というものをはじめて知りました。

その中から「空も水もきれいなみどりのまち」について、考えてみたいと思いました。この言葉を見たときに、たくさん星がキラキラがやいている空と、おいしい水のことが、すぐに頭にうかびました。

今から七年前におきた、東日本大震災の前までは、みんながそう思っていたと思います。今もかわらず、たくさん星がキラキラしてキレイな夜空にはかわりありません。でも、世の中は、そう思わないのが現実で、福島市は、数年、風評被害というもので、なやまされてきました。緑ゆたかで、米や果物も豊富な福島の自然が、震災によって変わってしまったことは、本当にくやしいなと思いました。今では、福島市の地域のみなさんのがんばりもあり、以前

のきれいな自然がもどりつつあるのだと感じました。

私になにかできることは何か、考えることにしました。

福島市だけにかぎらず世界の問題となっている温暖化問題。植物は、太陽の光のエネルギーを使って、空気中の二酸化炭素と根から吸い上げた水を原料にでんぶんをつくります。この時に酸素をできて空気中にはき出されます。陸の上には、たくさん森林、草原があつて、植物は二酸化炭素を使って、光合成をしています。海には植物のプランクトンという、小さな生物がたくさんいて、同じように二酸化炭素を使って光合成をしています。それに対してわたしたち人間は、どのくらいの二酸化炭素を出しているのでしょうか。植物はどのくらいの二酸化炭素を吸収してくれるのでしょうか。人間が出す二酸化炭素はるかに多く植物が吸収しきれいていないのが現状です。今年もそのせいなのか、各地でいろいろな災害がおきています。「気候変動」といわれいちばん心配されていることなのだそうです。

このようなことから「空も水もきれいなみどりのまち」をつくっていくには、いったい何が必要なのだろうと考えました。答えは、二酸化炭素を少しでもへらすこと。でも、どうやってと考えてしまいました。まず、わたしにできることは何だろう。毎日の生活の中でできることといえば、「エコ」かなと思いました。

すべての生活に二酸化炭素は出ます。少しでも出ないようにするためには電気をこまめに消すこと。水道の出っぱなしや、テレビを長時間みないこと。お風呂は、時間を開けて入らないことなど、なるべく電気、ガスや水道を節約して、むだの少ないくらしを心がけることが、「空も水もきれいなみどりのまち」につながっていくだろうと思いました。

自然やたくさんさんのものを大切にしていきたいと思いました。

「水のきれいなまちをつくろう」

福島市立大島中学校

大 西 星 七

人間にとって水とは、とても大切な資源です。人は、生活のさまざまな所で水を使っています。例えばトイレや洗濯、お風呂などです。そして、人間の体の五十〜七十五パーセントは水でできています。水なしでは五日も生きられません。そのくらい水は人間にとって大切なものです。

福島市の水はきれいだと言っているのを聞いたことがたくさんあります。それを聞いて少しだけ誇らしい気持ちになります。

そして、福島市の水がもつときれいになるために、どうすればいいのかを考えました。

一つ目は、川で遊んだ時、ごみを川に流したりしないで、きちんと分別して持って帰るということです。私は、インターネットでもきかない川の画像を見たことがあります。どこの川だって、みんながまあ

いいや、と思えばすぐにきたなくなってしまう。でも逆にみんなが川をきれいにしようと意識して努力すれば、きれいな川、きれいな水、もしかしたらきれいな水道水になるはずです。だから、川をよごさない、というのが一つ目の意見です。

二つ目は、油がたくさんふくまれている料理を、そのまま流さないということです。例えば、天ぷら油大さじ一杯を溶かすには、お風呂約四杯分が必要です。中濃ソース大さじ三杯にはお風呂約五杯分、みそしる一杯にはお風呂十五杯分の水が必要です。なので、専用の吸収パットや薬をつかてきちんと処理することが大切だと思います。このことから、油物はきちんと処理する、というのが二つ目の意見です。

今挙げた二つの意見は、だれでもかんたんにできることなので、私も意識して家族のみんなや友達に言って、いろいろな人にこの二つを守ってほしいです。そして、福島市のきれいな水をもつときれいにしていきたいです。

「福島には、何がある？」

福島市立大島中学校

岡崎 ゆう

「花もみもある福島」という、かんぱんをよく見ます。みとは？「実、味、美、見」という四つの意味があります。

福島市には、本当においしい果物があります。さくらんぼ、もも、なし、ぶどう、りんごと一年でたくさんさんの果物を食べることができます。今年の夏はももをいただきました。最初は、そのまま食べて、次に、シロップにしたり、冷凍してソルベやゼリーを作ったりと見た目も味もおいしくいただけました。これは、豊富にあるからこそできるのだと思います。震災後、福島の果物を食べる人が減ったと聞きますが、果物で季節を感じられる福島に、また足をはこんでくれるといいなと思います。

そして花。福島は花も美しいです。福島市外から、福島市内にもどってきたとき、花見山に行きました。とても広く、たくさ

んの花が咲いていて、とてもきれいだと感じました。福島は花の名所が多いのですが、花見山に初めて行ったとき、いろいろな種類の花が咲いていて、感動したことをおぼえています。

そして、飯坂町にひっこしして、花もものことを知りました。飯坂球場の近くにある花ももの里では、菜の花の黄色とうすい、こいピンク、白の花もがいっしょになって、とてもきれいです。満開の花もものつしよにまだ、つぼみの木もあるので、長い期間、楽しめます。

乙和公園では、満開の桜に囲まれた花ももがとてもきれいで可愛らしいです。

果物も花も、たくさんのかかわりがあつての、おいしさや美しさだと思います。他にも、見どころたっぷりです。「花もみもある福島」をこれからも大事にしたいと思います。

「福島市民憲章で

自分達ができること」

福島市立大島中学校

飯田 ヒカル

この憲章は、市民の人達みんなで達成しないといけないと思います。一人でも「自分は大丈夫。」といって取り組まなければスムーズにいかないのではないのでしょうか。そこで私は、子供から大人まできまりを守るような、小さなことから取り組めるような、そんな目標を立ててみました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」では、まず自然をよさなようにごみを捨てないよう心がければ良いと思います。大人の場合、近所に行くときは車で行かず、歩いて行つてはどうでしょうか。車で行くと排気ガスが出てしまうので自然に良くないと思います。

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」では、中学生の場合、高校にいくため一生懸命勉強すればいいと思

います。大人の場合、博物館等に行ったり図かん等でまた新しい発見をすればどうでしょう。私の考えだと、大人でも勉強をすると楽しいと思うからです。

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」の場合、近くで困っている人がいたら、少しでも助けてあげたら良いと思います。親切なことをすると自分も相手も幸せな気持ちになれるという点もあるからです。あとは、友達の悪口を言うトラブルになりいじめにつながることもあるので、友達の悪口を言わないことも必要だと思います。

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」では、公共施設でのマナーを守ることが大切だと思います。さつえいしない、うるさくない等を守りたいです。また、災害のときには近所の人達と助けあつて、避難したりすれば良いと思います。

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」では、信号無視をしないでわたったり、車ではスピード違反をしないようにしたり、自転車に乗る

ときはできるだけヘルメットを被ったりして、みんなが安全に道路を歩けるように心がけたら良いと思います。さらに、子供もお年寄りも少しずつスポーツに取り組んだり、朝ご飯、早ね早起きをしたり、歯みがきしたりゲームをしすぎないようにして口や目を大切にしたり、健康診断に行ったりして健康に毎日を過ごせばみんなが元気になると思います。

「ちりも積もれば山となる」ということわざのように、私達市民で一人一人、少しずつ、目標を達成していけば、みんなが幸せになれると思うし、この福島市が進歩する可能性だつて上がると思うのです。私もさつそく、これらの自分で立てた目標を達成できるように、今日から努力していきたいと思います。

「市民憲章について」

福島市立大島中学校

仙 波 莉 江

わたしは、この作文を書こうとしたときに福島市民憲章って何なのか知りませんでした。調べてみると、市民憲章とは、一つの自治体に住む住民が、たがいに横のつながりをもつて、よい生活を築こうという考えを表したもので、市民としてのほこりを持ち、みずから作った環境に責任を感じ、その文化遺産を尊重し継承するという市民合意や約束、願いを表したものといえると思います。

住みよい地域社会をつくるためには地域住民の連帯感の合意が必要ということなのだということを知ることができました。

ただ住んでいる環境や住む人の性格などもあり、一人を好む人や、かわりをもとうとしない人も中には、いると思います。

今、孤独死などもよくテレビでみかけることがあります。それだけ一人でくらし

いる高齢者の方がふえているのだと感じました。

わたしは、福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまち」について考えてみたいと思いました。

まず、初めに思ったのは、ボランティアなどを通して、地域の人を始め高齢者の方々とふれあうことで少しでも気持ちが悪くなくなったり、明るくなることがあればステキなことだなと思いました。

わたしたちの住む、福島北警察署管内の大学、高校、中学校の各校の代表数人が、警察官の方と一緒に「ノースエンジェル」というボランティア名で活動していました。私の姉が参加していたので話を聞くことができました。その中で地震で仮設に入っている方々を訪問して、困っていることがないかなど話をしながら、チラシを配ったりしたそうです。その中でちがう土地での一人ぐらしの高齢者の方々は、なかなか生活になじめず大変だったことなども話しにありしたと聞きました。一年間の活動だったけど、二年生へと引きつがれて活動は続いているそうです。

東日本大震災があった年は私は幼稚園生でした。七年たった今でも苦しんでいる人はたくさんいると思います。

自分が育った福島が私はとても大好きです。小さな親切な心が、誰かを救うきっかけにつながるでだすけができたなら、もっともっと福島の人々のきずなが深まるのかなと思います。

東日本大震災というとてもつらく大変な出来事もありましたが、地域の人たちの協力やお互いに助け合う心で、少しずつ以前の福島とかわらない活気がもどってきていると感じます。

この「福島市民憲章」の中の「親切で愛情あふれるまち」を、これからの日々の生活の中でつねに心がけてすごしていきたいと思います。そして、もっともっとステキなわたしの大好きな福島の未来に、つながりて、いきたいです。

「ぼくが思う福島」

福島市立大島中学校

朝倉

陸

ぼくが、小学校一年生のとき、学童クラブに通っていました。その日は、母が家に居ると勘違いして友達と遊ぶ約束をして家に友達といっしょに帰ってきてしまいました。母は仕事に行っていて自分はカギを持っていなかったのどうしようか悩んでいました。そのときに母が言っていた事を思い出しました。「なにか困ったことがあった時は、お隣の人に助けてもらいなさい。」と言っていたことを思い出し、インターホンを押して事情を話しました。そしたら「お母さんが帰って来るまで家に上がっていいよ。」と言ってもらいました。家に上がったときにゼリーを出してもらい友達と仲良く食べていました。そのほかにはお隣の人に興味でやっているギターをひいてもらったり、ギターを触らせてもらったりしました。そのお隣の人は、朝は「おはよう。」

学校から帰ってきたときは、「おかえり。」と言ってくれます。これは今でも変わりません。ほかには、ウォーキングをしている近所の人が「こんにちは。」などと言ってくれる人がたくさんいます。ぼくたちが通る通学路の安全を守る近所の人もいます。都会では近所とのつながりが少なく、隣に住んでいる人の顔が分からないので不安だと思っています。一方福島は、近所とのつながりがあるので住みやすいと思います。自分も、つながりを大切にするためにあいさつなど積極的に行ったり、困っている人がいたら手助けをするなど小学生のころにできなかったことを中学生になった今できるように努力しようと思います。

福島は、人と人とのつながりがすばらしくうつくしまふくしまと言うように緑も多く山もきれいで四季折々の花が咲き、果物も豊富にとれています。街並と共に福島に住む人々たちも人々とのつながりを大切にしているうつくしまふくしまだと思います。僕が大人になっても自分の故郷が福島で良かったと思えるように今自分にできることを一生懸命頑張っていきたいです。震災が

あつてから福島では、風評被害や原発事故などで、大変な思いをたくさんしてきた人がいます。ぼくがこれから人々のかかわりや福島に住んでいてとても良いところだといろいろな人に分かってもらえるようにその気持ちを心の中にいつも思っていて生活していきます。

「自然を守る小さな親切」

福島市立平野中学校

樫山 喜己

福島は、田舎だ。東京と比べ、お気に入りの服を買う所が少なく、友達と遊ぶ場所がさへあまり多い方ではない。本当になにもない。でも、そんな福島でも、都会に勝つ物がある。それは、くだもののおいしさだ。

去年の夏、僕は、自由研究で都会（千葉）のももといちごを食べたところ甘さは、あったもののみずみずしさがなくおいしくもなかった。それに対し、祖父、祖母が農家でつくっているものは、みずみずしく、色もピンク色をしていてすごくおいしかった。

僕は、この体験から、二酸化炭素で空気を悪くしている都会でつくったくだものより、福島の水がきれいな場所でつくった方がいいことが分かった。

また、僕がまだ小さかったところに親と

いっしょに川ぞいにいった時、キャンプをしていた人がいた。僕は、その人達を、楽しそうだなと思いながら見ていた。そして、ひまつぶしをして帰る時にキャンプは、終わっていたが、一人もくもくとゴミ拾いをしていておじさんがいた。母は、

「手伝おうか。」

と言って、ゴミ拾いを始めた。その時、僕ははらがたっていた。なんでほかの人のためにゴミを拾うのか、それでなぜ時間を無駄にするのか分からなかったが、おじさんが、

「自然を守っていかないと。」

と言いながら作業をしているのを見て、自然を大事にする気持ちと親切な心を感じ、そして最後に他人（おじさん）から初めて言われた

「ありがとう。」

というお礼の言葉のうれしき、長時間そうじをし川ぞいをピカピカにできた時の達成感は今中学生になった今でも、忘れない。この市民憲章に出会い、福島のいい所をたくさん見つける事ができた。空気や水がきれいだからおいしいくだものができる。

その、自然を守ってくれている人々がたくさんいる、そういう事に気づけたと思う。これからは、ゴミ拾いや近所の人にあいさつをするなどあたりまえの事から始め、そして、いつか、「きれいな市」「親切がたくさん」とキャッチフレーズがつくようなそんな場所にしたい。

この作文を書きながら昔をふり返ると僕はさまざまな親切に出会えた気がする。このことをふまえまわりの人に感謝をつたえながら一日一日を歩みたいと思う。

「近所の人たちとの交流」

福島市立平野中学校

茂 木 瑠 星

僕は福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」を見て、近所の人たちを思いうかべました。

一人目は、産まれたときから優しくしてくれている、亡くなった祖母の友達です。そのおばあさんは、今は祖父だけが住むようになった祖母の家となりに住んでいて、僕のことをずっと見守ってきてくれました。お正月のお年玉や入学・卒業祝い、美味しいお菓子をくれたりもしてくれて、本当の孫のように接してもらいました。僕は少しでもそのおばあさんの役に立てるように、秋に落ち葉のそうじをしたり、また冬には雪かきをしています。ですが、いつもやった分のごほうびをくれて、僕から一方的にお手伝いをしてあげたことはあまりありません。これから先、僕がお手伝いをしてあげられることがもっと増えていくと

思います。その時は、必ず今までお世話になってきたこと以上の恩を返したいです。

二人目は、僕が住んでいるアパートの下の部屋に住んでいたおばさんです。そのおばさんは僕が小さいときに下の部屋へ引っ越してきて、会ってあいさつをするたびに親しくなりました。今はまた違うところへ引っ越してしまいましたが、雪かきや外のそうじなどをするたびにお菓子などをくれて、とても優しくかったです。また、部屋などでうるさくしてしまい、迷わくをかけても、いつも普通に接してくれて、それどころかいっぱい話しかけてくれました。学校での行事のことや習い事、旅行の話など様々な話をするのが、とても楽しかったです。とても他人とは思えないくらい優しくかったおばさんは一生忘れられません。

僕はこの二人の他にも近所や通学路沿いに住んでいるたくさんの人たちに優しく接してきてもらいました。最近は中学生になって通学路が変わったり、部活動で帰るのが遅くなったりと、あまり関わる機会や時間が減ってしまい、会わなくなった人もいます。僕は親切で愛情あふれるまちをつ

くるには、近所に住んでいる人たちとの交流も大切だけど、その交流を行う機会をつくるのが一番重要だと思います。この地域は、他の地域に比べて町内会や子供会などの行事が盛んなので近所の人と接する時間があり、親しいことが多いけれど、あまり盛んでない地域では、声をかけ合うことも少ないと思います。これからもっと全ての地域で、交流を行う機会が増えたと、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」が実現できると思います。

「地域の伝統行事」

福島市立平野中学校

阿部 瑛 太

僕は、一年生から六年生まで近所の神社で行われている祭りに参加してきた。そして太鼓をたたき地域を回る。

一年生から三年生までは、太鼓で毎回休まず練習に参加した。午後七時から午後九時までと小さいころの僕にはかなりハードだったが、一生懸命、太鼓をたたいた。だが、一年生と二年生の時、かぜをひいて祭りに参加することができなかった。三年生になって初めて祭りに参加することができた。太鼓をたたき屋台にのったら見覚えがある名前が、屋台の中に書いてあった。それは曾祖父の名前で今は亡くなってしまったが、大工をやっていて、なんとこの屋台を造っていたのだ。僕はうれしくなってみんなに自慢した。いざ、太鼓をたたくときも、とても楽しく太鼓をたたくことができた。

高学年になり、習い事などで毎回練習に参加することができなくなったが、大太鼓をやるようになった。大太鼓は小太鼓のテンポにあわせてやらないといけないし、強弱なども気をつけてやらないといけない。僕はなかなか大太鼓のリズムがつかめなくて、うまくできなかった。そんな時、近所の太鼓の先生がていねいに教えてくれた。

「あせらなくていいよ。」

この言葉が僕を落ち着かせてくれた。みんな上手にたたけているが僕だけできないのがいやだったが、この言葉を言ってもらい、ゆっくり落ちついてやったら、だんだんできるようになった。初めて、最後までたたけた時はとてもうれしかった。

その後、自分なりに工夫してばちを縦にふるのではなく横からふったり、最初と最後の音はいつもより大きくやったりした。

六年生になり、最後のお祭りシーズン。六年生になったので、大太鼓の初心者に教えてほしいと言われた。ていねいにやさしく教え、後輩が上手にたたけるようになった時は自分ができた時のようにうれしかった。

た。後輩に教えるというのは、初めての経験だったがとても難しかった。が、これからの人生にとって大切なことになったと思う。

祭り当日。屋台に乗り地域を回って太鼓をたたくのは最後になる。たくさんの人の前でたたくことができて楽しかったし、ミスなくやることができた。終わった後はさびしい気持ちもあったがそれより達成感のほうがあった。六年間やりきれたうれしさや、つらかった練習などすべていい経験になった。

地域の行事にかかわるということはとても良いこと。伝統とともに人とのつながりがうまれるこの祭りを僕たちが引きついでいけるようにする。

「果樹園広がる福島」

福島市立平野中学校

清野 優里

市民憲章の一つ、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」を見て、「くだもの王国」という言葉が頭に浮かんできました。パンフレットや広告などでよく目にすることがあります。私の家の周りには果樹園が広がっています。平野中学校の校歌にもあるように、「柿」「りんご」「梨」春になると待っていましたとばかりに次々と花を咲かせます。桜の花もきれいだし、それぞれが、違った色の花を「私が一番美しい」とばかりに白雪姫の物語を思い出させてくれます。そのきれいな果樹園の花や、手入れされて立派に実った果実。「もも」の品種の一つ、「あかつき」は、福島市の果樹研究所の研究結果によって命名され、今では全国に知れわたっています。果物に対する愛情と努力が大きく実ってくれたのだと思います。生産量は全国の中でトップ

クラスに入っているけれど、高齢化社会の今、その位置をキープするのが難しくなってきています。

私の両親は、祖父とともに果樹園を経営しています。きれいな花が咲くのも、立派な実が実るのも簡単ではありません。毎日、一生懸命手入れをし、一枝一枝手抜きすることなく愛情込めて育てているからだと、わかるようになりました。おいしいとしか、意識しないで食べていたときは、ひとりでできたものだと思っていたような気がします。誇りを持って仕事をしている両親を見て、このような地道な努力の積み重ねで、美しい、すごくおいしい果物ができていることを日々の生活の中で教えられ、私自身も自然に学んでいるのかもしれない。

現在、私が通っている中学校の一年生は、福島市の果物について地域の方々からお話を聞いたり、作業を体験させてもらったりしています。「りんご」の摘果作業、玉回し作業など、「くだもの王国」だからこそできることです。農業だからこそ得られるうれしさ、達成感が短い間でも味わうことができます。

きれいな花、立派な実をつくる日々は、長くてつらく、厳しいかもしれません。しかし、その先にはお客さんの笑顔が待っています。世の中で喜んでもらえるものをつくるために働くのは素晴らしいことです。私の家の周りに広がっている果樹園が私は大好きです。いつまでも今のよう美しい景色が続くよう、普段の生活から環境問題への意識を高め、福島市民の一人として守っていききたいと思います。

「笑顔いっぱいふくのしま」

福島市立平野中学校

島田果南

市民憲章の一つ、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」について考えたとき、私はある出来事を思い出しました。

それは、夏休み中の部活のときの事でした。その日は部活が午後からで、家を出たのは十二時でした。最高気温は三十七度予想だったので、十二時の時点で三十度以上になっていました。私の家から学校までは歩いて四十分かかります。近くに同じ部活の子が住んでなく、一人で登校していたときの事です。バッグも重く、ヘトヘトになりながら歩いていました。ふとなめ前を見ると、農作業中のおじいさんがいました。目が合ったので、私が、

「こんにちは。」

と声をかけると、おじいさんは、

「こんにちは。暑いから熱中症に気を付けてね。」

と笑顔で返してくださいました。その一言に、ヘトヘトだった私は、元気をもらいました。いつも、あいさつをするよう心がけていたのですが、笑顔でちゃんと相手の目を見てあいさつをする事が大切なんだなと改めて感じる事ができました。

それから、前よりもっと積極的に、笑顔でちゃんと相手の目を見てあいさつをするようにしました。すると、道ですれ違ったおばあさん、おじいさん、花に水をあげている主婦の方、仕事中の警備員さんも、

「こんにちは。」

「いってらっしゃい。」

と笑顔で返してくださいました。あいさつを交わす度にほっこりした気持ちになりました。

登下校中だけでなく、部活中も積極的にあいさつするようにしました。コーチの方がいらっしやったとき、一年生みんながかげよって、

「こんにちは。よろしく願います。」

と一人一人があいさつをしました。するとコーチの方は、

「みんながかげよってあいさつしてくれ

るとすごく嬉しい。今後二、三年生になっても続けていってほしい。」

と笑顔でおっしゃっていました。

私は、笑顔であいさつをするようになって、気付いた事があります。それは、「笑顔であいさつをする、相手も自然に笑顔になる。」という事です。私が見た笑顔は、どれも自然な笑顔でした。自分からあいさつするのは恥ずかしいという心は、誰もが少しは持っていると思います。ですが、それを乗り越えれば人の素晴らしさを知ることができました。福島市民で良かったなと心から思います。

「鼓笛パレード」

福島市立平野中学校

桑野 歩 武

福島市民憲章の、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」を見て、去年僕達が福島市で「鼓笛パレード」というものをして、福島市で一番目立ったことを思い出しました。年に一回の開催で、平野小は六年生だけ出場しました。毎年先輩達の勇姿を見て、自分も出たいと思っていました。

そもそも「鼓笛パレード」とは、こういったものかという、福島市内の各小学校のパレードに出れる学年が、様々な楽器、旗を使って、その日まで頑張つて練習して、当日に福島市を堂々と演奏しながら行進するものです。毎年、パレードの日が近づいてきたら、それぞれのパートの先輩に、いろいろなことを教えてもらってその日まで備えます。本番はみんな緊張して、見に来た家族や、近所の方や小さな子供達、さらに

テレビ局まで来ていて、道路のまわりには、大勢のお客さんがいて、まるでお祭りのようです。

少しさか上って、いよいよ自分達のパレードがやってきました。とても緊張しましたが、見に来たお客さんの声援が、このパレードをやりきる勇気になりました。お客さんの声援もあつて、無事に終わりました。終わった後、

「市の文化を自分達が引き継いで歴史をつくるっていいなあ。」

と思いました。福島市、県だけでなく、とても大きな規模の地震が起きたのに今もやっている、というものは数少ないと思います。鼓笛だけでなく、福島市の教育、文化は、一切折れず、むしろその長い歴史をさらに長くしています。でも中には、その歴史に幕を下ろさないといけないようなものもあります。そういったもののために、

「がんばっぺ福島！」

「がんばっぺ東北！」

などの横断幕で復興しようという意思が伝わり、今では、観光客も増えています。

一つ一つ、それぞれ歴史がある、文化が

ある、という観点ではなく、嬉しいことも悲しいことも、それもまた歴史、そういった悲しい出来事を教訓にして次につなげるという、前向きな見方が最近増えてきています。鼓笛パレードに何が起きていても支える人がいて、まだこの文化は終わっていません。福島市の歴史や文化はとて多いので、市内の多くの人が、その復興に協力しています。僕も福島を大切に生きていきたいです。頑張つて一人前の福島市民になります。

「協力することで笑顔になるまち」

福島市立平野中学校

高 木 大 輔

僕のおばあちゃんは僕の生まれるずっと前から桃やなしを育てています。僕は小学生のころから夏休みに手伝いをしています。今年の夏もおばあちゃんの手伝いをしました。僕の主な仕事は桃を運ぶことです。

具体的に言くと、おばあちゃんが桃を取って、僕が桃を摘むところまで運び、そこでお手伝いさんが選別します。朝五時から始めて昼過ぎまで手伝いをして二時間ごとに休けいをします。木陰に座って三人で雑談でもしながら休けいします。そしておたがい持ってきた豆やトマト、バナナなどを食べます。トマトは塩をかけて一つまるごとかじりつきます。働いた後のトマトは頬が落ちるほどうまいです。僕は小学生のころからこのようなことをしているのでおばあちゃんの友達と仲良くなっています。お盆など行事でおばあちゃんの家に行くと、た

くさんのおばあちゃんの友達がいて、茶の間でお話などをします。たぶん、都会の方ではなかなかできない事だと思います。こんな楽しいことがおばあちゃんの手伝いから始まっているなんてこの作文をかいていなかったら気付きませんでした。もし、僕がおばあちゃんの手伝いをしていなかったら、おばあちゃんも仕事が増えるし、お盆の時などおばあちゃんの友達と話せていなかったかもしれません。

協力をするということは、他の人のやくに立つことでもあります。例えば、ポイ捨てのゴミをゴミ箱に入れる。それだけで自分の知らない内にだれかが喜んでくれるかもしれません。しかし、ポイ捨てをする人がいる限り、ゴミは増えて、キレイな町とはいえなくなってしまう。そこで、町のみんなが協力して、公園などを掃除するのもいいと思います。おとしよりはこれをする事によって、体も使えるし、近所の人と会話することで、笑顔になれるかもしれません。学校でも同じことです。床などがきたなくて一人では無理があるから生徒が協力して掃除をするのです。

協力にもいろんな協力があります。さっき話した協力の他にも、注意を合うことだって協力です。交通ルールを間違っている人などがいたら、親切に教えて、教えてもらった人は素直にそのことを反省し、次から気を付ければ、大きな事故の原因になることは少なくなると思います。

このようなことができたなら、町のみんなは笑顔が絶えず、協力しあえるようになると思います。僕も協力しあえる人になり、楽しい町にしたいです。

「明るい福島」

福島市立西根中学校

石田 大和

僕は、困っているおとしよりの方を見た事があり、すごく心が痛んだ事があります。たとえば、電車の中でスマホをいじっていて、おばあちゃんが立っていました。その人はスマホに夢中でおばあちゃんが立っている事に気がつきませんでした。

僕はそれを見ていて、かわいそうだと思いました。自分だったらどうするのかなども考えた事もありました。

それを解決するためには、声かけが大切だと思います。声をかける事によって、まわりの人もきづいて気を使ってってくれるので、そうする事によって、おばあちゃんも笑顔になるし、まわりの人も笑顔になるので声をかけるという事はとても大切だと思います。

また、自分もおとしよりの方が立っているのを見かけたら、声をかけてあげたいと思います。年上の人が立っていて、自分

が座っているのはおかしいので気をつけようと思いました。

そういった小さな思いやりが誰かの笑顔につながって、ちょっとしたでもみんなが明るく楽しくなってくれるのが僕の理想の明るい福島です。

これから自分が死ぬまで何十年とありますが、いくつになっても思いやりの心を忘れずにたくさんの人のためになる事をやっていきたいです。

ちょっとしたでもできるかぎりの事をやりつくして、生活していきたいと思います。

今後の目標はちょっとした事でも良いので人が困っていたら、見て見ぬふりをせずに、ちゃんと声をかけてあげて、一人でも多く幸せになってくれる事が目標です。

人を助けてあげていやになる人はいないと思うので、困っている人がいたら積極的に助けたいと思いました。

思いやりは年齢関係無く、子供でも大人でも助けてあげるのが一番だと思います。

例えば、同じクラスの友達が物を落としてしまいました。近くにいたのにその人は見て見ぬふりをしました。そういった人は

僕は好きではありません。どうせ他の人が拾ってくれるだろう。俺だるいから良いや。その心が好きではありません。大切な友達でも時には自分かつてな時もある。思いやりや親切な気持ちも無い。それは思いやりではありません。人が困っているのを助けてあげたり、声をかけてあげたり。そういった気持ちをもち続けて生活していきたいと思います。

「歴史ある文化財を守るために」

福島市立西根中学校

佐久間 日 愛

私の住んでいる湯野地区には、西根神社という文化財があります。西根神社では季節ごとのさまざまな催事が行われ、その一つである「うそかえ祭」に私も参加したことがあります。うそかえには、「悪い事をうそに変えて良い事にする」という意味がこめられています。

この時期になると西根神社周辺がとても混雑し、地元のテレビ番組が特集をするなど町が活気づきとてもにぎわいます。

しかし、近年外国人観光客が日本の重要な世界遺産や文化財にらくがきやイタズラなどをするが増えています。他人事ではなく、このようなことがこれから福島市でもあるかもしれません。

では、これらの文化財を未来へ守っていくためにはどうすればよいのでしょうか。まず私が考えたのは、「外国語の看板な

どを増やす」ということです。よく日本語の看板やはりが見かけますが、外国語の看板はあまり見かけません。最近では、私の住んでいる地域を走る福島交通飯坂線の駅名の看板が新しくなり、日本語に加え英語、中国語、韓国語で表記されています。簡易的なものでも効果はあると思うので、呼びかけの強化をすると思います。

次に考えたのは、「文化財の歴史を知る外国人向けのツアーを作る」ということです。

世界的に有名な文化財だとすでに企画されているかもしれませんが、知名度の低い文化財にもそれぞれ歴史があります。観光客に歴史を知ってもらえれば理解が深まりイタズラなども減るのではないかと思います。

また、地域の小・中学生に協力してもらい文化財の歴史を紹介するパンフレットなどを作るのも良いと思います。

このような方法で観光客に呼びかければ、イタズラをされることも無いと思うし、文化財を知ってもらうことができます。

地域の方々や観光をする方々とも協力し

て、「歴史ある福島市」を発展させていきたいです。

「命の大切さ」

福島市立西根中学校

平野 珠月

最近私がきになっているニュースは、子供乳幼児へのぎゃくたいです。

このごろのニュースで、乳幼児へのぎゃくたいのニュースが多くなってきたので私はなぜぎゃくたいや、さつじん、いくじほうきがおこるのかを私なりにかんがえてみました。

なぜぎゃくたいなどがおこるのだろうか。私はもう一度ニュースを見て、ぎゃくたいした理由、ころした理由などを見てみました。その理由は、うるさい、言う事をきかない、うざいなどの理由でした。でも私はこう思います。子供ははしやいだり、勉強したり、遊ぶのが子供だと思えます。そこで、私なりに解決する方法を考えてみました。

ぎゃくたい、さつじん、いくじほうきをする親は、子供がきらいなのではないかと

思います。

その理由は、その親は産みたくて産んだわけではなく産まされたりして、ほしくなかったのに子供ができちゃったんだと思います。

でも、かりに子供がほしかったにもかかわらず、子供にぎゃくたいをする親がなぜぎゃくたいをするのかを考えてみました。

理由は、子供はほしかったけど、いざ産んでみたら想像とちがつていたり、産んだら産んだで、育児がうまくいかなかったりして、どんどんストレスがたまっていき子供に暴力をふるってしまうのではないかと思います。

このようなことを解決するには、子供を産む時は、それなりにかくごをきめて産むなり子供がいやで産みたくない人は、後からのことを考えて産むべきだと私は思う。

子供がほしくても産めない人たちがいるなかでせっかく産まれた一つの命をきずついたり命をなくしたりするのはほんとにさいていだと思います。

そこで今後どうしたらよいのかを考えてみました。

ぎゃくたい、さつじん、いくじほうきをなくすには、子供がいやでも産んじやった人は暴力をふるうまえにようしえんぐみなどに入れるなどをしてぎゃくたいなどをなくしていけたらいいなと思います。

「安全で楽しいまちにするために」

福島市立西根中学校

三星 夏凜

私が車に乗ったり、歩行していたりすると交通ルールを守らずに事故をおこしたり、事故の原因になるような歩行、運転をしている人がいます。ニュースを見ていると信号無視や飲酒運転などをして事故をおこして他人に死傷をきたしている人がいます。このようなことをすると相手にめいわくがかかるし自分もたいへんな思いをすることになると思うのでやめたほうがいいと思います。

事故のない安全で住みやすい福島市にするには次のようなことを気をつけたほうがいいと思います。一つ目は常に左右を確認して歩行、運転することです。いくらいそいでいてもどこから車や自転車などがくるか分からないのでしっかりと確認してから走り出したり歩き出したほうがいいと思います。二つ目は音楽を聴いたり、スマホを

いじったりしながら歩行することです。音楽を聴きながらだと周囲の音がきこえなくなってしまう後ろや左右からなにかが来ても気づくのがおそくなってしまう。スマホをいじりながらだと前がみえなくなりいろんなところにおつかつてしまうおそれがあります。このようなことをさけるためにはながら歩行、運転はやめたほうがいいと思います。三つ目はみんなが優しさを持つことです。子どもと手をつないであげたりお年寄りの荷物を持ってあげたりすれば子どももお年寄りも少しは歩きやすくなり事故を防ぐことができるかもしれません。ほかにもみんながゆずり合いをしてみればいいと思います。

この三つのことを守ったり、交通ルールを守れば事故がゼロの快適で住みやすいまちが実現されると思います。そうすれば平和になり笑顔あふれる明るく楽しいまちにもなると思います。

私は前までは交通ルールについてあまり意識していなかったのでこれからは気を付けて生活していきたいです。

「交通安全『命を守ろう』」

福島市立西根中学校

森 七 海

私が小学校六年生のときに、遊びにいうと自転車に乗っていて「トマレ」の標識に気づかずに行ったら車がきていて、車に轢かれそうになりました。

その時思ったのが、福島市の皆にそんな怖い思いをしてほしくないと思ったし、自分も怖かったです。

こん後は、よく見て、事故につながないようにきをつけたいです。これからは、福島市を安全にしたいと思いました。

福島市の問題点が三つあります。

一つ目は、自転車や車が「トマレ」の標識をむしって走っていることです。

私はじつさいにそれを見ました。その時思ったことは、「こうやってむしばかりしているから、福島市の事故がへるんじゃないくて、ふえるんだなあ」と思いました。

二つ目は、車のスピードをおとさずに

走っていることです。

ニュースでこういう事故がありました。

「運転手が前にいる人に気づかずにそのまま人を轢き死亡した」というニュースがありました。

それを見て私は「なぜ目の前に人がいるのに気づかないで轢いちゃうんだろう」と思い、ふしぎでした。

三つ目は、いねむり運転です。

ニュースなどで、「人が轢かれて亡くなった」などがニュースにながれます。

いねむり運転は今でもあります。なので、福島市のいねむり運転をなくして亡くなる人もへらしたいです。

福島市の良いところもあります。

一つ目は、自転車に乗っていてもちゃんと止まることです。「トマレ」の標識をもらない人もいますが、「トマレ」の標識をまもる人がいて私は、ちゃんと決まりを守ってくれてとてもうれしかったです。

二つ目は、地域の人どうしがとても仲が良いところです。私の地域もみんな仲が良いので会ってもすぐに話しやすいです。

こういうふうに福島市は良いところもた

くさんあれば決まりを守らないこともたくさんあります。

こういう福島市ではなくルールを守り、良いことをたくさんして福島市をもっともつと良くしていきたいです。

目指すべきことは、福島市をより良くし、事故をなくし、安心、安全な福島市にしたいです。

さいきん「子どもが亡くなる」なんてニュースもけっこう見るんで、そういう事故で亡くなるニュースをへらし、福島市の人、長生きしてほしいです。

「親切で愛情あふれるまちに

するために」

福島市立西根中学校

山 岸 羽 菜

私には少し気になっていることがあります。

私の学校には障害をもった同級生がいます。その友達は、普段の学校生活でみんなと同じくできないことが多いのですが、それを見て笑ってバカにする人がいるのです。本人の前で言うことはできませんでしたが、障害をもつ人は、なりたくなかったわけでもないし、目立ちたくてなったわけでもないのに、そういう人を見て笑ったりバカにしたりするのはよくない、と思っていました。友達から聞いた話なのですが、障害をもった人の写真や動画をネット上にのせておもしろがっている人も世の中にはいるそうなのです。どうしてそのようなことをするのでしょうか。どうすれば親切で愛情あふれる福島市になるのでしょうか。

していきたいです。

もし、自分が障害をもった人の立場だとしたらどうでしょう。自分では精一杯がんばってやったのに、失敗してしまったり、みんなと同じくできなかったりしたときに、バカにされたり、からかわれたりしたら、どんな気持ちになるでしょうか。そんなことをされて喜ぶ人は、絶対にいないはずです。障害をもつ人の立場になって考えてみれば、笑ったりからかったりするのはいくつかのことだと気づくのではないのでしょうか。

私も、今後友達が障害をもった人をバカにしているのを見かけたときには、注意してみようと思います。

この作文を書いて、病氣の人への差別を福島市からなくし、親切で愛情あふれる福島市にしていきたい、と改めて感じました。そのためには、まず一人一人が誰に対しても親切にすることが必要だと思います。そして、福島市民全員が支え合って、子どももお年寄りも障害をもつ人も、だれもが住みよく希望に満ちた福島市をつくりあげていきたい、と思いました。福島市の未来を「だれにでも親切」な行動で明るく照ら

「綺麗な緑のまちに」

福島市立松陵中学校

阿部 明羽

空も水も空気も綺麗な緑のまちにしましょう。

空、水、空気の綺麗なまちが多くなれば、それは地球全体が綺麗になっていくということです。

近年、地球は様々なところから排出された二酸化炭素により、地球温暖化がどんどん進んでいます。地球温暖化による影響は沢山あります。

例えば、気温です。今年は国内で最高気温が埼玉県熊谷での四十一・一度になります。福島県内では三十三・五度と三十度超えの地域がほとんどです。地球が暖かくなり北極の生き物たちが大変危険な状態になっています。

また、ゴミや、工場から出る排出物が海に流れ、水辺に住む魚なども危険です。影響を受けるのは、北極や水辺の生き物

だけではありません。私たち人間にも影響があります。

多少の二酸化炭素であれば、植物が光合成で酸素に変えてくれますが、増え続ける二酸化炭素全てを変えることはできません。変えることのできなかった二酸化炭素は空気中に混ざり酸性雨となって地に降りそそぎます。この酸性雨によって、建物や像などが溶かされていきます。

そこで私たちにできることはないのでしょうか？一番は二酸化炭素、ゴミを減らすことです。

二酸化炭素を減らすには、もちろんあまり排出をしないことが一番ですが、それは私たちに止めることができるかというと、難しいです。

私たちにできることは、植物を沢山植えて少しでも二酸化炭素を減らすことです。

植物はさつきも言った通り、光合成をして二酸化炭素を酸素に変えてくれるはたらきがあります。そのため少しでも植物を増やせば光合成をする効率が上がると私は思います。

また、木を沢山伐採しないことも大切だ

と思います。物をつくるための材料、土地を広げるために伐採されることが多いと思います。

木の伐採を減らすためには資源を無駄づかいしないことが大切かなと思います。資源を大切に使い、リサイクルなどをしていけば、木が伐採されることが少なくなると思います。

水を綺麗にするには、ゴミを捨てないことが一番です。また、川や海でのゴミ拾いも良いかと思っています。

「まあ、いいか。」

その気持ち一つで地球がどんどん汚れていくのだと思います。何げない小さな活動でも地球を救えるので良いと思います。

「市民憲章について」

福島市立松陵中学校

佐藤 悠姫

私は、夏休みに先生から配られたプリントで、初めて意識して、福島市民憲章を読みました。これまで私は、市民憲章を、ふとした時に目にしてきました。例えば、学校の昇降口や公園など、思い返せば様々なところで沢山目にしています。ですが、意識して考えて読んだことは、初めてでした。市民憲章を読み、二つの事が心に残りました。

一つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。子どもとお年寄りをいたわることや、人に明るく優しい態度で接することが具体的に書かれている中、その内の一つに私は引きつけられました。『だれにでもできる親切を自分から進んで実行しましょう』です。誰にでもできる親切、とは何か私は考えてみました。子どもからお年寄りまで、少しの善意で出来るこ

と。私は、あいさつがそうだと思います。あいさつだけでなく、日々のちょっとした声かけが、相手のことを思いやり、優しくすることにつながると思います。例えば、人に何かしてもらったとき、私は助かりました、と感謝の気持ちを込め、

「ありがとうございます」

と、言います。言う相手は友達や親、先生など色々ですが、言うとき笑顔になり、心が温かくなります。例えば、通学するとき、

「おはようございます。」

と、声をかけます。すると、

「おはよう、いつてらっしゃい。」

と作業の手を止め、笑顔で返してくれます。あいさつを交わすと、今日も頑張ろうと思うことが出来ます。少しの声かけは、誰でも、そして自分から進んでやる事が出来ます。最初の頃は自分からすることは難しいかもしれませんが、ですが、続けるとそれが当たり前になり、地域全体が明るくなると思います。

二つ目は、全て文末が「～ましょう」と、結ばれているところです。私はこれを見て、福島市民憲章は、今よりもいい福島市にするための、一人ひとりの目標なのだと、感じました。住みよく、誰もが安心して暮らせるように出来ること、それが市民憲章なのだと、思います。『さらに住みよく、希望にみちた町をつくるために出来ること』と考えると、難しく思い付きません。ですが、市民憲章には具体的に、私達が出来ることがあります。

私はこれまで、市民憲章について考えたことはありませんでした。ですが、改めて読んでみると、大切なことが沢山ありました。一見すると、難しそうなのばかりですが、実際は当たり前出来る簡単なことばかりでした。私は、これから自分がほこりを持って、

「福島が好きだ」

と、言えるような、平和で明るく住みよい、そんな市にしていけるよう、当たり前のことからしっかり出来る人間に、なりたいです。

「安全で住みやすいまち」

福島市立松陵中学校

星 眞緒

福島市は、私にとって「住みやすいまち」です。そんな住みやすいまちをもっと知ってもらえるようにするにはどうすればいいでしょうか。

一つ目は、交通ルールを守ることです。交通ルールを守るのが普通ですが、それを守らない人がたくさんいるようです。例をあげてみるとたくさん出てきます。「信号無視」、「自転車の右側通行」、「飲酒運転」など車はもちろん自転車もルールを守らないてはいけません。安全なまちに少しでも近づいていけるよう私自身もしっかり交通ルールを守りたいと思います。

二つ目は、歩行者側のルールです。車や自転車だけがいくらルールを守っていても、歩行者が守らなければ意味がありません。最近では、「ながらスマホをしていたら事故にあった」というニュースを見かける

ようになり、このような事故が少なくなるようにお互いにルールを守ってほしいと思います。歩行者のルールは、「ながらスマホをしない」、「横に広がって歩かない」、「イヤホンをしてながら歩かない」などルールを守めることは簡単なのでしっかり守りたいです。

事故から、子供やおとしよりを守るにはどうすればいいか。交通ルールを守っていても事故が起きてしまうのが現実です。でも、子供やおとしよりを守る方法があれば少しでも命を落とす人々が減ると思います。そのためには子供やおとしよりの方々も覚えておかなくてはいけないことがあります。地域で事故が起こりやすいところや、事故の危険性が高い場所を覚えておかなくてはいけません。ただ覚えるのではなく、「〇〇は何が危険」や「〇〇はこういうことが起きやすい」などその地域の危険なところ〇〇〇〇が起きやすいという感じで覚えることも、とても大切だと思います。

でも、そんなにくわしく覚えることが苦手な人もいます。そんな時はまちのハザードマップが有効です。ハザードマップには

自分の住んでいる地域の地図の中に、ここは何が危険などたくさん書いてあるものです。これなら家にはっておいて常に見ることが出来ます。事故を起こさないことが一番ですが、事故は起きてしまいます。だからこそ予想をし、皆に知らせることが必要なのではないでしょうか。

これらのことを十分に理解し、安全で住みやすいまちを実現すると共に一人一人が住みやすいまち、安全なまちをつくるためには、どのようなことが必要なのか意識して過ごしていくことが大切だと思います。

「地域での見守り」

福島市立松陵中学校

宮崎 果穂

福島市の市民憲章の中に親切で愛情あふれるまちをつくりましょうという一文があります。その中にだれにでもできる親切を自分から進んで実行しましょうと書いてあります。

私達の住む松川町美郷地区では認知症SOS模擬訓練を取り組み始めて今年で五年目になります。認知症のお年寄りが徘徊して帰る家が分からなくなったり、行き先が分からなくなったりしてもちゃんと家に帰れたり、行き先に行けたり精神的にも不安にならずに町を歩けるように地域の人達が声をかけあうための訓練が認知症SOS模擬訓練です。また、小さな子供達から高齢者までが参加するので世代間の交流にもなっています。

子供達や大人達が認知症に対する知識を深めるために、認知症サポーター養成講座

を開催されています。私は小学校六年生の頃に認知症サポーター養成講座を受けました。この講座を受けて、認知症が病気であること、だれでも認知症になる可能性があることなどを学びました。認知症になって不安なことや心配なことがあったとしても、周りの人や家族が優しくサポートしてくれば安心して暮らしていけると思います。

認知症SOS模擬訓練を行うことで、地域の人が認知症かもしれない人に優しく声をかけてあげたり案内してあげたりすることで安心して歩ける町ができるのだと思います。

私は、今まで町の人に積極的にあいさつをするように心がけていましたが、知らない人やお年寄りに積極的に天気良いですねなど声をかけたことはありませんでした。よく登校中などによく見かける人には声をかけてみたいと思います。

町の人達が声をかけ合うことで顔見知りが増えると思います。小さい頃から知らない人に話しかけられたら逃げなさいと言われていますが、顔見知りがたくさんいれば

心配も減ると思います。

子供でも大人でも年をとっても、認知症になってもお互いに声をかけ合い安心して暮らせる町が素敵だと思います。

私は、これからも元気にあいさつしていきたいです。そして今年も、認知症SOS模擬訓練に親と参加していろいろ学んできたいと思います。また、参加することを知り合いがたくさん増えればいいなと思います。

「親切で愛情あふれる町にしたい」

福島市立松陵中学校

柴田 佳蓮

私は今回初めて学校で「福島市民憲章」というものがあることを教わりました。福島市民すべての幸せと、郷土福島の限りない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして昭和四十八年四月に制定されたそうです。

市民憲章の五つの条文の中で私がいいと思った内容は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」の二つです。

小学校の時、下校時に地域の見守り隊のおじいちゃんやおばあちゃんのおかげで安全に通学することが出来ました。特に地元の子供会では、毎年三月末に地域の見守り隊の方と子供会のメンバーでの顔合わせ会が開かれ、お互いに自己紹介をすることが

恒例となっています。お互いに顔と名前がわかればあいさつも自然とできるし、本当のおじいちゃんやおばあちゃんのようにいろいろな話を聞いてもらえるとと思うからです。

私の住む金谷川地区は、年々子供たちが減少しています。地域のために、自分の時間を使ってわざわざ見守り活動をしているおじいちゃんやおばあちゃんの親切な気持ちがとてもありがたいと感じます。また、お互い顔が見える関係はとても大切であるとも感じました。今後も見守り活動を続けて行っていただけのおじいちゃんおばあちゃんには、小学生を卒業した私としては、会ったら元氣にあいさつをして、感謝の気持ちを伝えていけたらと思います。

また、見守り隊のおじいちゃんが、道路に捨てられたゴミを拾っている姿をよく見かけました。私も手伝って拾った事もありましたが、きれいにしても数日過ぎると同じ場所にまたゴミが捨ててあり、とてもがっかりしました。

地域の人がいくらゴミを拾っても、ポイ捨てされるゴミが無くならないのは良くない

ことです。市民憲章に「空も水もきれいなまじりのまちをつくりましょう」という条文があります。条文どおりの空も水もきれいなまじりのまちにするには、ゴミのポイ捨てのないまちづくりが必要だと思います。

私は、ポイ捨てを簡単にする人が、そのゴミを拾っている見守り隊のおじいちゃんや私達に気づいてもらうことで、自分の意志でポイ捨てをやめてもらえればいいと考えています。そのためには、この市民憲章をポスターなどでもっと広めていただき、きれいにしている人達のことを知ってもらえればと思います。

私も福島市民の一員として、この市民憲章がもっと広がっていくように、身近なところで地元の人たちといっしょに金谷川を良くしていきたいと思っています。

「福島市の地域交流活動について」

福島市立松陵中学校

鈴木 彩乃

私は、福島市民憲章作文の五つのテーマの中から、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくる」というテーマを選びました。選んだ理由は、私の中学校で、「地域交流活動」という課外活動で、お年寄りの方とゲートボールやハンドマッサーなど触れ合う機会があり、私はその中で足湯とハンドマッサーを行いました。最初は、一緒のクラスの人や先ばい方とチャシを配ったりして呼びかけましたが、なかなか来てくれず、終わりの時間に近づいてきて、片付けの準備をしたその時に、たくさんのお年寄りの方が来てくれました。私は、一人のおばあちゃんの足湯とハンドマッサーをやり、私は、「お湯、熱くないですか。」と、少し緊張しながら会話をすると、おばあちゃんが笑顔で、

「全然大丈夫だよ。」

と言ってくれて、少しずつ緊張がほぐれてきました。最後には、

「気持ち良かったよ。ありがとうね。」

と言ってくれてとても嬉しくなりました。早速、家に帰ってから私のおばあちゃんに、ハンドマッサーをしました。おばあちゃんが

「手がスツキリしたよ。ありがとう。」

と言われ、私はいつもお世話になっていたと、一緒に暮らしていてやってあげる機会があまりなかったと、とてもいい体験をすることが出来て良かったなと思いました。

母親が保育士の仕事についていることもあり、自分よりも小さい子に興味があり、やさしく接してあげようと、それに気をつけながら、日頃の生活を送っています。私には、兄弟がいないので、近所に住む子に、自分から進んであいさつをしたり、触れ合うようにしています。そして、町内会の夏祭りや、秋祭りなどたくさんの子ども達が参加するイベントには、自分から積極的に参加し、今まで地域の方々にお世話になっ

てきたので、中学生としての自覚を持ち、今まで以上に子ども達が、楽しく、笑顔が増えるように接していけるといいなと思います。そして、この思いや考えは、自分一人ではなかなか出来ることではないので、普段の生活の中から友達や家族と話をし、協力しながらこの大切な思いを共通出来るようにしていきたいと思います。お年寄りの方にも、困っていたりしたら自分から声をかけて、少しでも笑顔になつてもらえたらなと思います。

私は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくる」ということを忘れず、お年寄りの方には、恥ずかしがらず、声をかけた人、声をかけられた人も心はうれしく、温かくなるのでこれから続けていきたいです。子ども達には、みんな元気なので、それに負けず大きな声であいさつをしたり、触れ合うようにしていきたいと思っています。

「私たちの町を笑顔あふれる

町にしよう」

福島市立松陵中学校

柳 沼 陽 羽

私がこのタイトルにしようと思ったのは、あるきっかけがあったからです。私の町松川は、田舎ですが小中学生の活動で、カルタが日本一になっており「地域交流活動」という活動で、松川が変化していつているのです。その中でも私がすごいと思ったのは、「地域交流活動」です。地域交流活動はどういうことをするかというと、老人ホームに行ってお年寄りの人と交流を深めたり、松川をきれいにしたり、あいさつ運動ということをしたりします。私は小学六年あたりから交流活動を行っていました。五年までは全然分かりませんでした。最初に参加したときは、中学生と一緒に行ったので、とてもきん張して、あまり話も出来ず、活動や行動も上手いきませんでした。その時は

「これから上手く自分で出来るのかな。」

などとも思いました。そして中学生になり、私はJRC委員会という委員会に入りました。JRC委員会では老人ホームに行き、歌を歌い、折り紙をし、清掃もしました。

最初は話しづらかったけどだんだんと、話が上手くつながってきました。それと同時に楽しくなってきた、お年寄りたちも話してくれて喜んでいました。そういう交流をすることによって、みんなも元気になりました。町全体も明るい地域になると私はそう思いました。これからはもつとちがう地域の方々とちがう交流活動をし、花を植えるなどをしたいです。今の私たちのような人は昔の人とは違い、全てが機械化し、手作業のことが分からないのでそういう人たちに教わり、いろんなことを身につけることも、地域の交流になるとそう思いました。それには、私たちも大人任せにしないで、学校の中でもちゃんと自分たちで話し合

「どんな風にすれば松川は、よい町になるのか。」

と考えそして私たちの意見をまとめ、それから大人と私たち子どもと一緒に話し合

をすることも大切だと思います。そうすることによって、町全体一丸となり、笑顔がたえない町になることは確かだと考えました。それには私自身本人もはずかしがらず積極的に前に出ることです。私たちの松陵中学校の目標である、「気づき」「考え」「実行する」がこのとき、役に立つかもしれない。この目標を役立たせれば、大人の人、私たちも協力し合いもつとよい町になり、結果的には、有名な町にして、松川の良いところをいっぱい知ってほしいというのが私自身はもちろん町の人たちの目標でもあるし、とても大きな願いだと私はそう思っています。なのでこれから、こういう活動を行うことも大切であり、もしも話し合いでもめても、折り合いをつけることも大切だと私はそう考えています。

「清きあたたかい福島」

福島市立信夫中学校

末 永 柚芽花

毎朝見るあの城山。城山は、四季折々、姿を変えている。春はピンク、夏は緑、秋はオレンジや茶色、冬は白。そんなすばらしい自然が見れるのは、福島市民憲章の、「空も水もきれいなみどりのまち」があるからだと思う。

ある人がこう言った。

「福島の果物はやっぱりおいしい。」

この人は、茨城と福島を行き来している。福島にもどってきたとき、そう感じるそう。福島には、すばらしい自然が生んだ澄んだ水がある。そして、環境も整っているため、とてもみずみずしくおいしい果物ができるのだ。また、福島の自然は、全国で認められているといっても過言ではないだろう。なぜなら、福島にある五色沼が二〇一六年にミシュラン・グリーンガイド一つ星に認定されたからだ。五色沼は、沼

によって色が違う不思議な場所で「神秘の湖沼」と言われる。これらは全て自然が作り出したものだ。天候や季節、見る角度、水中に含まれる火山性物質などによって、いろいろな色に見えと言われている。また、六月ごろは新緑、十月半ばから十一月上旬には紅葉とともに楽しむことができる。そして雪解け後の春は、特に美しい湖沼の色を見せる。

こんな美しい自然は福島だけだ。私は、これからもこの美しい自然を残していかなければならないと思う。私たちの世代が次の世代へ伝えていかなければならないものである。

福島市民憲章に「親切で愛情あふれるまち」という憲章がある。そこには、「三、ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接しましょう。」とかかかれている。私は、これを見てふだんから声をかけてくださっている近所のお年寄りの方が頭に浮かんできた。その方たちは、いつも笑顔で、「こんにちは」、「こんばんは」、「おかえり」、「いってらっしゃい」と声をかけてくださる。このことがあたり前のように感じていたから分

からなかったのかもしれない。福島はなんていいところなんだ、なんてあたたかい場所なんだ。しみじみとそう思う。それから私は、これまで以上に元気に笑顔であいさつを返すようにしている。愛情あふれるまちはまさに、こういうことだ。

福島の清き美しい自然。そして、福島の人のあたたかさ。学ぶ場所。子どもが安心できる場所。お年寄りがいきいきとできる場所。それらは全て、福島だからできること。私は、こんなすばらしいまちに産まれてきたことに感謝し、中学生の私が、福島のために今できることをしていきたいと思う。これからも、福島の自然と、あたたかい周りの方々といっしょに、成長していきたい。

「希望を描く福島の良い自然」

福島市立信夫中学校

菊池 美 宥

見上げると青空が広がり、春にはピンク色、夏にはさわやかな緑、そして秋には赤や黄色の美しい四季の色で包まれている福島市。福島市民憲章の一つの「空も水もきれいなみどりのまち」は毎日肌で感じています。私達の住む福島市はみどり豊かな信夫山、清らかな流れの阿武隈川をはじめ、多くの自然がありとても幸せを感じます。

二〇一一年三月十一日。それを一変させる出来事が起こりました。東日本大震災です。当時五歳だった私は、今までで一番とんでもない程の衝撃を受けました。自然豊かだったはずの福島が目の前から消えてしまいました。それと同時に、笑顔も消えてしまいました。その風景は、今思うと「空も水もきれいなみどりのまち」とは考えられないほどでした。

当時の私はただただ怖く、自分自身の心

配しかしていませんでした。けれど、世の中の人たちの行動は違いました。「空も水もきれいなみどりのまち」の福島市をとりもどそうと、復興に向けて自分ができることを探し、実行していました。その素晴らしいさに感動した事を覚えています。その経験から自然は私達が思っている以上に大切にしなければいけないと心から実感しました。そして、みどりだけでなく、河川の水も清らかになり、七年たった今では震災前のような「空も水もきれいなみどりのまち」をとりもどしつつあります。復興は決して簡単なことではなく、そう簡単に失われたものを取り戻すことはできません。この大震災によって亡くなってしまった方もいます。もう取り戻すことができないものもあります。そんな時私は、

「みどりだ！」

そう思いつきました。あの日、みどりの町が失われてみんなの笑顔が失われてしまいました。みどりは取り戻すことができます。みどりのまちを取り戻せば、少しでも不安をとり除き、笑顔がまた広がるのではないかと、そう考えることができました。

この出来事により、改めて「空も水もきれいなみどりのまち」の大切さを知ることができました。代々守り継がれてきた自然が美しい福島市を今度は私達が、自然の大切さを伝えていくと共に、守っていきたいと思います。

「市民憲章と音楽堂の『心』」

福島市立信夫中学校

中村 響

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」という市民憲章を見ると、いつも音楽堂を思い出します。

一番印象に残っているのは、中学校の地区音楽祭での発表です。吹奏楽部はこの日に向けて、たくさん練習を重ねてきました。

一音目を出した瞬間、音の響きがとても良く、最後の音まで残響が残っていたのがとても心に残っています。

僕は、小学生の時からこの音楽祭に出ていて、音楽堂には何回か行ったことがありますが、今回の音楽祭で改めて「音楽堂って、すごい建物だな」と感じました。

音楽堂は、あまり見たことのないような独特の形をしています。壁のタイルがとても神秘的で、天井の高さも、音が響きやすく、開放的な雰囲気を生み出しています。

また、音楽堂にはパイプオルガンがあり、その音が鳴り響くと、まるで教会にいるような気分にはさせられます。

僕は小学生の時、パイプオルガンのワークシヨップに参加したことがあります。最初にパイプオルガンの演奏がありました。その音はまるで天井から降り注ぐようで、自分の心が神聖な気持ちになったのを覚えています。

あとで聞いてみると、ホールの壁、椅子、床など、すべて音楽が良く響くように設計されているとのことでした。また、パイプオルガンもとても貴重なデンマーク製のものだそうです。

音楽堂は、こんなに設備にこだわっているけれど、一般の人が気軽にコンサートを開いたり、中学生が定期演奏会を行ったりするなど、市民にとって音楽に親しくふれあえる場所ともなっています。

そこが市民憲章の「教育と文化を尊ぶ」という言葉と結びついていると思うのです。

音楽って近寄りがたいように思う人もいるかもしれませんが、でも僕は、そんなこと

はなく、普通のものだと思います。例えば、コマースヤルにモーツァルトの曲が使われていたり、音楽をテーマにした漫画がたくさん描かれたりしています。

確かに私たちは音楽がなくても生きていきます。でも、音楽によって元気になったり、楽しい気持ちになったりします。

そして福島市に音楽堂があることで、私たちは演奏を聴いたり、演奏したりすることができ、そこに来ている人たちと豊かな時間を共有することが出来ます。それは、「希望に輝くまち」をつくることにつながるのではないのでしょうか。

音楽堂はみんなと「心」を共有し、「心」を育てる場所だと感じています。

ここで感じたことを、聴いてくれる人たちの「心」に届けられるよう、これからも音楽と関わっていききたいと思います。

「気にかけていなかった

大切なこと」

福島市立信夫中学校

松本 みのり

私は福島市民憲章のことをあまり意識せずにごしてきました。そんな日々を振り返ってみると、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という項目にあてはまる行動をいつも近くで見ていたんだと思いました。

それは小学校の頃、登下校の時にいろんな場所に立っていた見守り隊の方達です。いつも、

「おはよう。気をつけてね。」「おかえり。」など優しく声をかけてもらったので、毎日誰かとあいさつをするのが楽しみになっていきました。私は人見知りでいつも下を見てばかりいました。でも見守り隊の方のあいさつのおかげで少しずつ前を向けるようになりいまでは自分からあいさつをするように心がけています。それに、あいさつを

したりされたりするとなんだか心があたたかくなるような気がするのでひとりじゃないんだと思うことができます。

三月十一日の出来事は誰もの心に傷をつくったと思う。家を失ったりよく見知った風景が変わってしまい戸惑った人もたくさんいるでしょう。でもそんな時でもいや、そんな時だからこそいつも通りあいさつをすればいくら建物や風景が変わってしまっても人は変わらないのだと思うことができます。

いつも何気なくしているあいさつでも、あの日のような時には大切な事なのだと気付かされる。だから、日頃からあいさつをしていけば「親切で愛情あふれるまち」になつていくと思います。

「親切と愛情」

福島市立信夫中学校

黒澤 菜月

私は、「親切で愛情あふれるまち」ということについて考えました。私は学校へ行くとき、地域の方などに笑顔で

「いつてらっしゃい。」

と言っていたことがたくさんあります。見守り隊のおじいさんは、安全に道路をわたれるよう旗を持って横断歩道に毎日立っていてくださいます。地域の方とあいさつをするだけでも愛情があふれる町になると思います。私は愛情があふれるまちになることが親切なまちになることにつながるのではないかと思います。私は学校で困っているときなどに友達に助けてもらったことがたくさんあります。友達に親切にしてもらうと、とてもよい気持ちになります。人に親切にすることは、親切にした人も、してもらった人も良い気持ちになります。地域の中でもたくさんの人たちがお互

いに親切にすればよりたくさんの人が笑顔になると思います。

でも、私は困っている人がいても、その人が知らない人だと助ける勇気が出ずに見て見ぬふりをしてしまうことがあります。そのとき他の人たちが助けているのを見て自分もそんな人たちみたいになりたいと思いました。

私が小学生のとき、冬で雪がたくさん積もっていました。その時、一台の車が雪で動けなくなっていました。そしたら近くにいた車の中から人がおりてきて、雪かきで、うごけなくなってしまった車のまわりの雪をかいて、一生懸命車をおしていました。私はそのとき全然知らない人なのに助けてあげられるのがとても親切な人だなと思いました。

福島市のテレビ番組のインタビューを見ていたとき、

「福島市の良いところはどこだと思いますか。」

と言う質問に対して多くの人が、地域の人がみんなやさしいことなどを言っていたのが、とても印象的でした。福島市はすごく

親切なまちだということを実感しました。

私は、福島市は親切な人たちがたくさんいる愛情にあふれたまちだと思います。福島市がもっと良いまちになるように私も、どんな人にも親切に愛情を持って接したいです。そして、まち全体で毎日明るく、笑顔の人が、もっともっと増えたらいいなと思います。この福島市でたくさんの方の親切な友達や地域の人に出会うことができると私はとても幸せだなと思いました。

「福島 naturally」

福島市立信夫中学校

佐藤 由唯

私は、福島の自然が大好きです。花見山の四季折々に見られる花もきれいで、大好きです。また、道ばたに咲いている、小さな花も大好きです。そんな花達は、時に、私を元気にしてくれたり、勇気を出させてくれたり、いやしてくれたりします。

これは、東日本大震災の何日後かのことを母に教えてもらった話です。

その日は、私が病院に行くために、久しぶりに外に出ました。しかし、外を歩く時は、あらゆる所に放射性物質が付いているからという理由で、母に手を引かれ、早足で歩いていました。その時、私は、こう言っていました。そうです。

「わあ。きれいなお花。春になったら、もつといっぱい咲くのかなあ。」

この言葉に母は救われたそうです。母は、震災のことで、頭がいっぱいになっていて、

花に気が付かなかったそうです。しかし、私の声で花に気が付き、アスファルトのすき間から、力強く生えている花に元気づけられたそうです。そのおかげで、前に進むことが出来たそうです。

こんな風に、母以外にも、花に元気づけられ、前に進むことができた人がいるかもしれない。私も、福島の花のおかげで前に進めたことが何度もあります。私にとつて福島の自然は、とても大切なものです。なので、この福島の自然を、これからも福島の人みんなで守っていききたいと思います。そのために、これからの福島市のゴミのポイ捨てを無くしていくことが、とても大切なことだと思います。そのために私は、外に出かけたら、ちゃんとゴミを持ち帰ることに、ゴミをちゃんと分別することなどを心がけていきたいです。一人一人がこのようなことを続けていけば、今よりも、もっときれいな町になると思います。そして、福島の自然が、みんなに、笑顔と優しさを与えていくと信じています。

「こんな福島市に」

福島市立野田中学校

佐藤 心風

私は、国語の時間に初めて、福島市民憲章について知りました。そして、この福島市民憲章の五つの中から一つ、あの時の私を思い出させてくれるものがありました。それは、親切で愛情あふれるまちをつくりましょうです。

ある夏の日、学校を下校し、家の前まできたときです。家のかぎが開いてなく、周りに数匹ものハチが飛んでいたのです。どうしようもなくなった私は、あと二時間後に帰ってくるお母さんを待つことにしました。ですが家の周辺で待っていると、ハチにさされてしまうかもしれないと思い、少し家から離れた所をうろうろしていました。と中、怖くなってしゃがんだりもしました。本当に、忘れられないぐらい怖かったです。そして、どうしようもなくなったら、私に、声をかけてくださった方がいました。

その方は、私の家の近くにある施設のようなどころから、帰ろうとしていたそうです。その時、うろうろして困っていた私に気づいたのです。

「どうしたの。何か困っているの。」

と、優しく声をかけてくれました。その声を聞いただけで、私は救われ、もう大丈夫だと思えることができました。そして、お母さんに電話をし、早く帰ってきてもらいました。あの時、あの方が声をかけてくださらなかったら、あのまま恐怖の中で、震えていたことでしょう。本当にあの方には感謝しています。親切に接することができる人は素敵だなと思います。

今回、この作文を書き、改めて親切にすること、されることっていいなと思いました。親切とは、相手に対して、やさしい心や態度で接するということをもっています。親切にした方は、「いいことしたな。」と、とてもいい気分になり、親切にしてもらった方も、とてもうれしい気持ちになります。親切にして、されて、悪いこと、いやな気持ちになることは、ありません。

私は、今後福島市に、今回私を助けてく

ださった方のように親切を自分から進んで実行できる人が増えたらいいなと思います。今回この作文では、親切のことについてしか書きませんでしたが、愛情も福島市民全員が幸せに生きていくうえで、とても大切なものだと思います。子どもやおとしよりをいたわる。だれにでもできる親切を自ら進んで実行。ひとはいつも明るく、やさしい態度で接する。これから福島市民全員で、全員が住みやすい福島市をつくっていきましょう。

「愛情にあふれる私のまち」

福島市立野田中学校

泰 楽 茉 奈

私は、福島市民憲章の一つである「親切で愛情あふれるまち」について考えました。考えた結果、私の心の中で大きな存在として残っている「ある経験」と結びつきました。その「ある経験」とは、私がまだ四才だったときのことです。私は当時、母親と出かける準備をしていました。母親は、祖母と家事をやっていたため、準備が遅く私は待ちきれなかったので先に玄関に出て待っていましたと考えました。当時私は四才だったためドアが重く、やつとの思いでドアを開けました。すると、そのせいか外へ出た瞬間、体勢をくずし勢いよく後ろへたおれ、頭を打ちました。私の悲鳴と、泣き声が入り混じった声を聞いた通りかかった人は私をだき起こし、「だいじょうぶ？」と不安そうな表情を浮かべ、心配をしてくれました。私はその人のことを全く知りませんでした。

した。しかし、相手はまるで我が子のように心配をしてくれました。数十秒後、母親と父親が出てきて私をだき取り、急いで病院へ向かいました。病院へ向かう車の中で家族がしきりに心配してくれたことをよく覚えています。私の頭のけがは幸い二針ぬう程度で済みました。病院から帰ってくると、私を我が子のように心配してくれたあの人がいました。その人は、私の無事な姿を見て、安心したような表情を浮かべていました。その時、私はうれしい気持ちで胸がいっぱいになりました。けがをしたときは、「もう外へ出たくない。」という外へ対するきょうふをいっていました。外にはこんな私を心配してくれる人がいると気づき、外へ対するきょうふが消えてきました。もちろん家族も私のことをものすごく心配してくれていたもので、とてもうれしかったです。私は頭のけがが治るまで幼稚園に行けませんでした。幼稚園の友達が書いてくれたよせ書きが送られてきたり、近くの住民や親せきが何度か見まいに来てくれました。約一ヶ月後、私のケガは完治し、幼稚園へ通うことができました。幼稚園

園でも先生方や友達は、私のケガを心配してくれました。このこと以外でも、この町の人は、誰にでも優しく親切に接しています。ある時、階段を上るときに困っている高齢者の方がいました。私は声をかけることを躊躇しましたが、私より少し年上の人には躊躇することもなく声をかけていました。私もいつかそんな人になれるように、がんばりたいと思います。

このような経験などから、人の持つ優しい心やこのまちにあふれる愛情のことなどが、分かりました。私も「親切で愛情あふれるまち」を目指して一歩ずつ目標に向かって進んで行きたいと思っています。また、この目標がまち全体に広がり一人一人が常に意識して生活をすれば、この福島市はもっと良くなると私は考えます。

「市民として」

福島市立野田中学校

金 田 明 純

私は、福島市民憲章を初めて知りました。五つの市民憲章を見て、毎日の通学路を思い出しました。

私の通学路には、交通安全のおじさんが立っています。私たちの安全のために、立ってくれています。雨の日も、風が強い日でも、笑顔で立っていてくれる、すてきなおじさんです。「おはよう」「いつてらっしゃい」「気をつけてね」、いつも声をかけてくれて、私の心にも笑顔が生まれます。あたりまえに立って、見守ってくれているおじさんがいてくれるおかげで、安全に過ごせているんだなと思いました。

私の住んでいる福島に、このようなすてきな人がたくさんいるということに、改めて気づき、改めて考えることができました。そのような体験は、福島市民憲章に当てはまることだと思います。「親切で愛情あ

ふれるまち」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」、誰かのために行動し、思いやりのあるまちが福島だと思います。

また、この福島がもっとすてきなまちにするという意識も必要だと思います。

私の通学路には、車の通りが多く、歩道がとてもせまい道があります。近くには大きな会社や、小学校の通学路でもあるので、朝はとくに混雑していることが多いです。自転車通学の私は、車に気をつけながら、歩道から少し出て行っています。そして、この歩道には家庭のゴミを集めることになっているので、歩道が歩けなくなるほどのゴミがたまっていることがあります。ゴミが多くなり、道に出ていることがあります。とても危なく、たくさんの人が困ってしまふことだと思います。改めて、みんなで考えることも必要だと感じました。このようなことを少なくするには、福島市民として、市民憲章をよく知って、意識することが大切だと思います。「空も水もきれいなみどりのまち」「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」、地域が一体となつて、一人一人が快適に住むことがで

きるまちにしていきたいです。自分にもできることを自分から進んでできるようにしたいと思います。

私は、福島市民として、市民憲章を大切にしていきたいです。そして、一人一人が心を合わせ、お互いが住みやすいまちにしていくという気持ちをもつて過ごすことも大切だと思います。すてきな福島で、これからも市民としての思いやりの気持ちを持って過ごしていきます。

「優しさあふれるまち、ふくしま」

福島市立野田中学校

伊藤 凱

僕は近所に、たまにジョギングしにいきます。人とすれ違った時、自分がいさつしたり、相手の方があいさつしてくださったりします。一言だけの会話だけれど、その度僕は、なぜか心がうれしくなります。「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」福島市民憲章の一つです。昭和四十八年四月に制定されたこの福島市民憲章は、福島のさらなる発展のためにつくられました。福島の良さといったら、みんなが優しいこと、とパツと思うかべられるのも、福島市民憲章があるからこそなのかもしれません。

例えば、家族とデパートに行ったとき、少し目をはなしたときに、弟がいなくなつた事がありました。どこをさがしても見つからず、すぐくあせっていたその時、「あっちに泣いていたお子さんがいまし

たよ。」

と母に声をかけてくださった方がいました。お陰で無事に見つかりました。弟はワンワン泣いていましたが、僕もそれくらいこわかったです。もしかしたら、ゆうかいされたのかな、と思いたくなくても思ってしまった。「人の優しさ」というものに、本当に助けられました。今、こうして振り返ると、これが福島の人の温かさなのかな、と感じます。

電車やバスに乗っている時、おとしよりの方に席をゆずるといふ事も、よく見かけます。僕は、この福島市民憲章を最近になって知りました。それまでは、このようなものがあるという事を、全く知りませんでした。多分、制定時は、たくさんの方がそれを守って町づくりをしよう、という考えで、大多数が知っていたと思います。しかし今では、僕のように、最近はじめて知った方、まだ知らない方も、少なからずいらっしゃると思います。そうでありながらも、今の福島が「親切で愛情あふれるまち」なのは、昔の方々がそんな町を、協力してつくりあげてきたからであり、それが何代にも

わたって受けつがれているからだと感じました。先述したような、優しさのある、親切な行動をしていただけたのも、今の優しさにあふれる福島があるのも、それだけが全て、ではないものの、その中の一つとして、昔の皆さんの功績が今へとつながっているという事はとてもありがたい事だなど思いました。

福島市民憲章の中で、僕が今回目につけた「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」の項目は、その他全てに共通する重要な点であると共に、町作りとしての出発点であると思います。今の福島には、もちろん改善点もあると思いますが、それ以上に良い所が輝いている町であると確信しています。福島市民憲章はこれからの、未来の福島のために、必要不可欠であると思いました。たくさんの方に伝え、この福島を守っていききたいと思います。

「毎日の生活での意義」

福島市立吾妻中学校

梅 津 妃 菜

私は山と一緒に空などのきれいな風景をながめるのが好きです。いっぱいに見える緑と青く広がる空でとってもきれいです。このきれいな風景を守れているのは、福島市民憲章があつてからこそ景色だと思います。この私の好きな景色を壊さないように自分でできる行動を考えて実行していきたいです。好きな景色を壊す側にならないように注意していきたいです。

他にも地域や学校でのあいさつで、たくさんの方があいさつを返してくれたり、意識していない時でもすれ違う時に相手からあいさつが返ってくると嬉しくなります。おとしよりの方もよくあいさつを返してくれます。おとしよりに限らずまだ小さい子供の子でもあいさつを返してくれて、元気な感じが伝わってきて、私も元気になります。

外を歩いているだけでも、きれいな景色

てほしいです。

が見れて、あいさつも返ってくるので、楽しく外を歩けるので、福島が私は大好きです。

福島市民憲章をたくさんの人に知ってもらえるとよりよい福島になっていくのかなと思います。自然についても、空や水、木などの私の好きなものを守れて、自然、景色が守れるので、きれいなまちをつくれるのいいと思いました。

親切で愛情があふれるまちになると、犯罪や、いじめが少なくなるのかなと思います。愛であふれるまちを作れるように優しさであふれるように、一人一人の意識が大切だなと思います。

疲れていてもイライラがたまつて、楽しくない日々が続いたりしても、楽しく働けなくなってしまうので、そこもしっかり考えてよりよいまちを作れていたらなと思います。

これから福島市民憲章をもっとによりよい福島をきずけるように、毎日の生活にも意識しながら生活していきたいです。愛と笑顔があふれる福島がずっと続い

「気持ちの良い町づくり」

福島市立吾妻中学校

多田彩花

私は四つ考えがあります。

一つ目は、「親切な町」をつくることです。
例えば、困っている人がいたら、

「他人だからいいや」

と、思うのではなく、優しく声をかけてあげることが大切だと思います。声をかけてあげること、困っていた人も少し楽な気持ちになるし、その後は、声をかけた方も、声をかけられた方もうれしい気持ちになると思います。

二つ目は、「きれいな環境の町」をつくることです。公園、道路、河川にごみのない町をつくりましょう。公園、河川に遊びに行つて、ゴミがでたら、自分で持ち帰りましょう。

また、みどりも大切にしましょう。大切にするので、みどりが広まり、笑顔が生まれると思います。

三つ目は、「ルールを守る町」をつくることです。公共施設などを利用するときには、ルールを守り、利用しましょう。ルールを守らない場合は、人に迷惑がかかってしまいます。ルールを守れば、他の人も気持ち良く利用できると思います。

また、ゴミを捨てるときには、曜日を守り捨てるようにしましょう。電車やバスに乗ったときにも、ルールを守り、他の人が気持ち良く利用できるようにしましょう。

四つ目は、「安全で事故のない町」をつくりましょう。自転車に乗ったとき、二人乗りやスマホをやりながらや、横に並んだりするのもしないようにしましょう。車に乗ったときには、信号無視はもちろん、片手運転や飲酒運転、居眠り運転などは、やめましょう。安全運転で走行しましょう。安全歩行で歩きましょう。信号が赤になりそうなきなどは、次の信号を待つようにしましょう。一つでもまちがったことをすると事故につながります。なので、交通ルールを守り、安全な走行、安全な歩行で事故を防ぎましょう。

この四つから分かることは、誰にでもや

さしくし、みどりを大切にきれいな環境にし、ルールを守り、事故のない町をつくることが大切だと思います。

私はこの作文を書いてみて、改めてもつと良い町をつくるにはどうすればいいか考えることができて、良かったです。自分から、できることは見つけて、より良い町をつくりたいです。

「愛情あふれる福島市」

福島市立吾妻中学校

梅 津 愛

私は、この作文を書くまで「福島市民憲章」を全く知りませんでした。今回この五つの憲章を読んで、当たり前のようにも守られていないことも多いなあと思いました。

一つ目は、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょうという憲章で、先日私は、友達と電車に乗って福島駅に行く時、電車の中の優先席で高校生ぐらいの人が座席に荷物を置いてスマートフォンをいじっているのを見ました。私はそれを見て、お年寄りや体の不自由な人が座る優先席なのに、座席に荷物を置いたら座れなくなるのでひどいなあと思いました。公共の乗り物や施設を利用する時は、自分のことばかりでなく周りをよく見て、みんなが気持ち良く利用できるようにきまりを守ることが大切だと思いました。

二つ目は、親切で愛情あふれるまちをつくりましょうという憲章で、私の家の周りには小さい子どももいます。以前小さい子どもが一人で道路を歩いていて、家が分からなくなつたようなので、近所の人達がみんなでその子の家を探してあげたことがありました。その話をお母さんから聞いた時、私の周りの人達はみんな優しくて温かい人達ばかりなんだなあと思いました。また、私が学校へ行く時もあいさつをすると、「おはよう、行つてらっしゃい。」

と、明るく返してくれるので、気持ち良く登校することが出来ます。いつも見守られているので、安心することが出来ます。私も困っている人やお年寄りを見かけたら、声をかけたり、親切な対応をして、愛情あふれるまちをつくっていききたいです。

三つ目は、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょうという憲章で、ゴミが道路に落ちてあつたことやテレビでウミガメの鼻にプラスチックのストローが入って苦しそうにしている映像を見ました。私は自分達が住む町なのにどうしてゴミをゴミ箱に捨てないんだろうと思いました。一人

一人が責任を持ってルールを守り生活することが大切だと感じました。ゴミの分別をしつかり行い、リサイクルできるものは決められた日にきちんと出したり、まだ使えそうなものは直して再利用することが環境に優しく、きれいなまちづくりにつながっていくと思います。

今回この福島市民憲章を知って、福島はこのようなまちを目指しているんだなあということを初めて分かりました。また、自分達にも出来ることがたくさんあるので積極的に取り組みたいと思いました。私達が大人になるころも、愛情あふれるきれいな福島市であつてほしいので、これからも努力してこのまちを協力し合つて守っていきたいです。

「地域の人の『おかえり』」

福島市立吾妻中学校

横 澤 和 音

私は、中一の夏休みの前に、初めて「福島市民憲章」という言葉を知りました。夏休みの宿題で出されたのがきっかけで、よく見たり、聞いたりするようになりました。その中でも、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という一文が私の身の周りと同じようなと思いました。

私が、下校をしている時、地域の方に

「こんにちは」

とあいさつをすると、いつも

「おかえり。おつかれ様。」

と、笑顔で返してくれます。小学生だった頃は地域の方の「おかえり」なんて気にした事はなかったけれど、中学生になって（どうして家族でもない人に「おかえり」って言ってくれるんだろう）と疑問をもつようになりました。

そこで私は、考えました。地域の方は、

家族と同じくらい子供の事を大切にしてくれているんだなと思いました。そして、（今日も無事に帰ってきてくれてありがとう）という気持ちをこめて

「おかえり」

と言ってくれるんだと思います。その言葉を聞くと、私は（明日もがんばろう）と見えるようになります。

また、私が骨折をして手にギプスを巻いているのを見て、

「手、どうしたの？大丈夫？」

と声をかけてくれた事もあります。本当に地域の方は親切でとても優しいです。そのような小さな事が「愛情あふれる福島市」につながっていくと思います。

福島市民憲章の中には地域の良さから良い福島市につながる言葉がまだあります。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という言葉は、「市民のみんなで協力してきれいな福島市にしよう」とも言えると思います。そのためには、地域みんなでクリーン活動を行うことが大切だと思い、それを実現することが大事だと思いました。そして、一人一人が自然のこ

とを考えて行動することが良い福島につながると 생각합니다。

私の住んでいる地域は愛情でいっぱいだと思います。そして、福島がもっと愛情あふれる市にするにはどうしたらいいのか考えるのが今の私達の課題です。そして、これから愛情であふれる福島を大切にした

「ぼくの、みんなのまち」

福島市立吾妻中学校

瀧川 慈音

福島市民憲章のテーマにある、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」を見て、ぼくは吾妻地区に住んでいるおとしよりの方々が、ふと頭に浮かんだ。その方々は、祖父の知り合い、祖母の知り合い、友達の家族、まったく知らなかった人などとそれぞれがう。そのため、その人がどんな人なのかも知らない。しかし、一つ分かることがある。それは、「このまちにいる人がみんないい人」と言う方だ。なので自分から進んであいさつが出来て、人と人のつながりが、深まる。ぼくたちが、友達と仲良くしゃべったり、あいさつしたりなどして、コミュニケーションをとる。それは、年が同じ、近いからではない。例えば年が六十、七十、中には、八十とちがう人もいる。しかし、年がはなれているからといって、なにもしなくていいわけがない。あい

さつなどと言ったことをして、より多くの人とコミュニケーションをとって、よりよいまちをみんなで作っていかねければならない。

この夏、部活に行く中などに、よくまちの人に会う。その時は、自分から進んで大きな声であいさつしています。小学校の頃の校長先生が、あいさつ日本一を目指していて、まちの人も元氣になり、より人と人との間でコミュニケーションが生まれ、このまちを少しでも盛り上げようということをしていたので、他の人に負けないようにがんばっています。それに、吾妻には東日本大震災の影響を受けて引っこして来た人も中にはいる。その人たちは、ぼくたちと同じで、放射能の被害に遭っていて、食べ物や飲み物に加えて外に出られなかったり、している人たちだ。もしかしたら、福島放射能を理由にいじめられたり、からかわれたりした人、家族を失った人もいるかもしれない。今も、その人たちの心に傷はある。だからこそ、ぼくたち一人一人が手を取り、助け合い、共に良いまちを作りあげて行き、安全にみんなが笑ってくら

せるように、若い人、おとしよりなどが、しっかりとコミュニケーションをとり合って安全で健康で平和なまちへするために、一歩一歩、歩んで行かなければならない。

このまちは、清く美しい。運動公園、学習センターなどいろいろなものに囲まれてくらしている。ぼくたちは、まだ中学生になつたばかりで、まだなれていないこともある。なので、自分のためにがんばり、人のためにがんばり、まちのためにみんな協力したい。ぼくは、もうすぐ行われる二〇二〇年度の東京オリンピックに向けて明るく元氣なまちで、選手たちをむかえたい。そのために、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」を作っていきたいと思います。

「僕らの町」

福島市立吾妻中学校

渡 邊 陽 生

僕は、福島市民憲章の一つ、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」を見て僕は思いました。教育と文化を尊び希望に輝くまちとはどのようなまちなのでしょう。普段こういうことを考えない僕でも考えてしまいました。小学校などを建築することなのか、また希望とはなんだろうと調べていた時、自分の今までのことを考えてみました。幼稚園に入っていたころや小学校、そして今の中学校にかよっている自分。全部が支えられて生きてきたと改めて思いました。学校の先生や親、いろいろな方々の人たちのおかげだと思いました。

そして僕は教育の意味を改めて実感した時に、もしたら文化はなんだろうと思いました。文化といえは祭りなどがうかびます。でも僕はあまり祭りなどへ行かないので、正直そこまで大切ではないのと思っています

しまうぐらいでした。でもそんなある日、祭りに行く機会がおとずれました。僕はしかたがなく祭りを見ていました。そうすると、意外と祭りは迫力のある感じで、僕はすぐくかつこいいと思って見ました。その他にもいろいろ食べ物を食べたりして、とてもまんきつしてました。僕は福島市の文化には、こんないい文化があるんだなと思いました。

そうして僕は、将来子どもに会ったりした時は、優しくしてあげようと思いましたし、この福島市の文化も大切にしてほしいと思いました。そうして僕は希望に輝くまちとはどのような町だろうと改めて思いました。希望というのはいろいろな意味がこめられていると思います。そこで僕は思いました。希望の一つは僕たち子どものことだと。僕達がこの福島市の文化や教育を将来しつかり行うことで、また新しい希望が生まれると思いました。

僕は実際この福島市という場所の良さがよく分かりませんでした。しかしこのように福島市民憲章を見て、たくさんさんの福島市の良さが僕は伝わりました。正直「空も水

もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という市民憲章は、福島市が日本一だと思いました。今はまだ先生方や親にたくさんめいわくや苦勞をかけるとは思いますが、こんなすばらしい場所はなかなかないと思うので、将来は、この福島市をいろいろな場所で支えられるような仕事につきたいと思いました。

「福島市民憲章についての考え」

福島市立吾妻中学校

米 田 偉 志

まちや職場や家庭を木や花のいっぱいある美しい環境にしようという考えには多くは賛成です。このように環境が美しくなるということはリラックスが出来るようになるという事はラックスが出来ることになりやすいかもしれません。そのようなことが出来れば、町の人達がきまりを守り、より安全な楽しい町になるのではないのかとぼくは思います。

この考えのように身の周りをきれいにするとすることは、他にも、家の周りや道路、公園、河川などのごみをなくし、きれいな環境にするという考えもぼくはとても良いと思います。ごみをなくすということは河川はきれいになり水の中に暮らす生き物も住みやすくなり、より安全で平和な町になるのかもしれない。

このように環境をきれいにするということは、広く自然を愛し、大切にすることも

必要なかもしれません。

このいくつかの考えは、きれいな環境をつくるということで、空も水もきれいな緑の町をつくるという考えでもあります。

交通ルールを守り、安全歩行、安全運転をするというのは、交通事故を防ぐことが出来るということです。交通事故では、死亡している事故が多いです。ですが、交通ルールをみんなが守れば、このような事故は少なくなると思います。

このように交通事故から子どもやおとしよりを守るには、みんなが正しい交通ルールを身につけることも大切です。

そして、日常生活にスポーツやレクリエーション活動を進んで取り入れ健康な心と体をつくる活動もこれとても大切なことです。スポーツを取り入れ、健康な体をつくるということで熱やかさをひきにくくなるのではないのかと思います。

このような考えを取り入れて生活をするということは、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくることのできるのではないのでしょうか。

子どもやおとしよりをいたわって、親切

にすることはとても大切です。

それに、だれにでもできる親切を自分から進んで実行することも大切なことです。そして、親切にできるということは親切にした人と親しくなつて、知り合いになり仲良く出来ます。仲良くなるのはとても大切だと思っています。

「愛情あふれるまちにするために」

福島市立吾妻中学校

佐々木 萌 恵

私が思う愛情あふれるまちとは、大人から子供まで安全に楽しめ、いつもきれいな福島が愛情あふれていると思います。大人から子供までが安全に楽しめるようになるには、互いに助け合い、公共施設などでは利用ルールを守り怪我なく過ごせることだと思います。いつもきれいな福島であるためには、周りの家庭環境でも花や木で美しくし、みんなが使う道路や公園などもゴミがなくきれいな環境であること。自然豊かな福島を生かし自然を愛し、自然環境を大切にするようにすれば、いつもきれいな福島が実現すると思います。

さらに、交通ルールを守り、安全歩行、安全運転をするために体に身につけること。日常生活にスポーツやレクリエーション活動を取り入れ、健康な心と体をつくる。ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接

すること子供から大人まで仲良くできる福島ができると思います。大事な文化財に理解をもち、大切にし、豊かな人間性と知識を身につける。家庭、学校、地域社会が一体となり子供たちに行き届いた教育をする。

このたくさんのかたちを福島市民が心に留め、ルールを守っていけばいい事ばかりの福島ができると思います。福島の限りないさらなる発展を願いながら、市民一人ひとりが心を合わせ、よりよい福島をつくっていききたいと思いました。平和で、快適で明るく住みやすい希望にみちた福島市をつくるためにも自分でできることを進めていく。福島のよいところを他の市や県にはつくしんしていくためにも、はじめからスタートし、がんばっていききたいと思いました。たくさんさんの自然の中、その自然環境をくずさずゴミのないように声かけなど必要で、大変だとは思いますが、自分たちの身の周りでもできることはやり、福島市民が一体化となりどんなことでもがんばっていききたいです。

空も水もきれいなみどりのまちづくり、

教育と文化を尊び希望に輝くまちづくり、親切で愛情あふれるまちづくり、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちづくり、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくり、この五つを守っていき、平和で、よりよく住めるこの福島市を、みんなの強い力を使い、希望にみちあふれたまちをつくらせていききたいです。郷土福島の限りない発展を願っていききたいです。

「僕に出来る小さな市民憲章」

福島市立吾妻中学校

西坂 洸希

僕は、「福島市民憲章」を、全く知りませんでした。調べてみると、福島市民が、理想として定めたおおもとのきまりで、昭和四十八年四月一日に制定されました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という五つの事です。

僕の住んでいる町には、親切で愛情あふれる人たちが、沢山います。それは、見守り隊の方たちです。小学校の通学路では、

毎朝と下校時に、車が混雑している場所や横断歩道の所で、交通整理をしてくれています。子供たちが、いつも安全に登下校できるように見守っています。

僕が、小学五年生の時帰り道で、突然鼻血を出してしまいました。すると、見守り隊のおじいさんがすぐにかけ寄ってきて、「大丈夫？これを使つてね。」と優しく声をかけてくれて、ハンカチとティッシュを渡してくれました。僕は、おじいさんに、「ありがとうございます。」と言いました。その時ともうれしくて、心があたたかくなりました。登校中に、転んでしまったときも、すぐに、手当てをしてくれてとても助かりました。見守り隊の方は、「いつてらっしゃい。」「今日も暑いね、気をつけてね。」と声をかけてくれます。

その当時は、あたり前だと思っていた事が、実はあたり前ではなく、地域の方々や大人達が、毎日朝早く起きて、ボランティアで、やってくれていることを知り、毎日大変な事なのに、それをずっと続けている事が、僕にとってすごいと思いました。

僕も、これからの生活の中で、見守り隊

の方々を見習っていききたいです。たとえば、学校の奉仕作業では積極的に活動し、学校や、町をきれいにしたいです。

また、小さな子や困っている人がいたら、自分の出来る範囲で助けてあげたいです。僕はこの町が大好きなので、もともと元気な元気で明るい町になってほしいと思っています。そのためにはまずは、自分の出来る事をしていきたいです。

「市民憲章を体感」

福島市立吾妻中学校

佐々木 美 憂

宿題でこのプリントを見るまで福島市民憲章を知らなかった。内容を興味深く読むと当たり前に実行していることも多くあるし、「安全で健康なまち」は普通のことだしよ、と思ったが世界にはそれが普通じゃない地域もあるのでとても大切なことだ。その中で先日家族で行った山登りは「空も水もきれいなみどりのまち」を身をもって体験する良い機会だった。

父の提案で八月十八日土曜日に山登りは決行された。母は仕事だったので、父と小四、小一、そして私の四人でこの山に登るか相談した。数年前に一度訪れたことのある浄土平に行くことに決まり、防寒着を準備し、おやつを買いこんで向かった。妹と父はとてもはりきっていた。家にいてもつまらないから一緒にいくことにした。着いてみると空気がひんやりしてとても

過ごしやすかった。山道に沿って、いろんな話をして時にはみんなで歌を歌いながら登ると意外と早く頂上に着いた。途中でほかの人とすれ違うことがありあいさつした。そして慣れてくるととても楽しくなってきた。頂上につくと、とても見晴らしがよく福島のみちが遠くに小さくみえた。来てよかったな、と思った。山登りは、ただ山に登るだけでなく、家族や仲間のきずなも深まるし、心もリフレッシュでき、体力づくりにも社会性を育むきっかけにもなる。そしてその見晴らしに「空も水もきれいなみどりのまち」を実感することができ。山道が整備され、みんなの協力によってごみなどが捨てられていない。当たり前のように思えるが、しかし、市の管理や一人ひとりの意識が市民憲章を実現させているのだ。

また、私の母は、とても花が好きだ。以前、他県で高速をおりると道路の両脇に花がきれいに植えられており、しばらくそれは続いていたそう。母は「この市は緑化活動に力をいれているんだな」と言っていた。福島市も国内はもとより海外からも注

目され、来県される人も年々増えていることだろう。その方たちにも、花がいっぱいのきれいなまちなんだな、と思ってほしい、住んでいる私たちもきちんと整備されたまちに住みたいと思う。母に聞くと、個人のオープンガーデンや商店街での花いっぱい活動など市の取り組みが多くあるそう。数年後、福島市でソフトボールのオリンピック競技が行われる予定なので、市民で協力してきれいなまちにできたらいいな、と思う。中学生の私にも何かできることを探してみたいと思う。

「私達のまち」

福島市立吾妻中学校

二 瓶 真 緒

私は、今回この作文を書くことになり、初めて「福島市民憲章」について知りました。聞いたときは、「難しい内容なんだろうな」と思いました。けれど、福島市民憲章は市民一人一人が住みやすい町になるようにと作られたと知り、私達にもとても身近なものだと分かりました。

私が特に印象に残ったものは、二つあります。一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。今、世界中ではさまざまな自然に関する問題が起きています。その中の一つの地球温暖化では、排気ガスなどで二酸化炭素が増え、森林が壊れてしまうなどの現象です。私の住んでいる吾妻地区は山もありきれいな川も流れています。普段は、コンビニエンスストアや大きなお店がなく不便だと思っているけれど、このような現象によって、自

然がなくなってしまうたら、とても悲しいです。そのためにも、私達一人一人が福島市の自然を大切にする必要があると思います。

二つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。四月に、学校で交通教室がありました。今までは、「面倒くさい」と思っていました。今いたけれど、あらためて大切な事だと知りました。交通事故に関するニュースもたくさん報道されています。一部の交通ルールを守らない人によって起こる事故で巻き添えになって、けがをしたり亡くなってしまう人も少なくありません。スピード違反や信号無視をしている人を見かけた事もありとても危険だと思います。すべての人が交通ルールを守って安全に運転・歩行をして、交通事故や交通違反がなくなってほしいと思います。

この市民憲章について、希望にみちた明るいまちをつくるためには、とても大切だと思いました。今までの生活を見直してみると、あまり守れていないところもありました。福島市の文化財については、難しく

て分からない事が多いです。これからは、少し意識して生活していきたいです。この作文を書く前までの私と同じように、「福島市民憲章」について知らない人もたくさんいると思います。福島市民として、これからは友達や家族、そしてより多くの人に知ってもらうために、呼びかけなどをして市民憲章を知るきっかけを作っていきたいです。

「社会へと旅立つために」

福島市立飯野中学校

尾 島 健 太

私達全生徒が明るく、そして一生懸命に学ぶために、この飯野中学校では志保井ヶ丘憲法という社会において役立つ一から十条までの心得が記されています。その九条は空白になっており、生徒自身で決める事になっています。

私が入学当時に決めた第九条は「生徒一人一人が笑顔で居る事が出来る明るい学級を作ろう」です。

なぜ、このような九条を選んだのかというと、最近ニュースや新聞記事で「いじめ」が相次いでいます。そのため、被害を受けている生徒は心から笑顔で笑う事は出来なく、たよれる親友もなく落ち込んでいる事でしょう。私はそのような人が笑顔で居る事が出来るようにと第九条を決めました。私は今までの人生で「いじめ」の被害を受けている生徒を何度か見ました。その

時は「やめなよ」という四文字の言葉が言えず、ただ黙って見ていただけでした。その当時の私の気持ちは、そんな事を言ったら逆に私がいじめられるからいやだ、という恐怖心でした。立ちすくんでいる私の背後から「やめなよ」という声が聞こえました。何と勇気のある生徒でしょうか。私の言えなかった言葉を大きな声で言っています。それを何回も。初めは全く相手にしなかった四人組でしたが、二回、三回と回数を重ねるたびに一人、また一人と四人組は減っていく、ついに四人組は去っていくしました。私は、その生徒の行動に心を打たれました。私も自分の意見を主張できる、このような生徒になろうと決心しました。

自分の意見を主張できない場面は誰にでもある事でしょう。しかし、そこで自分の考えを言うことにより、正義感が強い尊敬される人間になれるのです。私は、そのような人間になるのは時間がかかると思いますが、少しずつ修正していく事ですばらしい人間になれると思っています。「生徒一人一人笑顔で居る事が出来る明るい学級を作ろう」私の決めたこの九条を達成できる

ように、どのような場面、そしてどのような状況でも自分の考えた事を主張出来るようなすばらしい人間になりたいです。これから、私が生きていく上で、様々な人々に出会うことでしょう。私は、その中で、自分の意見を主張することで私に友達が増えていくのではないのでしょうか。

この空白の第九条は私にすばらしい考えをもたらしました。私はこれから自分の考えを持ち、生きてゆきたいです。

「私の志保井ヶ丘憲法第九条」

福島市立飯野中学校

朝 倉 ひなた

私の通う飯野中学校には、志保井ヶ丘憲法という飯野中生としての心構えが書かれているものがあります。十条まである志保井ヶ丘憲法の九条は「いじめ」について、自分で考えることになっています。

私の第九条は「人の良いところを見つける」です。

なぜなら、苦手な人に対して、みんな悪いところばかり見つけてしまい、それがいじめにつながる、きつかけになると思ったからです。私は、いじめのない世界を実現させるために、次のようなことに、力をいれていきたいです。一つ目は、いろいろな人と話することです。話してみたら意外と話が合ったり、好きなものがいっしょだったたりして、仲良くなれるんじゃないかと思ったからです。二つ目は、よく観察することです。よく周りを見ていれば、その

人のちょっとした優しさや、良いところを見つけられると思います。三つ目は、普段から人の良いところを見つけるです。人の良いところを見つけることを習慣化させていけば、すぐに良いところを見つけられるのではないでしょうか。四つ目は、人に流されて、人の悪口を言わないです。一回だけでも悪口を言ってしまったら、ほとんどの人は、その後も、ずっと悪口を言い続けてしまうのではないかと思ったからです。なので、周りの人が言っているからと言って、自分まで言うのはやめようと思いました。

世の中、いじめが原因で自殺してしまったというニュースが、ときどきあります。いじめについて、それぞれの学校で話し合ったとしても、なかなか終わりは見えません。例えば直接的ないじめがなくても、影でこそこそ悪口を言ったり、その人が気にしていることを本人の許可もなく、知らない人に言ったり、その本人が気づかないところで、気づかないようにやる、ずるいいじめもあります。「なぜいじめがなくならないのか」私は、学校や、いじめ系の本を

読んで、何度も何度も思ったり、考えたりしたことがあります。私は、よく言われる「いじめている人は、いじめられてる人の気持ちに分からない。」ということに共感していて、人の気持ちを分らない人は、いじめのニュースや話を聞いても、何も思わないんだと思います。なので私は、第九条の「人の良いところを見つける」ことに努力をして、いじめが少しずつでもなくなるようにしていきたいです。

「私の志保井ヶ丘憲法」

福島市立飯野中学校

阿 曾 紗耶香

私の通っている飯野中学校には、十条から成り立っている志保井ヶ丘憲法というものがあります。第一条はあいさつをする、第二条服装を正す、第三条はいねいな言葉遣い、第四条時間厳守など、中学校での生活を送るなかで最も必要なことが志保井ヶ丘憲法というものに書いてあります。その中でも第九条が自分で考えるということになっていて空欄になっています。そしてその第九条では「イジメ」についてのことが最近の問題になっていたのでイジメについて考えると良いと思いました。

私の考えた志保井ヶ丘憲法第九条は、「一人一人仲良くし、仲間を大切に続ける」です。

なぜ「一人一人仲良くし、仲間を大切に続ける」にしたかという理由は二つあります。

一つ目は、「一人一人仲良くし」の部分です。小学校からの友達、知らない友達が中学に入り増えました。私は大久保小だったので、一つの学年九人くらいで少ない学校でしたので複式学級はあったけど組別になることはありませんでした。なので人数が多く仲良くなるのは大変だけど、一人一人仲良くし、なじめない女の子や男の子がいても、自分から仲良くする、話しかけに行くとみんながみんな仲良くなると思ったからです。

二つ目は、「仲間を大切に続ける」の部分です。友達になればのちに仲間になると思うので仲間、友達を大切にすることは大事だと思うし、「し続ける」という文にはこれから中学、高校でもこれから、もっとと大事にする仲間が増えるのでだれにでも、仲良くし続けることがこれから先も大事だと思うからです。

新しいかんきょうになってだれも知らない人もいる、なじめない人もいるのであれば、まず自分から声をかけて、仲良くして、まわりもみんな同じことをすれば、みんなが友達になっていくと思います。そうすれ

ば最初にあったイジメをなくすことも、仲間を大切にすることで、ひやかしなどがなくなると思うしそうすればこれからもっと大切にしたい友達も増えていつて親友となっていくし、私も中学校での生活で、親友と呼べる友達をつくりたいと思うからです。

「一人一人仲良くし、仲間を大切に続ける」ことを身につけるとこれから楽しきたいと思います。

「私の志保井ヶ丘憲法」

福島市立飯野中学校

阿部 夢叶

私の通う飯野中学校には、志保井ヶ丘憲法第九条があります。

私の第九条は「規則正しい生活」です。なぜなら、私はスポーツをやっていて、よくすごい選手は、生活面もしっかりできていないと上達もしないし、練習にも真剣に取り組めないと言っていたからです。私もそうだなと思いました。夜おそくねてねむいまま試合に出ても、集中できなく、いいプレーができないからです。

このようにそれぞれみんなが幸せに暮らせるようにルールがあります。福島市にも福島市民憲章があり、私は、その中から三つを選びました。

一つ目は、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょうです。でも、これは、飯野町はできていると思います。飯野町を見てみると、ゴミはなくみんながちゃんと

きまった場所に捨てていてとてもきれいな町だと思います。緑もたくさんあって春には、桜が咲き町がピンク色に染まり、秋は、もみじやいちじょうの葉が落ちて赤や黄色に地面が染まります。これは、あたりまえのことじゃなくて、地域みんなが努力して築きあげたものなのでこれからも引きついでいきたいと思います。

二つ目は、親切で愛情あふれるまちをつくりましょうです。私は、福島市が親切だなと思ったことがたくさんあります。例えば私が電車に乗った時に席がなく立っていたら、座っていたおじさんが席をゆずってくれました。さりげないおじさんの優しさがすばらしいなと思いました。きっと福島市にも他の県にも日本にもたくさんいるからすごいと思います。私は、そんな大人になりたいです。きっとたくさんの人を笑顔にできるんだろうなと思いました。

三つ目は、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょうです。私は、日々の暮らしで気になることが一つあります。

それは、エスカレーターです。よく買い

物などに行く時に大きなデパートなどは、エスカレーターがあります。その時、みんな乗っていく時は右によつていきます。右は、ゆっくり行く人、左は、いそいでいる人。でも、これはとても危ないことなんです。テレビで左をいそいで下っていた人が右の人にぶつかりケガをさせてしまうかもしれないからです。みんなのことを考えて右によるくらいなら、みんなの安全のために真ん中に立つべきだと思います。私は、真ん中に立っています。この危険さがわかっていいるなら胸を張って真ん中に立てると思います。いそいでいる人にうらまれても、この行動でちよつとでも世界を良くして、と考えると、ほこりに思うと思います。こんな人間がもっと増えれば、もっと幸せが増えると思います。

「努力は素敵」

福島市立飯野中学校

安 齋 望 花

私の通う飯野中学校には、志保井ヶ丘憲法という憲法があります。この憲法は平成十八年度生徒一同より制定された十条の憲法です。そのうちの第九条は自分で必要だと思うものを考え第九条とします。

私が胸に掲げた第九条は、「夢をもち、それに向かって努力する」です。

なぜなら、中学校に入学したということとは未来に一步近づいたということになり、中学生は「高校受験」という大きな壁があります。この大きな壁は、たった一年の努力では簡単には越えられません。毎日毎日、コツコツと少しずつでもその目標に必要な材料を積み重ねていき、それを三年間一生懸命継続していった結果はとても大きなものになります。絶対に乗り越えなければいけない高校受験。中学生としての第一の大きな目標は高校受験です。たし

かに、人によって学力の差は大きいですが、努力の仕方によってその力ののび方は変わっていくのではないのでしょうか。何もしようとしのない人、何か少しでも多くやろうとする人どちらが自分の未来に役立つでしょう。それはもちろん、何か少しでも多くやろうとする人のほうだと私は思います。私がなにかを頑張ろうとしようとする時に胸に掲げる言葉は、「努力は人を裏切らない」です。どうせやっても何も変わらない。自分は無理だ。などという弱音はだれだって言いたくなります。でも今やろうとしていることをやりもせずに結果を自分で決めつけるのではなくその事に挑戦してみろという「チャレンジ精神」も大事だと思います。このチャレンジ精神は夢に向かって努力する前に夢を見つけることに役立つと思います。マイナスに考えずにポジティブに明るく考えれば、夢はきつとすぐに見つかります。夢を見つけたら、次はその夢に向かって努力をして、その夢の実現を目指しましょう。努力をすれば人は変われます。絶対に、不思議なことに。努力のチカラというのは人間を変えるチカラがあります。

す。私は、中学生になった今、自分を変えたいと思いました。自分が今やりたいことは何か、自分が目指すべきものは何なのか。自分でしっかり自覚をし、目標を立てそれにもかって頑張る。頑張る、努力することって素敵だと私は思います。そんな素敵な人になれるように、自分が思い描く最高の自分になれるように私は日々なにかプラスになることをしてこれから一生懸命がんばっていきます。夢を叶えられた人生というのはきつと最高に幸せです。

以上のことから私は「夢をもち、それに向かって努力する」ということを胸に掲げました。努力をして、大きな夢をつかみたいと思います。

「将来のために」

福島市立飯野中学校

荒川 信

私が通う飯野中学校では、志保井ヶ丘憲法があり、第十条まであります。第九条は、自分たちで創ることになっていて、私の第九条は「将来に役立つ学力を身に付ける」です。

理由は、二つあります。一つ目は、将来には、絶対に学力が必要だと考え、又みんなの学力が高くなれば、飯野町、さらに、福島市などの地域が豊かになり、福島県民全員の笑顔が増えると考えたからです。二つ目は、将来私は、陸上自衛隊になるという大きな目標があり、そのためには、高い学力を持つことが絶対必要だと思ったからです。以上の二つの理由から私は、この第九条を創りました。

それを実現するためやらなければならぬものが四つあります。一つ目は、授業に真剣な気持ちで取り組むこと、理解力を高

め、分からないことがあったら辞典などで調べることを大切であると思いました。二つ目は、助け合いです。学力を高めるには、分からない人に教えることや分からないことも教えてもらうことがとても大切だと考え又、教え教えてもらい合うだけの助け合いだけではなく、困っている人に手を差し伸べることや、お年寄りの人にもやさしく接することも大切だと思います。三つ目は、目標を達成するために努力を惜しまないこと、あきらめないこと、が大切であり、自分で限界をつくらずにどんなに辛いことがあっても成し遂げることが大切だと思います。四つ目は、やさしさを持つことです。例えば重い荷物を持っている人がいれば、持ってあげたり、道の分からない人がいたら道を教えてあげるなどの人に感謝されることを進んでやり、この飯野町さらに福島市などの様々な地域がやさしさであふれるようにしたいと思います。以上のことをやり自分の創った九条を達成したいと思っています。

最後に、自分は、この四つのやらなければならぬこと、九条のこと、この五つを

いつまでも忘れずに成し遂げて立派な大人になれるようにしたいと思っています。陸上自衛隊になって辛いことがあっても、四つのやらなければならぬこと、九条のことを思い出し成し遂げたいと思います。そして他の人にやさしく接する人になれるようにし、今の自衛隊のように、被災した人達や、地域の人達、県の人達も助けたいです。又、先生や両親などの願いを成し遂げられるように日々努力を惜しまないように生きていきたいです。

「私が考える『第九条』」

福島市立飯野中学校

大 島 心 実

私が通っている飯野中学校には、「志保井ヶ丘憲法」があります。志保井ヶ丘憲法は、飯野中の生徒として守ることが、一十条まであります。そのなかでの第九条は自分で考えることになっています。私が考えた第九条は、「相手の気持ちを考えて、行動する」です。

理由は、相手の気持ちを考えて行動すればみんながいやな思いをせず、幸せに生活することができると思うからです。そして、私だけではなく、みんなが相手の気持ちを考えると、親切な気持ちをもつようになり、優しい言葉や、態度、行動をとる人がたくさん増えて、幸せで希望に輝くまちをつくることができるのではないかと思います。ここで、私が実際に見かけたことのある、経験したことのある、親切な行動を紹介します。家族で、久しぶりの外出をしました。

私と母で、ある映画を見に行ったときのお話です。ある映画を見てみると、その映画館にはドリンクホルダーが一つしかありませんでした。私の前の席の方はカップの飲み物、ペットボトルの飲み物、ポップコーンを持っていました。手には荷物がいっぱいで大丈夫かと不安でしたが、とりにいた、若い女性の二人組の方々が、

「あ、ここよかったですら使ってください」

と、声をかけ、自分のペットボトルをとっていました。荷物で大変そうだった方も、「いいんですか、ありがとうございます。」と、うれしそうにしていました。私も今のような体験をしたことがあります。親切に接されると、とてもうれしく、心があたたくくなります。実際にこの行動を見ていて、いい人だな、こういう人がもっと増えてくれるといいなと思いました。私も、こういうことがあったら、親切な対応ができるようになりたいです。

このような体験があったので、私は第九条を「相手の気持ちを考えて、行動する」にしました。優しい心をもった人が親切な行動をとることによって、一人、また一人

と相手の気持ちを考えられる人が増えていけばいいなと思います。そして福島市全体の人が親切な心、思いやりのある心、優しい心をもてるようになればいいなと思います。私も自分で決めた「第九条」を、三年間ではなく、これから先もずっと、続けます。

「みんなで創ろう親切なまち」

福島市立飯野中学校

高 槻 華

私が小学生の時のある日のできごとでした。母と電車に乗って出かけるところでした。電車の中は、席があいてなくとても混雑していました。そこに、おばあさんが乗ってきました。おばあさんは、席を探しているように辺りを見渡していました。すると、それに気づいた若い女性が席をゆずっていました。その女性は、明るくにこにこしながらおばあさんに優しく声をかけていました。私は、とても感心しました。自分から進んで声をかけ、おばあさんにとっても親切にしている優しい人だなと思いました。

この時、私は考えました。人に親切にすることは、意外と難しいことなのではないだろうか。簡単にできそうで出来ないことだと思いました。さっきの女性だって声をかけることは簡単じゃなかったのではないのかと思いました。

私は、考えました。一番最初に思いついたのは、相手の気持ちを考えることでした。おそらく、女性はおばあさんがどんな気持ちかを考えそれを行動にしたと思います。おばあさんは、疲れがみでした。それを見た女性は、自分がおばあさんだったら今どんな気持ちかなどを考えたと思います。「はやくいすに座りたい」「座って休みたい」など思っていたと思います。しかし、やはり行動にうつすことはかなり難しいことだと考えました。でも、相手の気持ちを考えれば考えるほど行動にうつすことは勇気を出せばできることだと考えました。行動にうつすことが出来た女性以外の人は、おばあさんの気持ちを考えなかったあるいは、声をかける勇気がなかった、出せなかったなどあると思う中行動できた女性はすごいなと思いました。わたしも、大人になつて電車やバスに乗ることが今よりも多くなると思います。その時は、席をゆずったり女性と同じように明るくにこにこして親切にしたいと思います。

以上のことから、福島市民全員が子どもやおとしよりをいたわり、親切にすること

は相手の気持ちを考えてそれを行動にうつすことが大切だということが分かりました。これは、親切にすることだけではありません。けんかをしてしまったり、相手にプレゼントをする時などもあります。自分勝手な行動ばかりしていると、相手の気持ちを考えることなど出来ません。市民全員がつねに相手の気持ちを考え、親切で愛情あふれるまちを創っていきましょう。

『ポイ捨て禁止』

空気も水もきれいな町」

福島市立飯野中学校

東海林 よつ葉

私が奄美大島から福島に転校して来た時、思わず言っていました。

「なんで、こんなにゴミが落ちているのかな」と。川にペットボトルやふくろなど色んなゴミが落ちていました。「水をきれいに！川を汚すな!!」という看板が立っているのにも関わらず、川にゴミが捨てられているのに本当にびっくりしてしまいました。そこで私はどうしたらゴミを捨てずに、きれいな町をつくれるのか、いくつか考えてみました。

一つ目は、自然を愛することです。むりやり自然を好きになっても、木や花は、全くうれしくないと思います。心から自然を愛することで、木や花の大切さを知ることができるのです。家で、植物を育ててみるなど、自然を愛せる環境をつくっていきま

しょう。

二つ目は、家のまわりや道路、公園、河川をじっくりと見てください。ゴミが一つくらは落ちていると思います。自分が見ているところにゴミが落ちていたら、拾うのは、当たり前ですよ。そんな小さなことでも一人一人が協力し、ごみのないきれいな町にしましょう。

三つ目は、ポイ捨てする心をなくしましょう。そんな悪い心がある人には、

「川にゴミを捨てないで。」

と言っても聞いてはくれませんし、

「水をきれいにしよう。」

という看板が立っていても、目には入りません。悪い心がある人は、もつといけないことをしてしまうかもしれません。悪い心をゼロにして、世界中の人が笑顔に暮らせるようにしましょう。

このように、空も水もきれいなみどりのまちにするには、これだけではありません。ですが、こんな、ささいなことからやらなければ、きれいな町はつくれないのです。たったゴミを見つけたら拾う。捨てている人がいたら注意する。自然を愛する。何度

も言いますが、このことを守ることで地球が救われるのです。

一、まちや職場や家庭を木や花のいっぱいある美しい環境にしよう。

二、家のまわりや道路、公園、河川などをごみのないきれいな環境にしましょう。

三、広く自然を愛し、たいせつにしましょう。

この福島市民憲章を守り、美しく、そしてきれいな、自然あふれる、自然を愛する環境をつくっていきましょう。

「今も未来も笑顔を届ける」

福島市立飯野中学校

三 浦 凜乃亜

私の将来の夢は、料理人か保育士です。私は人を笑顔にできる仕事につきたいです。笑顔は、相手や周りの人、自分にも元気を与えてくれるし、その場が明るくなると思います。みんなが、元気で明るくなると、町もにぎやかになり、助け合うということができると思います。

なぜなら、今もまだ家に帰れない人や復興が進んでいない所もあるからです。その人たちも一緒に笑えば少しでも、明るい未来に進んで行けると思います。私は、何をすることもできませんが、大人になったら、みんなに笑顔を届けていきたいです。その笑顔で元気にしたいです。

例えば、私が料理人になったら、お店を建てて、地元の野菜で作った料理を食べてもらいたいです。その料理を食べて、笑いながら

「おいしい！」

と言ってもらいたいです。私がお客さんを笑顔にすれば、いつもより元気になってくれると思います。地元の野菜を使うことによって、今はもうこんなに野菜などいろいろな物を作ることができるんだと伝えることが出来るし、震災があつたけど、今はこんなにおいしい物を作っているとも伝えることができますというのも良い所です。また、お店を建てる場所も、自然の中に建てたいです。自然の中だといろいろな植物や動物に会えるし、自然豊かな緑色を見てゆったりとした時間を過ごしてもらえれば、気持ちを取りセットして、新しい事に挑戦できると思います。外でもゆったりできるスペースを作れば、木々の間からの日光や、小さな川などの音、鳥たちの鳴き声、こけなどの植物などいろいろな音などを聞いた、見たりすること、その場所を気に入ってもらえれば福島県に住む人が増えると思うし、遊びに来てくれると思います。

以上のことから、私は将来料理人か保育士になって、いろいろな人たちとふれ合っていきたいです。できることを最大限行っ

て、笑わせていきたいです。私たちの笑顔で元気になって、希望を持ったり、未来を見たりしてくれると嬉しいです。私は、笑顔は相手や周りの人、自分にも元気を与えてくれると思います。また、その場も明るくなって町もにぎやかになり、みんなが助け合うことができますと思っています。なので、笑顔でみんなを元気にしていきます。

「忘れられない思い出」

福島成蹊中学校

桑 島 鼓太郎

今から七年半前の平成二十三年三月十一日僕は未曾有の災害を目の当たりにした。「東日本大震災」である。

当時五歳だった僕は家族とショッピングセンターで買い物をしていた。書店で会計の為並んでいると、周囲の人達の携帯電話の警報アラームがけたたましく鳴り響いた。ただならぬ様子に呆然と立ち尽くしている、激しい揺れが始まり、恐怖のあまり父にしがみついた。揺れが収まると外へ避難したが、余震がなかなか収まらず、車を取りに行けずにいた。建物の外は寒く、折しも雪がちらついてきた。すると近くの車の中にいた人が、

「寒いのもよし良かったらお子さん達に使って下さい。」

とブランケットを貸してくれた。両親も僕も妹も皆お礼を言っておき、

まっく温まった。余震も落ち着き、父が屋上の駐車場へ車を取りに行った。その間も僕達に優しい言葉を掛けて下さったり気を配っていただいたりした。あの時に受けた親切は今でも忘れない。いや、一生忘れないだろう。帰りの車の中、両親が話していた。

「あんな地震が起きてしまったら、自分の事で精一杯になるのに、見ず知らずの私達に親切にしてくれた。おかげで子供達も泣いたり騒いだりせず、落ち着きを取り戻せた。」と、とても感謝していた。

「東日本大震災」この大災害は、僕に生まれて初めての恐怖を植え付けたと共に、人の心の温かさを教えてくれた。それ以来、僕は周りの人達に自分でも出来る、ちょっとした親切や気配りを心掛けている。誰にも気付かれなくて良い。周りの人達が気分良く過ごせば良いのだから。

自分の事だけを考えず、相手を思いやる。こうした親切が広まれば、住みやすい、魅力的な街になると思う。

「伝統を守って」

福島成蹊中学校

熊倉愛子

を守っています。こんな霊山太鼓をなくしてはいけないし、お祭りをやって、いろんな人に知れわたり、伝統を守っていけるようにしていきたいと思います。

私の住む伊達市霊山町には、古くから伝わる霊山太鼓というものがあります。この霊山太鼓は、笛の音に合わせて、大太鼓、小太鼓をリズムよくたたくものです。私は、小学四年生のころから習っています。小太鼓から習いますが、なれるまでは難しいです。

毎年八月になると、霊山太鼓祭りという、大きなお祭りがあります。屋台がたくさん並び、毎年たくさんの方がきます。今年は十一万人の人が、この霊山太鼓の演奏を聞きにきました。霊山太鼓の演奏だけでなく、ステージショーや芸能人もきたりなど、いろんなことがあり、とても楽しいお祭りです。

霊山太鼓は約三百五十年を越える歴史のあるものです。その霊山太鼓は、霊山太鼓祭りのようなお祭りをやって、今でも伝統

「ふくしまの水」

福島成蹊中学校

有賀 保乃香

福島市民憲章の一つに「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」というものがあります。これを見て私は、祖父母の住む茂庭を思い浮かべました。

茂庭には、摺上川ダムがあります。小さい頃は、このダムのすぐ下の広瀬公園や川で祖父と一緒に遊んだりしました。ダムでカヌー体験をしたこともあります。母に摺上川ダムの話を聞いてみると、今、ダムがあるところには、いくつかの部落があつて、そこにたくさんの人が住んでいたそうです。母が小学生や中学生の時、ダム建設のために友だちが引っ越し、転校していききました。母はさみしかったです。福島市民の飲み水を確保するために、さみしい思いをした人もいるのだということを知りました。

摺上川ダムは、私たちが生まれた年でも

ある平成十七年に完成しました。母の友だちは「摺上川ダムから水が来るようになった。水道水が冷たくておいしくなった。」と言っていました。実際に摺上川ダムを水源とする福島市の水道水をボトリングしたペットボトル水「ふくしまの水」は、モンドセレクション2018で、二年連続最高金賞を受賞しています。ダム周辺に水源を汚染するような施設がないので、福島市の水はおいしいのです。

「水道水がおいしい」と言い続けられる、きれいな福島の水をこれからも守っていきたいと思います。

「良いことを当たり前」

福島成蹊中学校

齋藤 莉桜

先日、道ばたに空き缶を捨てている人を見ました。最近はそんなことも珍しいことではないのですが、人通りの多い所で堂々と捨てていて、少し驚きました。その人は、当たり前のように何気なくゴミを捨てていたのですが、これが「当たり前」であってはいけないと思います。

道ばたにゴミを捨てるのは、明らかにルール違反です。誰にでも分かることなのに、ゴミのポイ捨ては減りません。一人一人が、自分のゴミを責任を持って処分しなければならぬと思います。「ゴミのポイ捨てによってどんな問題が起きるのか」「もっとたくさんの人に知ってほしいです。このような小さなことからゴミのポイ捨てが減り、川や池などの水もきれいになり、みどりも増えるといいなと思います。」

「ゴミをゴミ箱に捨てる」ということは、

良いことではなく、「当たり前のこと」であるという考え方をみんながするようにしていきたいです。まずは、自分から「ゴミをゴミ箱に捨てる」ということを、「当たり前のこと」にできるようにしたいです。

「わたしたちのふくしま」

福島成蹊中学校

三 瓶 日菜子

今回、福島市民憲章を初めて知って、いろいろ福島の事を考えるきっかけになりました。

五つある憲章の中で、私は二つ考えてみました。

一つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。

私は、毎朝自転車で通学しています。その時いつも感じるのは、福島の人みんなやさしいなあということです。どうしても道が狭くすれ違いができない時は、みんな中学生の私にゆずってくれて、車の運転手さんもたいい止まってくれて、ガラス越しにジェスチャーでどうぞをされます。その時、私は気持ちがとても温かくなります。ちょっとした気遣いや親切がこんなにもうれしいと感じ、今日も一日頑張ろうと思います。だから、私もできる限りだれに

もやさしい態度で接し、笑顔が連鎖していければいいなあと思っています。

二つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。

私が、保育園の時に、東日本大震災がありました。その影響で福島を離れ転校し、小学校の時に転校して、また福島に戻ってきました。その時、強く思ったのは福島にある豊かな自然や果物は、当たり前にあるものではないということです。

私は小学校の時、緑の委員会に所属していました。校庭の中庭に花を植えたり、水やりをしたり、雑草を抜いたり、緑の募金をして花の苗や種を配ったりして、緑の大切さを学びました。そして、緑も空気も人が大事に守っていかなければ保たれないことを改めて実感しました。

私は福島が好きです。これからも福島に住んでいることを誇りに思って、たくさんの人に自慢できるようなまちにしていきたいと思っています。